沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第 112 集

基地内文化財 9

普天間飛行場内試掘調査総括報告書

令和 4（2022）年 3 月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

本報告書は、平成 11 年度から平成 22 年度にかけて沖縄県と宜野湾市が実施した、アメリカ軍普天間飛行場内での試掘調査の成果を総括した報告書です。

普天間飛行場は、宜野湾市のほぼ中央に位置し、市の面積の約 25%にあたる 4.759 ｋ㎡の広さがあります。飛行場は現在も稼動している米軍の基地であるため、試掘可能な範囲は、飛行場全体の約３分の１エリアに限られていますが、試掘坑の総数は 1,850 か所にのぼります。その成果については、沖縄県と宜野湾市が発行してきた８冊の発掘調査報告書にまとめられています。試掘調査がいったん終了した現在は、遺跡の詳細な範囲や内容を調べるための確認調査を実施しております。

本報告書では、これら試掘調査の成果について１冊にまとめる際、沖縄県と宜野湾市で個別に使用していた層序名を統一した上で、試掘坑配置図や試掘調査一覧表を作成しました。また試掘調査一覧表には、可能な限り層序略図を追加することによって、理解を容易にするよう試みました。

本報告書に掲載した遺跡分布図については、平成 21 年度に沖縄県教育委員会と宜野湾市教育委員会が共同で発行した『普天間飛行場内遺跡地図（中間報告）』を元に、その後の調査成果や再検討を加え、最新の情報となるように作成しました。

本報告書が、今後の発掘調査の優先順位や調査範囲、調査深度などを検討する際の基礎資料となることを願っています。また、普天間飛行場の返還を見越して各種の開発工事が計画されていく際に、文化財を保護しつつ、開発工事を円滑に進めていくための基礎資料となることを期待しています。さらに、地域の歴史を理解する際に、資料として活用していただければ幸いです。

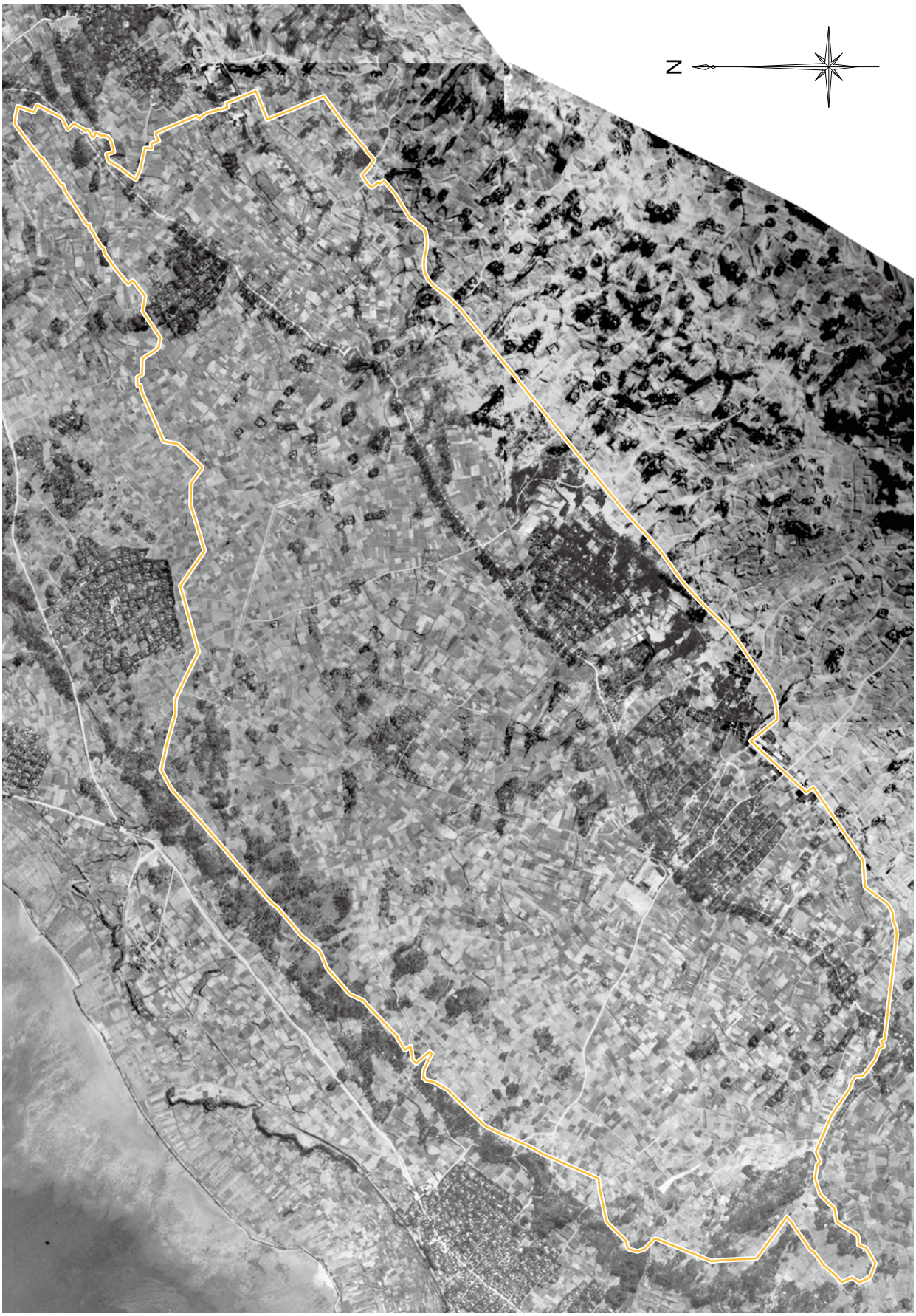
令和４（2022）年３月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所長　　瑞慶覧　勝利

0　500m

（S=1/17000）

巻頭図版１　普天間飛行場の航空写真（令和２年撮影　宜野湾市税務課から提供）



巻頭図版２　米軍撮影の航空写真（オルソ画像　宜野湾市文化課から提供）

例　言

1　本報告書は、平成 11 ～ 22 年度に沖縄県と宜野湾市が行った普天間飛行場内の試掘調査について、その成果を総括したものである。

2　普天間飛行場内の試掘調査は、文化庁より国庫補助を受けて実施している。

3　本報告書に使用した各種のデータは、沖縄県・宜野湾市がこれまで発行してきた発掘調査報告書のデータを基本としている。総括を行う際に、試掘坑の座標値のチェックや、層序の統一、試掘調査一覧表の並べ替えや試掘情報の加筆修正などを行った。

4　本報告書は試掘調査に関する成果が主な内容となっているが、表面踏査・範囲確認調査・記録保存調査等についても触れている。

5　座標値については、日本測地系で表記している。

6　本報告書の執筆・編集は、調査班職員、史跡・埋蔵文化財調査員、埋蔵文化財資料整理員の協力を得て羽方が行った。

7　本報告書を作成するにあたり、下記の機関から資料や情報の提供を受けた。

宜野湾市教育部文化課（試掘成果、図面、写真）
宜野湾市教育部宜野湾市立博物館（試掘成果）
宜野湾市総務部税務課（航空写真）
宜野湾市建設部都市計画課（地形図）

目　次

序、巻頭図版、例言

第１章　調査の概要……1
第１節　調査の目的……1
第２節　調査に至る経緯……1
第３節　調査経過……1
第４節　調査方法……7
第５節　調査体制……9
第６節　本報告書の作成体制……9

第２章　位置と環境……11
第１節　普天間飛行場の位置……11
第２節　自然環境……11
第３節　歴史的環境……17
第４節　普天間飛行場内の遺跡……21

第３章　基本層序……35
第１節　これまでの成果……35
第２節　統一層序……35

第４章　試掘調査……39
第１節　調査成果の概要……39
第２節　試掘地点と遺跡範囲……42
第３節　試掘調査一覧表……123

第５章　その他の調査……251
第１節　範囲確認調査……251
第２節　表面踏査……268
第３節　記録保存調査……274
第４節　旧土地利用再現調査……278
第５節　自然科学分析……278

第６章　考察……292
第１節　旧地形の復元……292
第２節　遺物包含層の変遷……303

第７章　結語……309
第１節　調査成果の概要……309
第２節　今後の課題……309

引用・参考文献……310
報告書抄録

図目次

第 1 図　普天間飛行場における調査実績……5
第 2 図　普天間飛行場地区割……8
第 3 図　宜野湾市と普天間飛行場の位置……12
第 4 図　地形分類図……13
第 5 図　地形断面モデルのライン設定図……13
第 6 図　地形断面モデル……14
第 7 図　地質図……16
第 8 図　土壌図……16
第 9 図　大正 8 年　陸地測量部作成の図面……18
第 10 図　昭和 20 年 測量図……18
第 11 図　昭和 23 年 連合軍作成の図面……19
第 12 図　宜野湾市の大字・小字名……20
第 13 図　普天間飛行場内と周辺の遺跡……25
第 14 図　フテ13－E2－ナ南壁　土層図……36
第 15 図　試掘調査地点……41
第 16 図　試掘坑配置図 ……43～122
第 17 図　範囲確認調査地点……252
第 18 図　表面踏査地点……269
第 19 図　大山･伊佐･喜友名地区の平面図……270
第 20 図　宜野湾シリガーラ流域古墓群……272
第 21 図　記録保存調査地点……275
第 22 図　Ⅰ層の厚さ棒グラフ (厚さ別)……293
第 23 図　Ⅰ層の厚さ棒グラフ (グリット別)……294
第 24 図　Ⅰ層　分布図……295
第 25 図　Ⅰｂ層　分布図……296
第 26 図　基盤層等高線図 ……297～302
第 27 図　Ⅵ層　分布図……304
第 28 図　Ⅴ層　分布図……305
第 29 図　Ⅳ層　分布図……306
第 30 図　Ⅲ層　分布図……307
第 31 図　Ⅱ層　分布図……308

図版目次

図版 1　昭和 20 年 米軍撮影の航空写真 (オルソ画像) ……19
図版 2　現在の宜野湾市 (令和２年撮影)……20
図版 3　フテ13－E2－ナ南壁……36
図版 4　大山富盛原第二遺跡 B1 調査区全景……262
図版 5　喜友名前原第二遺跡……262
図版 6　大謝名軍花原第一遺跡……263
図版 7　大謝名軍花原第二遺跡……263
図版 8　赤道渡呂寒原屋取古集落……264
図版 9　野嵩タマタ原遺跡……264
図版 10　上原同原遺跡……265
図版 11　赤道渡呂寒原洞穴遺跡……265
図版 12　神山同原遺跡……266
図版 13　神山後原ウシナー跡……266
図版 14　神山テラガマ洞穴　洞口…… 267
図版 15　神山テラガマ洞穴遺跡……267
図版 16　神山テラガマ洞穴遺跡で採取された線刻石板 ……267
図版 17　墓 15-7……270
図版 18　洞穴 25-1……271
図版 19　石積み 16-1……271
図版 20　宜野湾シリガーラ流域古墓群……272
図版 21　宜野湾シリガーラ流域古墓群 14 号墓… 273
図版 22　宜野湾シリガーラ流域古墓群 69 号墓内 273
図版 23　宜野湾クシヌウタキ遺跡……276
図版 24　大山岳佐久原遺跡……276
図版 25　上原濡原遺跡……277
図版 26　神山古集落……277

表目次

第 1 表　基地内文化財調査一覧表 (沖縄県)……2
第 2 表　基地内文化財調査一覧表 (宜野湾市)……3
第 3 表　普天間飛行場の文化財調査工程表……4
第 4 表　文献別遺跡一覧表 ……22～24
第 5 表　遺跡一覧表……27～34
第 6 表　各報告書の層序一覧表……37
第 7 表　統一層序一覧表……38
第 8 表　試掘坑の数量一覧表 (年度別)……39
第 9 表　試掘坑の数量一覧表 (グリット別)……40
第 10 表　試掘調査一覧表……124～250
第 11 表　範囲確認調査一覧表……253～261
第 12 表　表面踏査一覧表……268
第 13 表　記録保存調査一覧表……274
第 14 表　自然科学分析　分析試料一覧表…279～284
第 15 表　放射性炭素年代測定結果一覧表…285～291

第１章　調査の概要

第１節　調査の目的

普天間飛行場内の試掘調査の目的は、基地返還前に遺跡の有無を確認することによって、文化財を適切に保護しつつ、基地返還後に予想される大規模な開発事業に対応するための基礎資料を作ることである。

試掘調査によって遺跡が見つかると、遺跡の場所・範囲が地図上に記載され、遺跡分布図が出来上がる。この遺跡分布図を広く一般に公開し、遺跡に関する情報を周知することが、埋蔵文化財行政の責務の一つとなる。

開発事業者が開発を計画する際に、遺跡分布図を参照し、事前に遺跡の有無を知ることができれば、遺跡に抵触しないような場所の選定や、掘削深度の検討などが可能となる。逆に、事前に遺跡の有無がわからず、開発工事を開始した後に偶然遺跡が見つかった場合、工事の一時停止や発掘調査の実施など、想定外の時間や費用がかかることとなる。

このように、遺跡に関する情報を周知し、その重要性についてより多くの人に理解を求めていくことが、遺跡保護と開発行為という、相反する行為を円滑に進めていく際の重要な鍵となる。

これまでに沖縄県と宜野湾市が行ってきた試掘調査の成果については、調査報告書として随時刊行され公表されてきた。本報告書の目的は、これまで刊行されてきた調査報告書の成果を集約し、検討を加えることによって、今後の調査や開発を進めていく際の基礎資料とすることである。

第２節　調査に至る経緯

昭和 20 年に終結した太平洋戦争の際、地上戦の場となった沖縄県は、壊滅的な打撃を受けた。戦後は米軍の占領下に置かれ、各地に米軍の基地が建設された。

平成８年 12 月２日の日米安全保障協議委員会（ＳＣＣ）では、「沖縄に関する特別行動委員会」（ＳＡＣＯ）の最終報告において、普天間飛行場を含む 11 施設・区域の返還が合意された。

これを受けて、平成 11 年 12 月 28 日に「普天間飛行場の移設に係る政府方針」が閣議決定された。その後、平成 12 年５月からは国・沖縄県・宜野湾市の三者により「跡地対策準備協議会」が構成され、返還跡地利用の再開発事業と文化財保護を円滑に推進していくこととなった。

沖縄県では、平成９年から県内の米軍基地・自衛隊基地の中にある文化財の分布状況を把握するための調査を継続して行っており、平成 11 年度からは普天間飛行場内の試掘調査に着手した。

宜野湾市でも平成 13 年度から普天間飛行場内の試掘調査に着手した。

第３節　調査経過

平成 11 年度に普天間飛行場内の試掘調査が開始され、平成 22 年度までに 1,850 か所の調査が沖縄県と宜野湾市によって行われた。また、試掘調査の成果については、平成 25 年度までに調査報告書として随時刊行されている。

普天間飛行場は現在も稼働している基地であるため、滑走路や各種建物がある場所を調査対象から除き、さらに米軍の活動に支障がない場所を選んで調査を行った。

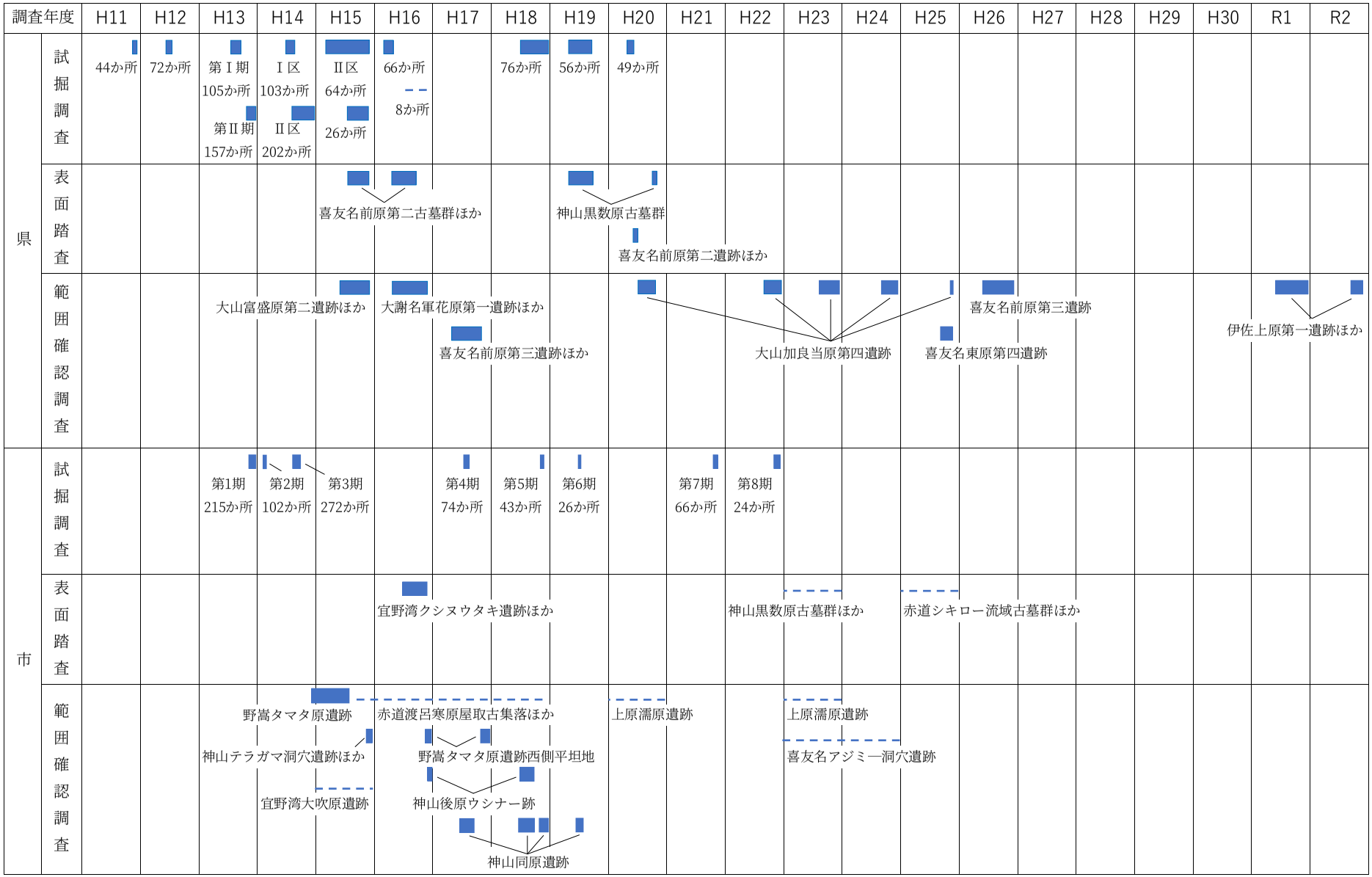
第１表　基地内文化財調査一覧表（沖縄県）

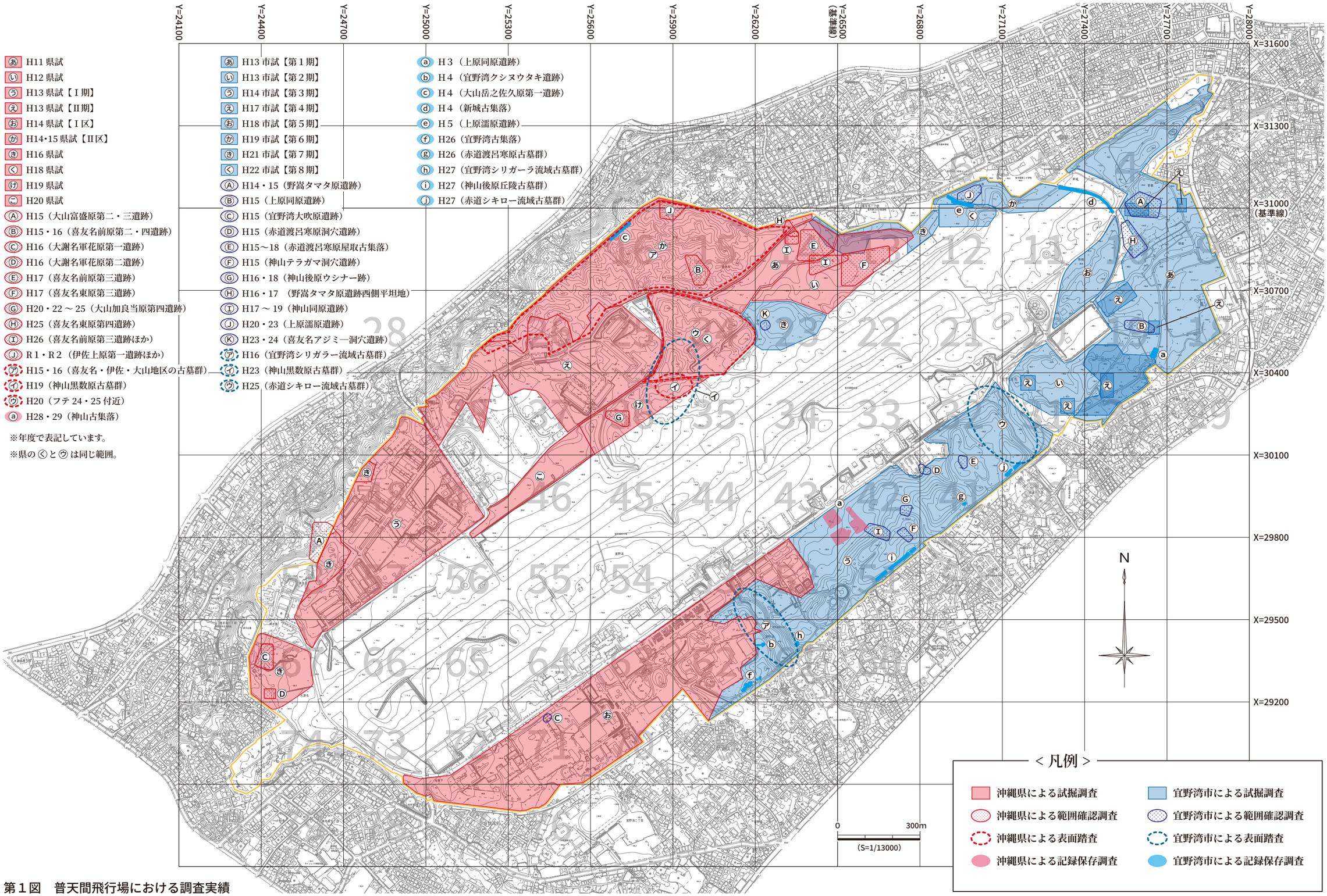
番号	調査年度	調査内容
1	平成9	・『基地内文化財Ⅰ』発行
2	平成10	・3月2日～3月16日　キャンプ瑞慶覧の試掘調査　59か所(県・基地内Ⅱ)
3	平成11	・2月16日.17日　キャンプ瑞慶覧の試掘調査　6か所(県・基地内Ⅱ) ・2月16日～3月7日　普天間飛行場の試掘調査　44か所 (県・基地内Ⅱ)
4	平成12	・9月14日～10月19日　普天間飛行場の試掘調査　72か所(県・基地内Ⅱ)
5	平成13	・10月16日～12月17日　第Ⅰ期　試掘調査　105か所(県・基地内Ⅱ) ・1月22日～3月31日　　第Ⅱ期　試掘調査　157か所(県・基地内Ⅱ) ・『基地内文化財Ⅱ』発行
6	平成14	・9月30日～11月20日　普天間飛行場の試掘調査　Ⅰ区　103か所(県・基地内Ⅲ) ・11月1日～3月31日　普天間飛行場の試掘調査　Ⅱ区　202か所(県・基地内Ⅲ)
7	平成15	・6月2日～2月27日　普天間飛行場の試掘調査　Ⅱ区　64か所(県・基地内Ⅲ) ・9月1日～2月27日　大山富盛原第二遺跡、大山富盛原第三遺跡、喜友名前原第二遺跡・喜友名前原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内Ⅳ) ・10月15日～2月14日　試掘調査　26か所(県・基地内Ⅳ) ・10月21日～2月23日　喜友名・伊佐・大山地区の古墓群表面踏査(県・基地内Ⅳ) ・『基地内文化財Ⅲ』発行
8	平成16	・6月～7月　試掘調査　66か所・10月～2月　試掘調査　8か所(県・基地内Ⅳ) ・7月20日～12月16日　喜友名・伊佐・大山地区の古墓群表面踏査(県・基地内Ⅳ) ・7月21日～11月1日　大謝名軍花原第一遺跡の範囲確認調査(県・基地内Ⅳ) ・9月8日～2月28日　大謝名軍花原第二遺跡の範囲確認調査(県・基地内Ⅳ) ・12月17日～2月28日　喜友名前原第二遺跡・喜友名前原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内Ⅳ)
9	平成17	・8月1日～1月31日　喜友名前原第三遺跡・喜友名東原第三遺跡の範囲確認調査(県・基地内5) ・『基地内文化財Ⅳ』発行
10	平成18	・10月2日～3月30日　普天間飛行場の試掘調査　76か所(県・基地内6)
11	平成19	・8月1日～12月21日　普天間飛行場の試掘調査　56か所(県・基地内6) ・8月1日～12月28日　神山黒数原古墓群の表面踏査(県・基地内７)
12	平成20	・8月1日～9月9日　普天間飛行場の試掘調査　49か所(県・基地内6) ・9月12日～10月3日　フテ24-E1～H5他で発見された古墓群の表面踏査(県・基地内6) ・10月8日～１月28日　大山加良当原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内7) ・1月6日～2月5日　フテ24・25付近の表面踏査(県・基地内7)
13	平成21	・伐採と動植物調査の範囲設定(県・基地内7) ・『普天間飛行場内遺跡地図（中間報告）』発行
14	平成22	・12月1日 ～3月28日　大山加良当原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内7) ・『基地内文化財５』発行
15	平成23	・11月15日～3月23日　大山加良当原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内7)
16	平成24	・12月10日～3月21日　大山加良当原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内7)
17	平成25	・12月10日～2月24日　喜友名東原第四遺跡の範囲確認調査(未報告) ・2月19日～2月28日　大山加良当原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内7) ・『基地内文化財６』発行
18	平成26	・9月1日～3月13日　喜友名前原第三遺跡の範囲確認調査(未報告) ・『基地内文化財７』発行
19	平成27	・6月29日～10月8日　キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地区)の試掘調査　試掘　94か所　トレンチ1箇所 ・11月30日～1月29日　キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地)の確認調査　トレンチ4箇所
20	平成28	・7月1日～9月4日　キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地)の試掘調査　試掘40か所 ・9月5日～12月9日　キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地)の確認調査　トレンチ4箇所 ・3月16日～平成29年8月17日　神山古集落の記録保存調査(県・文化財99)
21	平成29	・『基地内文化財８』発行
22	平成30	・『神山古集落』発行
23	令和元	・9月～3月　伊佐上原第一遺跡・伊佐上原南遺跡の範囲確認調査(未報告)
24	令和2	・12月15日～2月28日　伊佐上原第一遺跡・伊佐上原南遺跡の範囲確認調査(未報告)

第２表　基地内文化財調査一覧表（宜野湾市）

番号	調査年度	調査内容
1	平成3	・8月5日～9月10日　上原同原遺跡の記録保存調査(市・文化財16)
2	平成4	・9月1日～10月30日　宜野湾クシヌウタキ遺跡の記録保存調査(市・文化財20・25) ・10月1日～3月31日　大山岳之佐久原第一遺跡・新城古集落の記録保存調査(市・文化財21)
3	平成5	・7月19日～12月25日　上原濡原遺跡の記録保存調査(市・保護資料43)
4	平成6～12	省略
5	平成13	・2月6日～3月31日　普天間飛行場 第1期　試掘調査　215か所(市・基地内Ⅰ)
6	平成14	・5月14日～5月30日　普天間飛行場 第2期　試掘調査　102か所(市・基地内Ⅰ) ・11月5日～12月27日　普天間飛行場 第3期　試掘調査　272か所(市・基地内Ⅰ) ・3月13日～平成15年10月　野嵩タマタ原遺跡の範囲確認調査(市・基地内Ⅱ)
7	平成15	・1月5日～平成19年2月28日　赤道渡呂寒原屋取古集落の範囲確認調査(市・基地内Ⅲ) ・2月25日～平成17年11月30日　上原同原遺跡の範囲確認調査(市・基地内Ⅱ) ・2月24日～3月29日 神山テラガマ洞穴遺跡の範囲確認調査(市・基地内Ⅳ) ・3月2日～3月29日　赤道渡呂寒原洞穴遺跡の範囲確認調査(市・基地内Ⅲ) ・宜野湾大吹原遺跡の範囲確認調査(未報告)
8	平成16	・2月25日～3月　野嵩タマタ原遺跡西側平坦地の範囲確認調査(市・基地内Ⅲ) ・10月～2月　宜野湾クシヌウタキ遺跡・宜野湾ヌールガー・宜野湾シリガーラ流域古墓群・宜野湾カニクェーウマヌヤ一跡の表面踏査(市・基地内Ⅲ) ・3月　神山後原ウシナー跡の範囲確認調査(市・基地内Ⅳ) ・3月12日～　神山同原遺跡　伐採・磁気探査(市・基地内Ⅳ) ・『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』発行
9	平成17	・2月～3月31日　野嵩タマタ原遺跡西側平坦地の範囲確認調査(市・基地内Ⅲ) ・9月26日～12月19日　神山同原遺跡の範囲確認調査(市・基地内Ⅳ) ・10月24日～11月22日 普天間飛行場 第4期　試掘調査　74か所(市・基地内Ⅱ) ・『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』発行
10	平成18	・9月27日～年末、2月1日～年度末　神山同原遺跡の範囲確認調査(市・基地内Ⅳ) ・10月～12月27日　神山後原ウシナー跡の範囲確認調査(市・基地内Ⅳ) ・2月13日～2月26日　普天間飛行場 第5期　試掘調査　43か所(市・基地内Ⅴ) ・『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』発行
11	平成19	・9月19日～10月31日　神山同原遺跡の範囲確認調査(市・基地内Ⅳ) ・10月1日～10月12日　普天間飛行場 第6期　試掘調査　26か所(市・基地内Ⅴ) ・『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』発行
12	平成20	・上原濡原遺跡の範囲確認調査(未報告) ・『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』発行
13	平成21	・1月25日～2月16日　普天間飛行場 第7期　試掘調査　66か所(市・基地内6) ・『普天間飛行場内遺跡地図（中間報告）』発行
14	平成22	・2月10日～3月16日　普天間飛行場 第8期　試掘調査　24か所(市・基地内6)
15	平成23	・神山黒数原古墓群・神山黒数原第二遺跡の表面踏査(未報告) ・上原濡原遺跡の範囲確認調査(未報告) ・喜友名アジミー洞穴遺跡の範囲確認調査(未報告)
16	平成24	・喜友名アジミー洞穴遺跡の範囲確認調査(未報告) ・『基地内埋蔵文化財調査報告書６』発行
17	平成25	・赤道シキロー流域古墓群・赤道渡呂寒原古墓群・中原同原遺跡の表面踏査(未報告) ・『宜野湾市文化財情報図〔平成25年度版〕』発行
18	平成26	・8月15日～22日、2月末～　キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地区)の試掘調査　70か所(市・基地内7) ・9月26日～3月30日　普天間飛行場巡回道路移設予定地の試掘　54か所(市・文化財55) ・1月19～3月30日　宜野湾古集落・赤道渡呂寒原古墓群の記録保存調査(市・文化財55)
19	平成27	・7月～2月　キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地区)の試掘　195か所 ・9月17～1月22日　宜野湾シリガーラ流域古墓群・神山後原丘陵古墓群・赤道シキロー流域古墓群の記録保存調査(市・文化財55)
20	平成28	・『普天間飛行場地区埋蔵文化財発掘調査報告書』発行
21	平成30	・『基地内埋蔵文化財調査報告書７』発行
22	令和元	・『宜野湾市文化財情報図〔令和元年度版〕』発行

第３表　普天間飛行場の文化財調査工程表





第１図　普天間飛行場における調査実績

第４節　調査方法

（１）事務手続き

米軍の基地内で調査を行うため、各種の申請が必要となる。最初に必要となるのが、基地内に入るために必要な立入許可申請である。調査開始当初は、県・市が直接米軍に申請していたが、平成27年９月28日に日米両政府間で「環境補足協定」が締結されたため、それ以降は沖縄防衛局を通して申請することとなった。これに伴い、申請が許可されると同時に現地協定を結び、調査計画書を提出することとなった。

次に、実際に基地内に入る職員のパスを申請する。まず、個人情報を確認するために、所定の申請書・本人確認証・住民票を提出し、米軍の承認を得る必要がある。これをバックグラウンドレコードチェック（ＢＲＣ）と呼ぶ。その後、パス申請書にこれらの承認書類を添付して申請する。

パスの申請と同時並行で、現場事務所設置、電気水道等の使用、掘削など各種の作業ごとに申請を行う。

現地調査が終了したら、調査概要報告を提出し、次年度の立入許可申請を行う。

（２）グリッド設定

沖縄県と宜野湾市が調整を行い、大・中・小３段階のグリッドを設定した。

第Ⅰ区画は、300ｍ四方のグリッドで、普天間飛行場を80に区分して通し番号を付けた。普天間飛行場の「フテ」と通し番号を組み合わせて、「フテ36」のように表記する。

第Ⅱ区画は、30ｍ四方のグリッドで、第Ⅰ区画を100等分した。北東を起点として東西軸に１～10の数字、南北軸にＡ～Ｊのアルファベットを付けて、「Ａ１」のように表記する。

第Ⅲ区画は、６ｍ四方のグリッドで、第Ⅱ区画を25等分した。ア～ノのカタカナ25文字で表記する。

試掘箇所を設定する場合、第Ⅱ区画の北東隅を基点として30ｍ間隔で設定した。ただし、建物や地下埋設物などの障害物があった場合、適宜平行移動して設定した。試掘坑は、「フテ36－Ａ１－ア」のように表記する。

（３）環境整備

調査区内に稀少な動植物が存在するかどうかを調べる環境調査を行い、それらに配慮して伐採作業を行う。また、地下埋設物（電気・水道・通信・下水道など）の有無について米軍に照会し、埋設物を避けて試掘箇所を設定する。

試掘箇所が決まったら測量を行い、基準杭を設置する。その後、不発弾の有無を確認するための磁気探査（表層探査）を行う。

（４）掘削

掘削は、基本的に重機を使って４ｍ四方を掘削するが、障害物や高低差がある場合など重機を使用できない場合は、２ｍ四方を人力で掘削する。掘削深度が0.5ｍ以上となる場合は、0.5ｍ毎に磁気探査（経層探査）を行う。

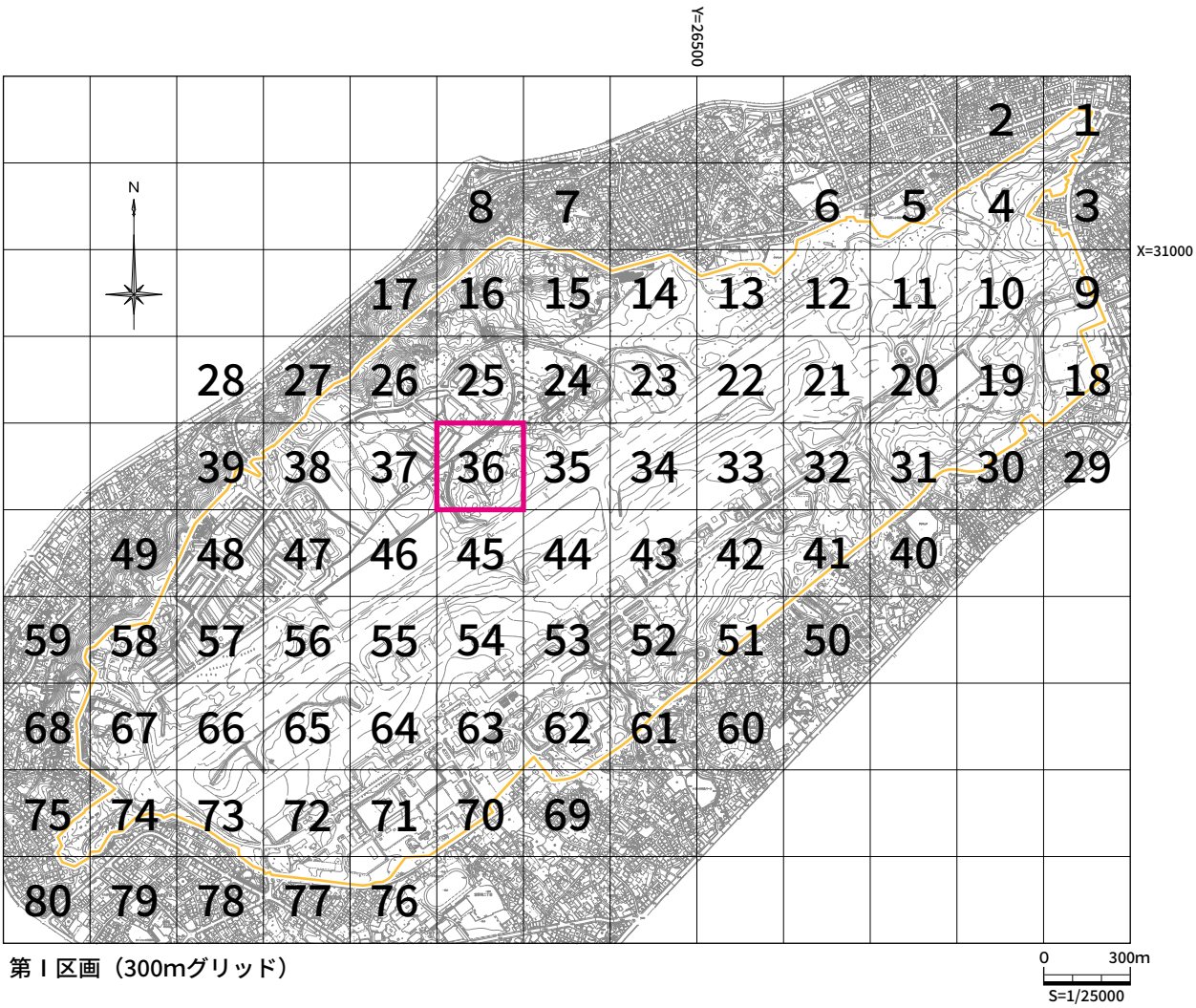
掘削は、基盤層（石灰岩や泥岩）が確認できるまで行うが、遺構が見つかった場合は掘り下げをいったんストップし、壁面と遺構面の清掃を行う。その後は、必要に応じて部分的に掘り下げる。

（５）記録

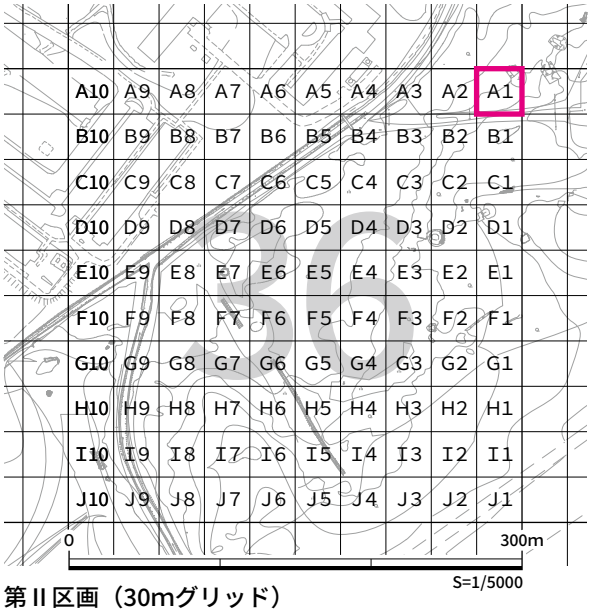
壁面の分層等を行い、写真撮影や実測、観察所見の記載を行う。また、必要に応じて分析試料を採取する。

（６）現状復旧

記録作業が終わったら、速やかに埋め戻しを行い、掘削前の状態に戻す。



第Ⅰ区画（300mグリッド）



第Ⅱ区画（30mグリッド）

第Ⅲ区画（６mグリッド）

第２図　普天間飛行場地区割

第５節　調査体制

（１）調査エリアの分担

沖縄県と宜野湾市で調整を行った結果、普天間飛行場の滑走路の北側の調査を主に沖縄県が行い、南側を主に宜野湾市が行うこととなった。

（２）沖縄県の体制（平成 11 ～ 25 年度）

事業主体　沖縄県教育委員会

事業所管　沖縄県教育庁文化課　文化係、
埋蔵文化財係（平成 11 年度）
沖縄県教育庁文化課　文化係、
記念物係（平成 12 ～ 18 年度）
沖縄県教育庁文化課　文化班、
記念物班（平成 19 ～ 22 年度）
沖縄県教育庁文化財課　管理班、
記念物班（平成 23 ～ 25 年度）

事業実施　沖縄県教育庁文化課　文化班、
記念物班（平成 11 年度）
沖縄県立埋蔵文化財センター
庶務課、調査課（平成 12 ～ 19 年度）
沖縄県立埋蔵文化財センター
総務班、調査班（平成 20 ～ 25 年度）

（３）宜野湾市の体制（平成 13 ～ 24 年度）

事業主体　宜野湾市教育委員会

事業総括　宜野湾市教育部文化課

事業実施　宜野湾市教育部文化課　文化財保護係

第６節　本報告書の作成体制

（１）平成 30 年度（資料整理）

事業主体　沖縄県教育委員会
教育長　平敷昭人

事業所管　沖縄県教育庁文化財課
課長　濱口寿夫
記念物班　班長　仲座久宜
主任専門員　羽方誠
主任　宮城淳一

事業実施　沖縄県立埋蔵文化財センター
所長　登川安政
総務班　班長　比嘉智博
主幹　大城喜信
調査班　班長　中山晋
主任専門員　新垣力
主任　大堀皓平
史跡・埋蔵文化財調査員
太田樹也、小橋川里江、城間宏次郎、平良和輝、根間翔吾
埋蔵文化財資料整理員
赤嶺雅子、安里メグ、池宮城聡子、伊藤恵美利、具志みどり、崎原美智子、島仲美香、下地勝恵、多々良亜矢子、知花香織、手嶋永子、富平砂綾子、比嘉なおみ、嶺井幸恵、宮城初枝、宮里美也子、宮平笑里子
事務補助
宇座友香、大城香、喜瀬美由紀、小橋川久美子、古見晶子、照屋美奈子、平安緑、石橋英子

（２）令和元年度（資料整理）

事業主体　沖縄県教育委員会
教育長　平敷昭人

事業所管　沖縄県教育庁文化財課
課長　濱口寿夫
記念物班　班長　仲座久宜
主任専門員　羽方誠
主任　宮城淳一

事業実施　沖縄県立埋蔵文化財センター
所長　城田久嗣
副参事　真栄田義光
総務班　班長　池田みき子
主幹　大城善信
調査班　班長　中山晋
主任専門員　新垣力
主任　大堀皓平

史跡・埋蔵文化財調査員
城間宏次郎、佐藤悠介、比嘉菜々恵、
小橋川里江、平良和輝、波照間紗希
島袋桃子、平松司睦
埋蔵文化財資料整理員
島仲美香、下地勝恵、玉城実子、
具志みどり、嶺井幸恵、
多々良亜矢子、安次嶺沙織、
安里メグ、富山由貴、渡慶次学、
伊禮若奈、赤嶺雅子、伊藤恵美利、
玉那覇美野、松田仁美、又吉純子、
平良貴子、小波津由加里、嘉数渚、
宮城かの子、仲間文香、崎原美智子、
狩俣由利
事務補助
宇座友香、佐久眞洋子、東仲千夏、
喜瀬美由紀、小橋川久美子、
辺土名祐佳

（３）令和２年度（資料整理）

事業主体　沖縄県教育委員会
教育長　金城弘昌
事業所管　沖縄県教育庁文化財課
課長　諸見友重
記念物班　班長　仲座久宜
主任　大堀皓平、宮城淳一
事業実施　沖縄県立埋蔵文化財センター
所長　瑞慶覧勝利
副参事　真栄田義光
総務班　班長　池田みき子
主幹　大城善信
調査班　班長　中山晋
主任専門員　知念隆博、羽方誠
主任　金城貴子
史跡・埋蔵文化財調査員
佐藤悠介、城間宏次郎、田辺博明、
比嘉菜々恵、比嘉玲奈
埋蔵文化財資料整理員
上原園子、小渡直子、嘉数渚、
儀間真章、具志みどり、工藤孝美、
下地麻利恵、富平砂綾子、富山由貴、
嶺井幸恵、宮城かの子、宮城初枝、
玉城実子、赤嶺雅子、伊藤恵美利、
玉那覇美野、松田仁美、又吉純子、
平良貴子、小波津由加里、
島袋久美子、伊禮若菜
事務補助
伊波みゆき、喜瀬美由紀、
小橋川久美子、福地結子

（４）令和３年度（資料整理、報告書作成）

事業主体　沖縄県教育委員会
教育長　金城弘昌
事業所管　沖縄県教育庁文化財課
課長　諸見友重
記念物班　班長　仲座久宜
主任　大堀皓平、金城貴子
事業実施　沖縄県立埋蔵文化財センター
所長　瑞慶覧勝利
総務班　班長　池田みき子
主査　渡久山盛之
調査班　班長　中山晋
主幹　知念隆博
主任専門員　羽方誠
専門員　廣岡凌
専門員 (臨時的任用職員) 城間宏次郎
史跡・埋蔵文化財調査員
城間宏次郎、比嘉菜々恵、
比嘉玲奈、メレン千穂
埋蔵文化財資料整理員
上原園子、小渡直子、嘉数渚、
工藤孝美、當山由貴、宮城かの子
事務補助
伊波みゆき、喜瀬美由紀、
小橋川久美子、福地結子

第２章　位置と環境

第１節　普天間飛行場の位置

普天間飛行場がある宜野湾市は、沖縄島中部の西側に位置する。北東－南西方向に長軸を持つ略台形で、宜野湾市の北側は北谷町と北中城村、東側は中城村、南側は西原町･浦添市と接している。

普天間飛行場は宜野湾市のほぼ中央にあり、海岸段丘の平坦地を利用して建設されている。宜野湾市の面積が 19.8 ㎢であるのに対し、普天間飛行場の面積は 4.759 ㎢となっており、市の面積の４分の１を占める。

第２節　自然環境

（１）地形

宜野湾市の地形・地質に関しては、『宜野湾市史　第９巻　資料編８ 自然』に詳しく記載されているため、引用しながら記述する（上原 2000）。

宜野湾市の地形は、西側の海浜や海岸低地と、そこから続く３段の海岸段丘から成っているため、大きく４つの平坦面に分けることができる。また各平坦面の境には、海岸段丘崖などがあり 10 m以上の高低差がある。ここでは標高の低いほうから、第１面、第２面…と呼ぶ。

第１面は、標高 30 m以下の海浜・埋め立て地・海岸低地で、国道 58 号線宜野湾バイパスが通っている一帯である。

第２面は、標高 30 ～ 40 mで、国道 58 号線が通っている一帯である。

第３面は、標高 50 ～ 90 mで、４つの平坦面の中で最も面積が広い。普天間飛行場やキャンプ瑞慶覧がその大部分を占めている。『宜野湾市』では、第２面と第３面を分ける段丘崖の所々に存在する平坦面について指摘しているが、他の段丘面より範囲が狭いため、ここでは平坦面としては数えていない。

第４面は、標高 90m 以上で、国道 330 号線が通っている一帯である。この面は、南東－北西方向に走る谷やくぼ地によって、細かく分断されいる。

普天間飛行場は主に第３面を利用して建設されているが、第４面とそこから第３面へと続く丘陵斜面も取り込んで建設されているため、全体ではかなりの高低差がある。

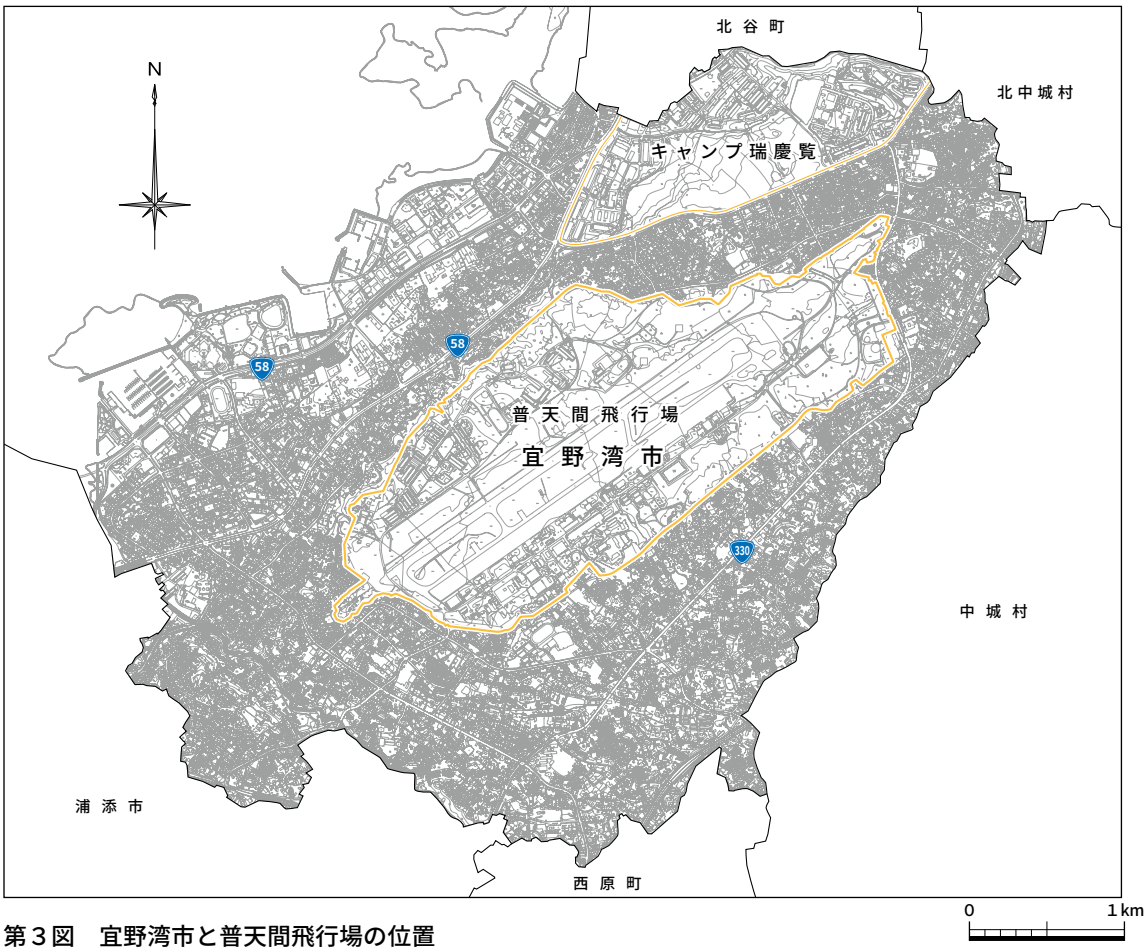
（２）地質・土壌

宜野湾市に分布する最も古い地層は新生代第三紀中新世（約 1000 万年前）から新生代第四紀更新世前期（約 150 万年前）に海底で堆積した島尻層群である。この島尻層群を不整合に覆って第四紀更新世中期（60 ～ 20 万年前）の琉球層群が分布している。最も新しい地層は、海岸低地や谷底低地などに分布する沖積層で、１万年前から現在までの完新世（沖積世）に堆積した。

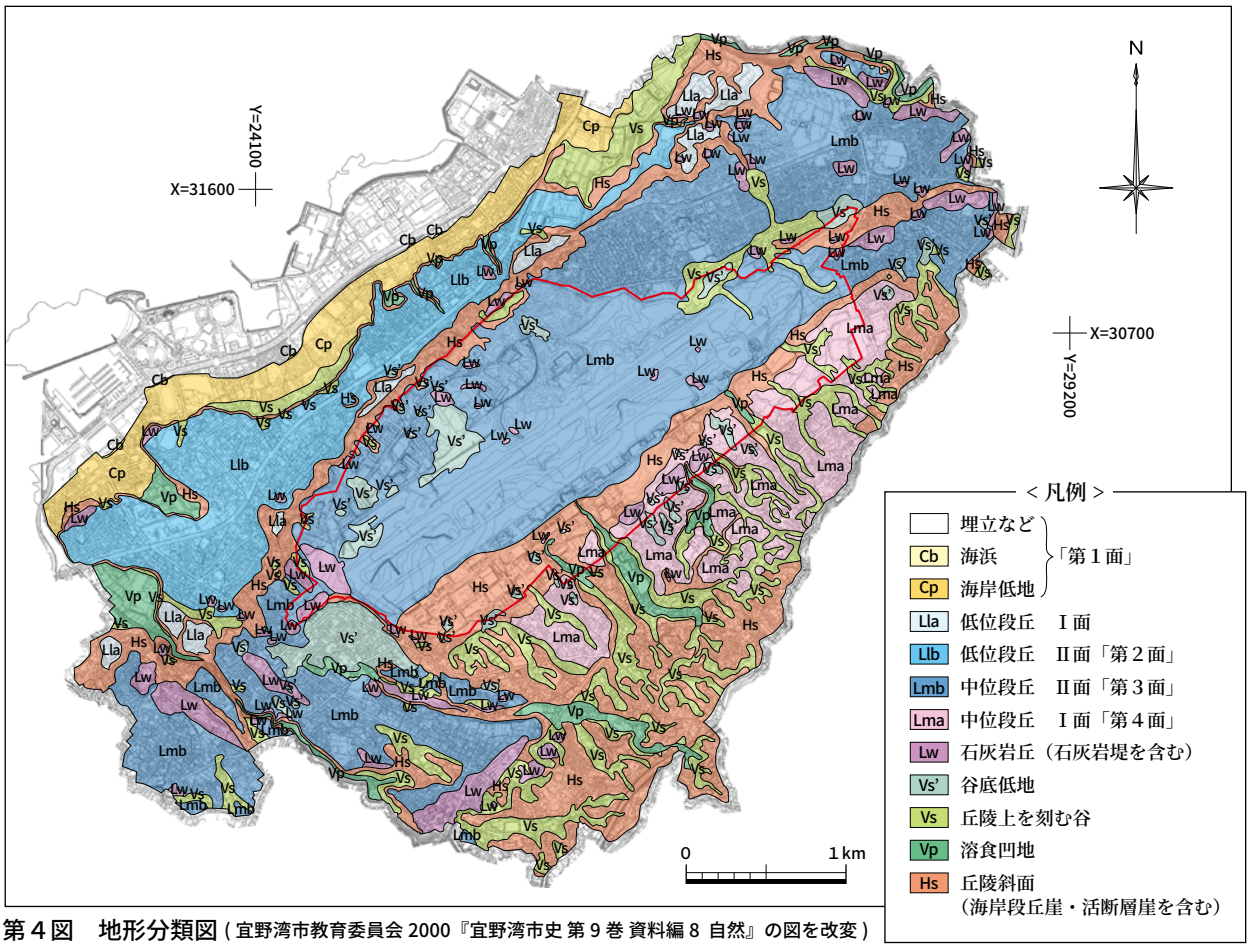
島尻層群は、国道 330 号線周辺を中心に分布しており、丘陵の地形をつくっている。また、鍾乳洞や川岸、市域西側の低位段丘崖沿いにも露出している。島尻層群は､下位（古い）から上位（新しい）へ豊見城層・与那原層・新里層の３層に細分されている。これら３層のうち、宜野湾市に分布するのは与那原層である。

島尻層群は、灰色の泥岩と茶褐色の砂岩から構成されている。沖縄では、泥岩をクチャ、砂岩をニービと呼ぶことが多い。宜野湾市の島尻層群は泥岩を主体とするが、普天間川左岸や愛知の宜野湾小学校付近などには砂岩が露出している。新鮮な泥岩は比較的硬く締まっているが、風雨にさらされると急速に風化が進み軟らかくなる。一般に風化した泥岩をジャーガル、風化した砂岩をウジマと呼ぶ。

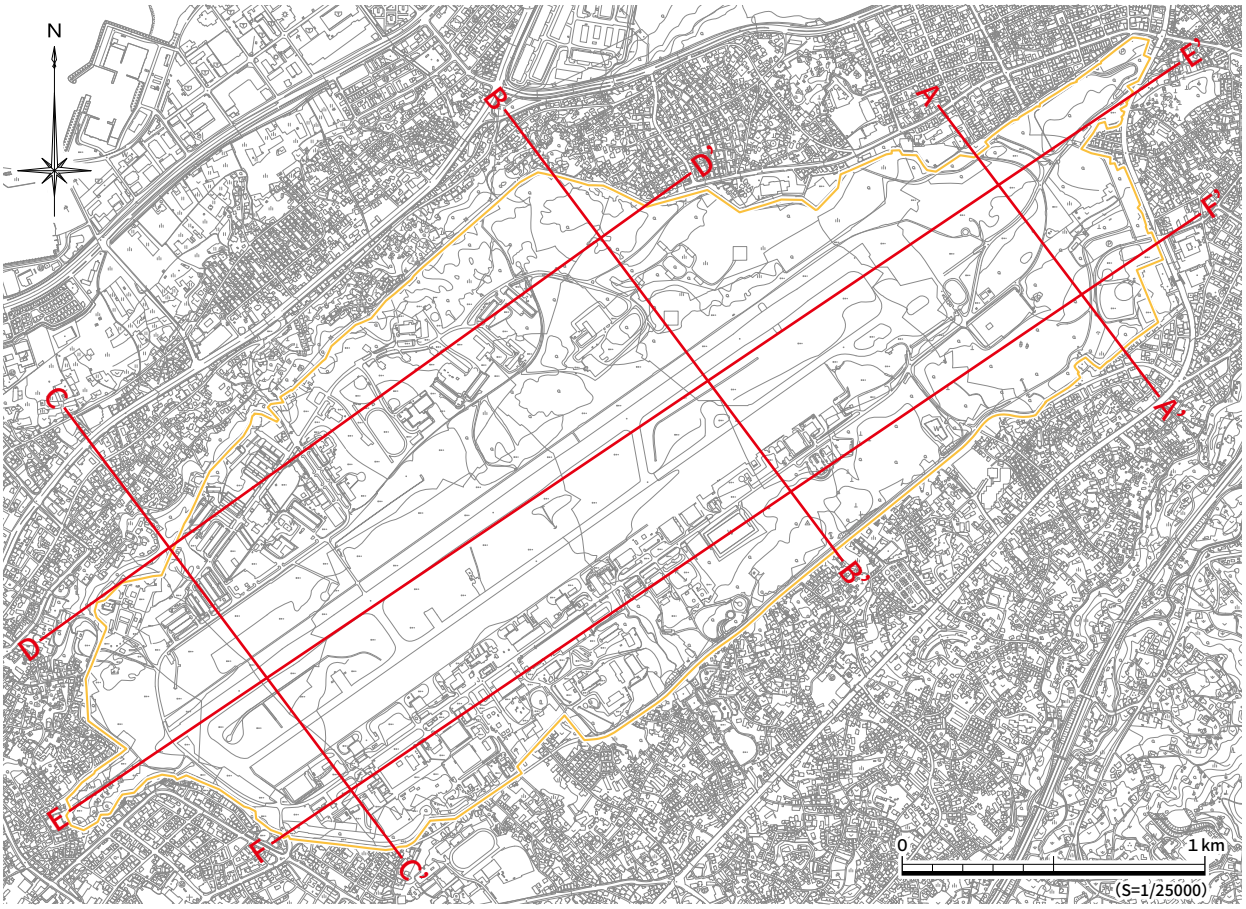
島尻層群の表面は地表部で起伏にとんでいるが、鍾乳洞で観察されるように琉球石灰岩との不整合面は、北西－南東方向に延びる谷になっているようである。このことは、島尻層群が堆積したのちに、いったん隆起して陸地化したことを示す。陸地化している間に浸食によって谷が形成されたと考えられる。その後、再び島尻層群は海中に沈み、琉球石灰岩が上に堆積することになる。



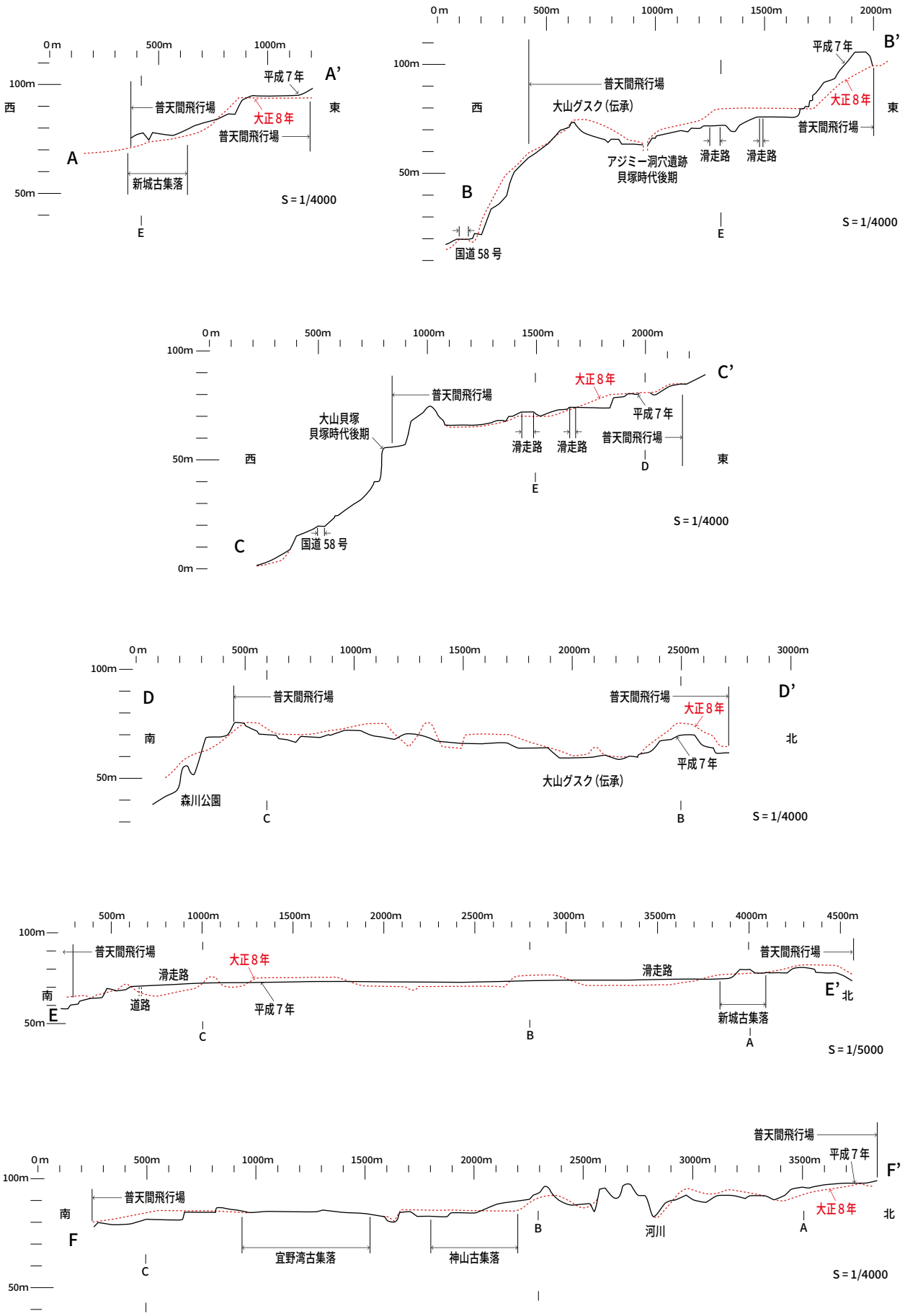
第３図　宜野湾市と普天間飛行場の位置



第４図　地形分類図（宜野湾市教育委員会 2000『宜野湾市史 第９巻 資料編８ 自然』の図を改変）



第５図　地形断面モデルのライン設定図（沖縄県教育委員会 2002『普天間飛行場内埋蔵文化財調査実施計画（中間報告）』を改変）



第６図　地形断面モデル（沖縄県教育委員会 2002『普天間飛行場内埋蔵文化財調査実施計画 (中間報告)』を改変）

琉球層群は国頭礫層と琉球石灰岩に分けられるが、宜野湾市には琉球石灰岩のみが分布している。琉球石灰岩は更新世のサンゴ礁に由来する地層で、60 ～ 50 万年前の那覇石灰岩と 20 万年前の読谷石灰岩に分けられる。いずれもサンゴをはじめとするサンゴ礁生物の化石を多く含んでおり、層厚は数m～ 30 mと変化に富むが、中位段丘の西側ほど厚くなるようである。

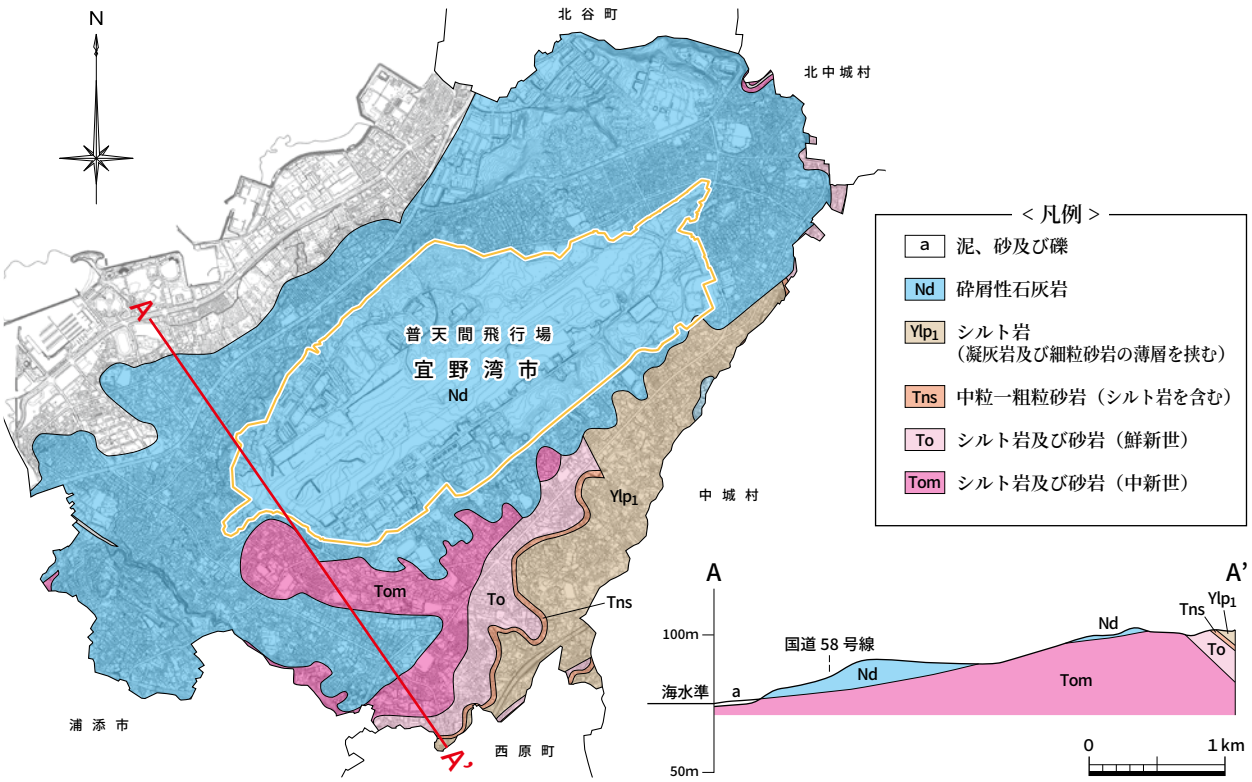
琉球石灰岩は、下位の島尻層群を不整合に覆っている。したがって琉球石灰岩は、島尻層群が隆起によって陸化し、再び海中に沈降したのちの、第四紀更新世早～中期に発達したサンゴ礁の堆積物である。その後の地殻変動によって、この時代のサンゴ礁が島尻層群とともに断続的に隆起して台地をつくる琉球石灰岩になった。

琉球石灰岩の外気に接する表面は暗灰色を示すが、内部は白色ないし黄白色である。内部は固く固結していることもあれば、軟らかいこともある。固結は石灰岩の再結晶と上から圧力が加わったことが原因であり、沖縄でマーイシ（真石）という。マーイシは屋敷の石垣やヒンプン、石畳などに利用されてきた。軟らかい部分はイシグー（石粉）と呼ばれ、水による乾湿が繰り返されると再結晶が進み硬くなる性質がある。イシグーは道路の路盤材に利用されている。

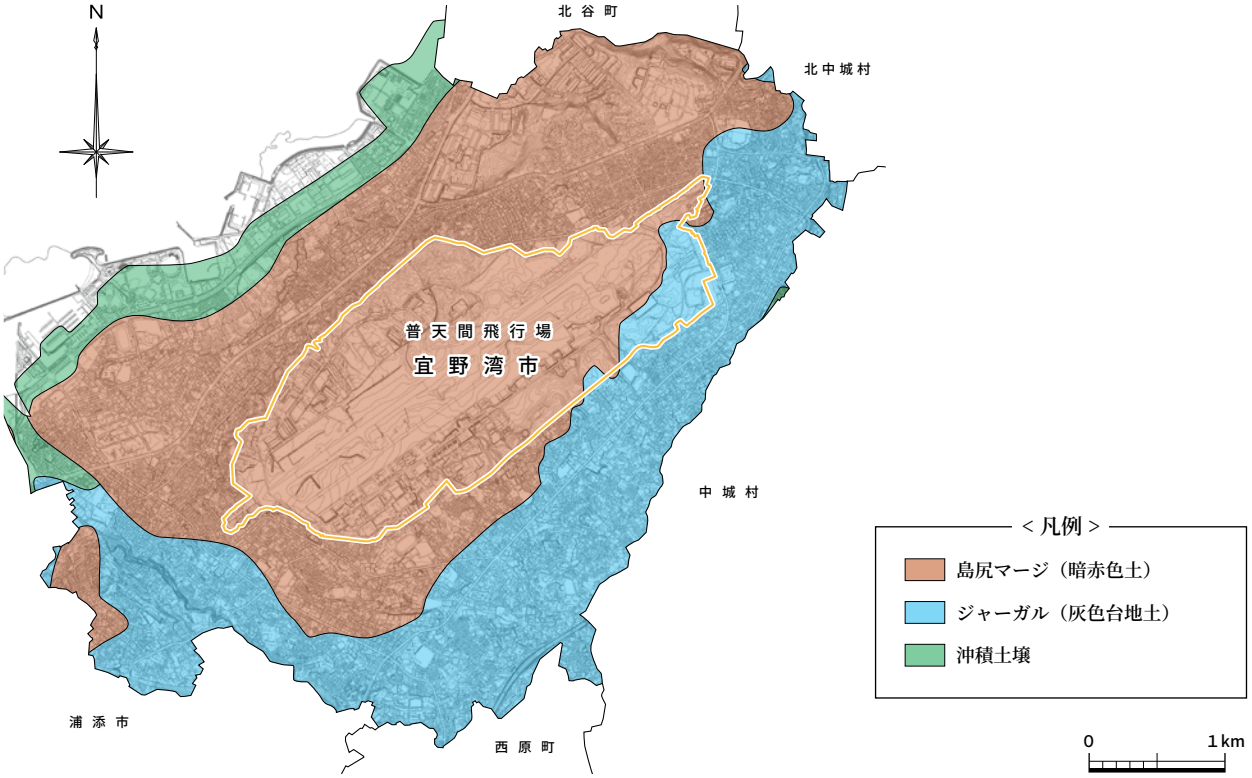
琉球石灰岩を母材として生成されたとされるのが、島尻マージである。土色は暗褐色～明褐色で、細粒質である。保水力は低い。島尻マージの生成過程については不明な部分が多く、母材については琉球石灰岩由来説と、周辺土壌由来の風化物説とがある。

宜野湾市に分布する最も新しい地層は、谷底低地や海岸低地をつくっている沖積層である。沖積層は、第四紀完新世（約１万年前から現在）の地層である。

低湿な海岸低地の沖積層は、サンゴ礁生物起源の砂礫と陸起源の粘土が混じりあっていることが多く、暗灰色である。一方、埋め立て地の一部に最近生じた海浜の堆積物も沖積層である。海浜の沖積層はサンゴ礁起源の砂礫からなり、陸起源の物質が少なく白色である。谷底低地の沖積層は、島尻層群の風化物質に由来する砂やシルトおよび粘土からなり、暗灰色を呈し、ジャーガルと呼ばれることがある。



第７図　地質図（産業技術総合研究所地質調査総合センター 2006「1:50,000 地質図幅　那覇及び沖縄市南部」を改変）



第８図　土壌図（国土庁土地局発行 1977「土地分類図（土壌図）沖縄県」を改変）

第３節　歴史的環境

１　旧石器時代

普天間飛行場内では、旧石器時代の遺跡は発見されていない。飛行場の北側にある大山洞穴では、「大山洞人」と呼ばれる二十歳前後の人間の下顎骨片が発見されている。

今後、飛行場内の洞穴や未調査エリアの調査が進めば、旧石器時代の遺跡が発見される可能性もある。

２　縄文時代

普天間飛行場内では、縄文時代後期・晩期の遺跡が確認されている。喜友名前原第二遺跡や大山富盛原第二遺跡では、竪穴遺構が確認されており集落跡と考えられる。上原濡原遺跡では、畑跡と考えられる遺構が確認されており、原始農耕的な生産遺跡の可能性があるとされている。

この時代の遺跡は他にも確認されているが、いずれも滑走路北側の段丘縁辺に分布しているという特徴がある。

３　弥生～平安並行時代

この時代の遺跡は少ない。喜友名アジミ―洞穴遺跡のほか、大山芋久保原第二遺跡の範囲内で行われた試掘調査や、大山岳之佐久原第一遺跡の記録保存調査で土器が出土している程度である。

４　グスク時代

グスク時代になると、普天間飛行場全体に遺跡が分布するようになる。喜友名前原第二遺跡では、12 ～ 13 世紀頃の掘立柱建物群に伴って、イネを中心とした多くの炭化種子が出土した。

野嵩タマタ原遺跡や大謝名軍花原第二遺跡では、植栽痕と考えられる列状ピット群が確認されている。

５　近世・近代・戦前

近世については、集落や古墓など多くの遺跡が確認されている。主な集落には、宜野湾古集落、神山古集落、新城古集落、赤道渡呂寒原屋取古集落などがある。神山古集落では、屋敷跡に伴う区画溝や井戸などが検出されている。

主な古墓は、北側にある大山東方丘陵古墓群や神山黒数原古墓群、南側にある宜野湾シリガーラ流域古墓群や赤道渡呂寒原古墓群などである。

その他にも、祭祀遺跡である宜野湾クシヌウタキ遺跡、線刻石板が発見された神山テラガマ洞穴遺跡、闘牛場である神山後原ウシナー跡、宿道である宜野湾並松街道など多種多様な遺跡がある。

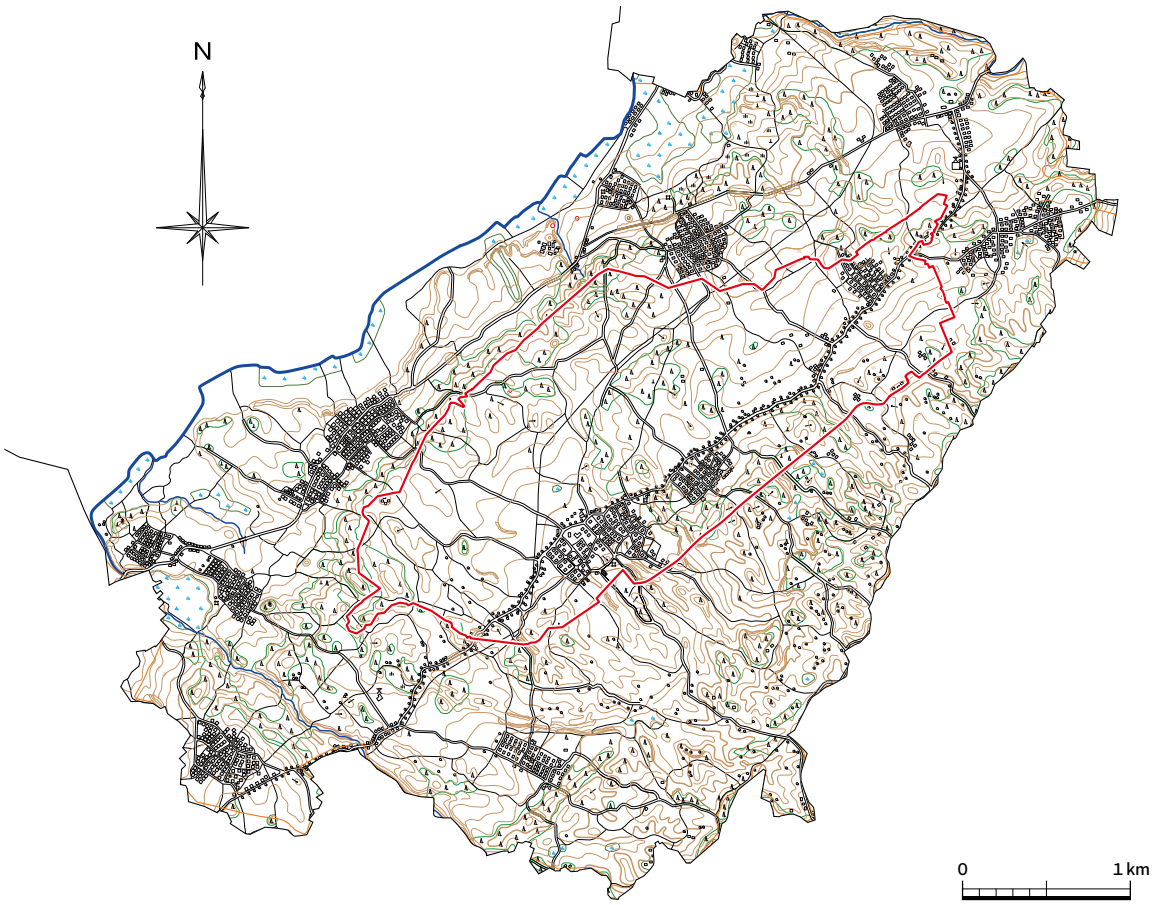
戦前の測量図や航空写真を見ると、大部分は畑などの耕作地であったことがわかる。

６　戦中・戦後

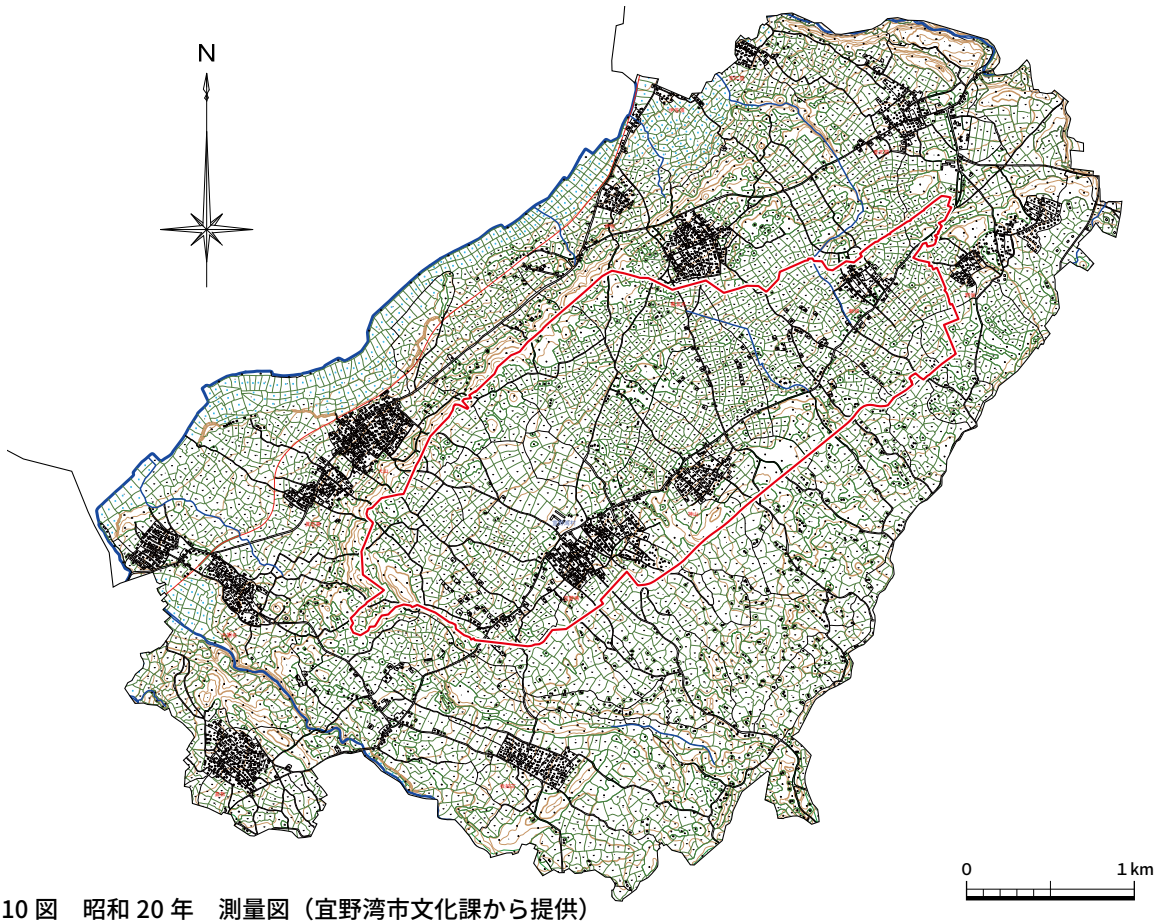
太平洋戦争の末期、1945 年 3 月から 6 月にかけてアメリカ・イギリス連合軍と日本軍との間で行われた沖縄戦によって、耕作地に囲まれた風景は一変する。沖縄戦時に旧日本軍が造った遺構に、神山古集落で検出された防空壕や塹壕などがある。

普天間飛行場は、1945 年 4 月以降に米軍占領と同時に接収され、本土決戦に備えて米陸軍工兵隊が滑走路を建設したことに始まる。基地内に存在した宜野湾集落、神山集落、新城集落や各屋取集落は収容され、住民は移転を強要された。1950 年代になると、朝鮮戦争を背景として、沖縄の戦略的重要性が高まったため、飛行場内での拡張工事、大規模造成がたびたび行われた。1960 年代には海兵隊施設に移管され、海兵隊航空基地として利用が開始された。

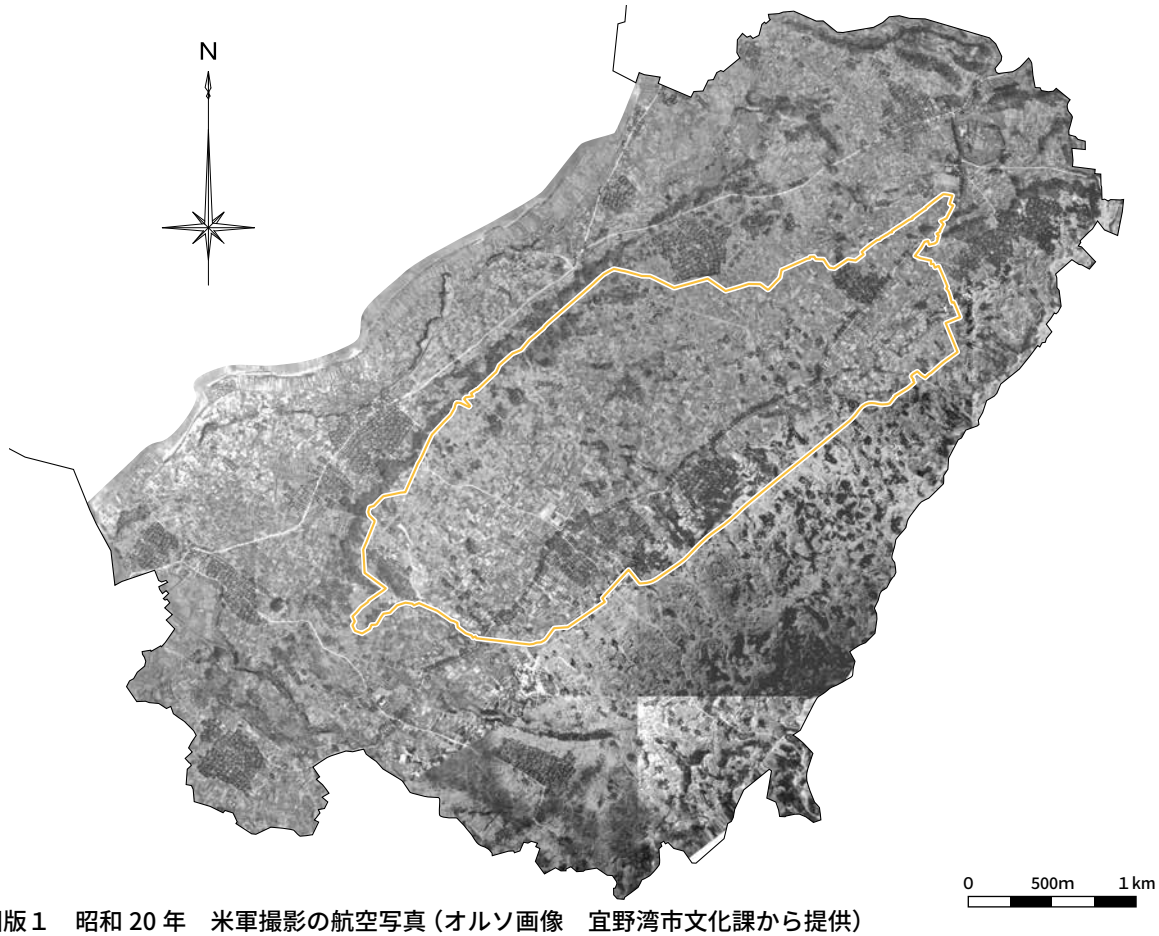
日本復帰後は、普天間海兵隊飛行場・普天間陸軍補助施設・普天間飛行場通信所の 3 施設が統合されて、普天間飛行場となった。現在では、長さ 2,800 m、幅 46 mの滑走路を有し、在日米軍基地の中でも岩国基地と並ぶ有数のヘリコプター部隊の拠点となっている。



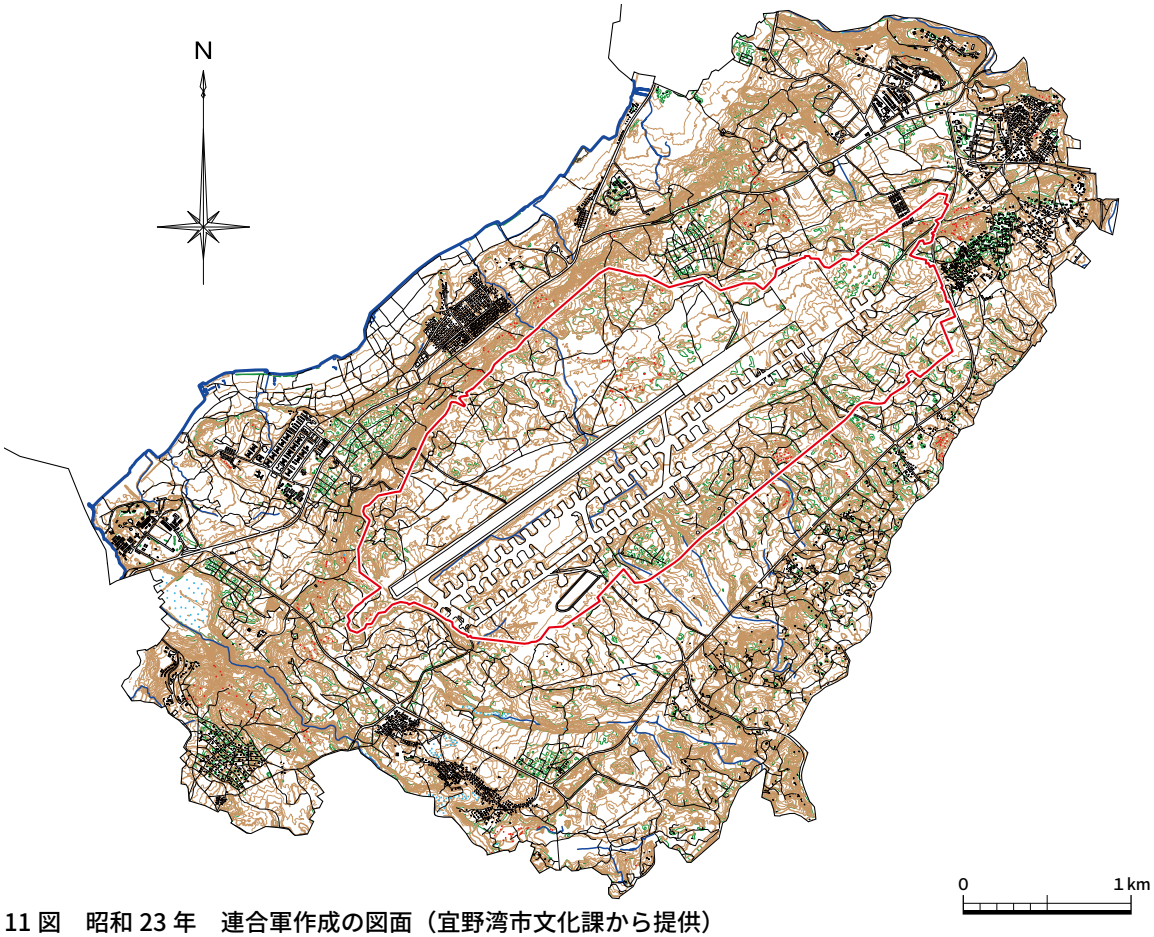
第９図　大正８年　陸地測量部作成の図面（宜野湾市文化課から提供）



第 10 図　昭和 20 年　測量図（宜野湾市文化課から提供）



図版１　昭和 20 年　米軍撮影の航空写真（オルソ画像　宜野湾市文化課から提供）



第 11 図　昭和 23 年　連合軍作成の図面（宜野湾市文化課から提供）

第 12 図　宜野湾市の大字・小字名
（宜野湾市文化課から提供）

図版２　現在の宜野湾市
（令和２年撮影　宜野湾市税務課から提供）

第４節　普天間飛行場内の遺跡

普天間飛行場内にある 101 の遺跡について、文献を振り返りながら遺跡発見数の変遷をたどる。

①『宜野湾市の遺跡』1982 年　27 遺跡
②『土に埋もれた宜野湾』1989 年　34 遺跡
③『宜野湾市文化財情報図（平成２年度版）』47 遺跡
④『宜野湾市の文化財情報図』2000 年　55 遺跡
⑤『宜野湾市文化財情報図（平成 13 年度版）』2002 年　59 遺跡
⑥『普天間飛行場内遺跡地図（中間報告）』2010 年　102 遺跡
⑦『宜野湾市文化財情報図（平成 25 年度版）』2014 年　105 遺跡
⑧『宜野湾市文化財情報図（令和元年度版）』2020 年　105 遺跡
⑨『基地内文化財９』2022 年　101 遺跡

昭和 57 年に刊行された文献①では、普天間飛行場内には 27 の遺跡が確認されている。その後、宜野湾市によって分布調査が行われ、遺跡数が少しずつ増加していく。

平成 11 年度から普天間飛行場の試掘調査が始まり、その成果に基づいて作成された遺跡地図（文献⑥）では、遺跡数が 102 まで増加している。

試掘調査がほぼ終了した平成 22 年度（2010 年度）以降に刊行された文献⑥～⑨については、遺跡数に少しずつ増減があるが、その理由は次のとおりである。

１　調査が進み、新規の遺跡が発見されたことによる遺跡数の増加。
　323　宜野湾並松街道
　330　神山アカムゥイ遺跡
　331　神山ウィームゥイ遺跡
　344　伊佐上原南遺跡

２　普天間飛行場の中にあるのか外にあるのかを再検討した結果による遺跡の増減。
　増加：134　大山富盛原第二遺跡
　減少：　47　新城トゥン遺跡
　　127　大山芋久保原第一遺跡
　　129　大山勢頭原第一遺跡

３　遺跡の内容を再検討した結果、遺跡を削除したことによる減少。
　99　伊佐上原遺跡群 G 地点
　125　大山加良当原第二遺跡（仮称）

４　基地の一部が返還されたことによる遺跡数の減少。
　260　宜野湾後原遺物散布地
　341　佐真下屋取古集落

以上のような遺跡数の増減以外にも、次のような変更があった。

５　あいまいだった遺跡範囲の明確化
　68　喜友名前原第二遺跡
　81　喜友名前原第四遺跡
　102　伊佐上原東方遺跡
　130　大山勢頭原第二遺跡
　132　大山富盛原第一遺跡
　135　大山富盛原第三遺跡
　146　大山チャシグスク遺跡
　159　真志喜富盛原第一遺跡
　287　神山後原丘陵古墓群
　293　赤道渡呂寒原古墓群

６　遺跡名の変更
　93　伊佐上原遺跡群Ａ地点　→
　　伊佐上原第一遺跡
　100　伊佐上原遺跡群Ｈ地点　→
　　伊佐上原第四遺跡

７　１か所の遺跡に対して複数の遺跡番号が付いていたため、遺跡を統合したことによる遺跡数の減少。（基地外）
　94　伊佐上原遺跡群Ｂ地点
　95　伊佐上原遺跡群Ｃ地点
　96　伊佐上原遺跡群Ｄ地点
　97　伊佐上原遺跡群Ｅ地点
→４遺跡を統合して伊佐上原第二遺跡

８　遺跡の範囲変更
　285　神山テラガマ洞穴遺跡
　291　赤道渡呂寒原洞穴遺跡
　292　赤道渡呂寒屋取古集落

第４表　文献別遺跡一覧表（1）

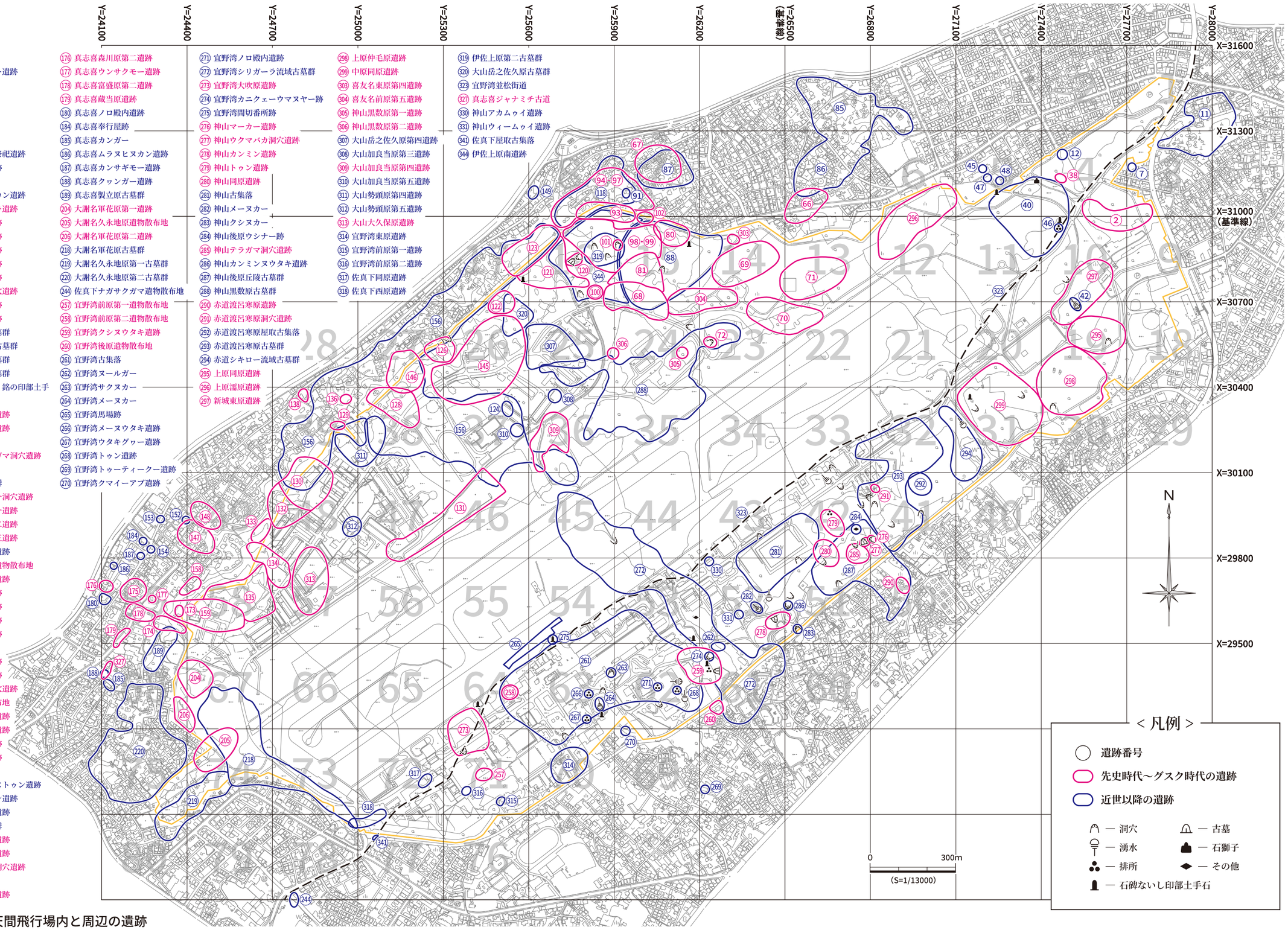
No.	遺跡番号	遺跡名	文献									備考
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
1	2	のだけ 野嵩タマタ原遺跡	-	-	○	○	○	○	○	○	○	
2	12	のだけながさくばる 野嵩長迫原古墓群	-	-	-	○	○	○	○	○	○	
3	38	あらぐすくばる 新城原石器散布地	-	-	-	○	○	○	○	○	○	
4	40	あらぐすく 新城古集落	-	○	○	○	○	○	○	○	○	②～⑤では遺跡名が新城古集落遺跡
5	42	あらぐすく 新城シマヌカー	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
6	46	あらぐすく　　もー 新城ウィーヌ毛遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	⑦⑧では遺跡名が新城ウィージョーモー祭祀遺跡
7	47	あらぐすく 新城トゥン遺跡	-	-	-	-	-	○	○	-	-	基地外
8	68	きゆなめーばる 喜友名前原第二遺跡	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
9	69	きゆなめーばる 喜友名前原第三遺跡	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
10	70	きゆなあがりばる 喜友名東原第二遺跡	-	-	○	○	○	○	○	○	○	
11	71	きゆなあがりばる 喜友名東原第三遺跡	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
12	72	きゆな 喜友名アジミー洞穴遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
13	80	きゆな 喜友名ウフシー遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①では遺跡名が喜友名ウフシー遺物散布地
14	81	きゆなめーばる 喜友名前原第四遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
15	88	きゆなめーばる 喜友名前原第二古墓群	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
16	93	いさうぃーばる 伊佐上原第一遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～⑤では遺跡名が伊佐上原遺跡群 ⑥～⑧は伊佐上原遺跡群A地点
17	98	いさうぃーばる 伊佐上原第三遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	⑥～⑧では遺跡名が伊佐上原遺跡群F地点
18	99	いさうぃーばる 伊佐上原遺跡群G地点	-	-	-	-	-	-	○	○	-	再検討の結果削除。
19	100	いさうぃーばる 伊佐上原第四遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	⑥～⑧では遺跡名が伊佐上原遺跡群H地点
20	101	いさ 伊佐ケレンケレンガマ洞穴遺跡	-	-	-	○	○	○	○	○	○	④⑤では遺跡名が伊佐上原第二洞穴遺跡
21	102	いさうぃーばる 伊佐上原東方遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
22	118	いさうぃーばる 伊佐上原第一古墓群	-	-	-	-	-	○	○	○	○	⑦⑧では遺跡名が伊佐上原古墓群
23	120	おおやまたきんさくーばる 大山岳之佐久原第一洞穴遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
24	121	おおやまたきんさくーばる 大山岳之佐久原第一遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①②では遺跡名が大山岳之佐久原北方遺物散布地 ③は大山岳之か佐久原北方遺跡
25	122	おおやまたきんさくーばる 大山岳之佐久原第二遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～③では遺跡名が大山岳之佐久原南方遺物散布地
26	123	おおやまたきんさくーばる 大山岳之佐久原第三遺跡	-	-	-	○	○	○	○	○	○	
27	124	おおやまからろーばる 大山加良当原第一遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～④では遺跡名が大山加良当原南方遺物散布地 ⑤⑥は大山加良当原遺跡
28	125	おおやまからろーばる 大山加良当原第二遺跡（仮称）	-	-	-	-	-	-	○	○	-	再検討の結果削除。
29	126	おおやま 大山ウフォーアブ遺物散布地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
30	127	おおやまをぅーくぶばる 大山苧久保原第一遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	-	基地外に所在
31	128	おおやまをぅーくぶばる 大山苧久保原第三遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
32	129	おおやましーるばる 大山勢頭原第一遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	-	基地外に所在
33	130	おおやましーるばる 大山勢頭原第二遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①では遺跡名が大山第三洞窟遺跡
34	131	おおやましーるばる 大山勢頭原第三遺跡	-	-	-	○	○	○	○	○	○	
35	132	おおやまとぅむいばる 大山富盛原第一遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～③では遺跡名が大山富盛原北方遺跡
36	134	おおやまとぅむいばる 大山富盛原第二遺跡	○	○	○	○	○	-	○	○	○	①～③では遺跡名が大山富盛原南方遺跡 ⑥では基地外

第４表　文献別遺跡一覧表（2）

No.	遺跡番号	遺跡名	文献									備考
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
37	135	おおやまとぅむいばる 大山富盛原第三遺跡	-	-	-	○	○	○	○	○	○	
38	145	おおやまをぅーくぶばる 大山苧久保原第二遺跡	-	-	○	○	○	○	○	○	○	
39	146	おおやま 大山チャシグスク遺跡	-	-	○	○	○	○	-	-	○	⑦⑧で127は基地内、146は基地外。
40	156	おおやまとうほうきゅうりょう 大山東方丘陵古墓群	-	○	○	○	○	○	○	○	○	
41	159	ましきとぅむいばる 真志喜富盛原第一遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～③では遺跡名が真志喜富盛原遺跡
42	174	ましきしーたてぃばる 真志喜製立原遺跡	○	○	○	○	○	○	-	-	-	基地外に所在
43	204	おおじゃないくさばなばる 大謝名軍花原第一遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	⑦⑧では 遺跡名が大謝名軍花原遺跡
44	205	おおじゃなくぃーじばる 大謝名久永地原遺物散布地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
45	206	おおじゃないくさばなばる 大謝名軍花原第二遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
46	218	おおじゃないくさばなばる 大謝名軍花原古墓群	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
47	219	おおじゃなくぃーじばる 大謝名久永地原第一古墓群	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
48	220	おおじゃなくぃーじばる 大謝名久永地原第二古墓群	-	-	-	-	-	○	-	-	-	基地外に所在
49	257	ぎのわんめーばる 宜野湾前原第一遺物散布地	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
50	258	ぎのわんめーばる 宜野湾前原第二遺物散布地	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
51	259	ぎのわん 宜野湾クシヌウタキ遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
52	260	ぎのわんくしばる 宜野湾後原遺物散布地	○	○	○	○	○	○	○	○	-	フェンスを跨いでいたが、返還された。 （現在は基地外。）
53	261	ぎのわん 宜野湾古集落	-	-	-	○	○	○	○	○	○	④では遺跡名が宜野湾古集落遺跡
54	262	ぎのわん 宜野湾ヌールガー	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
55	263	ぎのわん 宜野湾サクヌカー	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
56	264	ぎのわん 宜野湾メーヌカー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
57	265	ぎのわん 宜野湾馬場跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
58	266	ぎのわん 宜野湾メーヌウタキ遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
59	267	ぎのわん 宜野湾ウタキグゥー遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～⑤では遺跡名がナカヌウタキ
60	268	ぎのわん 宜野湾トゥン遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
61	271	ぎのわん　　どぅんち 宜野湾ノロ殿内遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～⑤では遺跡名が宜野湾ヌンドゥンチ ⑦⑧は宜野湾ヌンドゥヌチ
62	272	ぎのわん 宜野湾シリガーラ流域古墓群	-	○	○	○	○	○	○	○	○	②⑤では遺跡名が宜野湾・神山シリガーラ流域古墓群 ③は宜野湾・神山シリガーラ古墓群
63	273	ぎのわんおーぶちばる 宜野湾大吹原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
64	274	ぎのわん 宜野湾カニクェーウマヌヤー跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
65	275	ぎのわんまぎり 宜野湾間切番所跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
66	276	かみやま 神山マーカー遺跡	-	-	○	○	○	○	○	○	○	③では遺跡名がマーカガマ ⑦⑧は神山マーカーヤマ
67	277	かみやま 神山ウクマバカ洞穴遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
68	278	かみやま 神山カンミン遺跡	-	○	○	○	○	○	○	○	○	
69	279	かみやま 神山トゥン遺跡	-	-	○	○	○	○	○	○	○	
70	280	かみやまどぅーばる 神山同原遺跡	-	-	○	○	○	○	○	○	○	④⑤⑦⑧では遺跡名が神山原遺跡
71	281	かみやま 神山古集落	-	-	-	○	○	○	○	○	○	④⑤では遺跡名が神山古集落遺跡
72	282	かみやま 神山メーヌカー	-	-	○	○	○	○	○	○	○	
73	283	かみやま 神山クシヌカー	-	-	○	○	○	○	○	○	○	

第４表　文献別遺跡一覧表（3）

No.	遺跡番号	遺跡名	文献									備考
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
74	284	かみやまくしばる 神山後原ウシナー跡	-	-	○	○	○	○	○	○	○	③～⑤では遺跡名が古闘牛場
75	285	かみやま 神山テラガマ洞穴遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～③では遺跡名が神山テラガマ遺跡
76	286	かみやま 神山カンミンヌウタキ遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
77	287	かみやまくしばる 神山後原丘陵古墓群	-	○	○	○	○	○	○	○	○	
78	288	かみやまくるすーばる 神山黒数原古墓群	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
79	291	あかみちとぅるがんばる 赤道渡呂寒原洞穴遺跡	-	-	○	○	○	○	○	○	○	
80	292	あかみちとぅるがんばるやーどぅい 赤道渡呂寒原屋取古集落	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
81	293	あかみちとぅるがんばる 赤道渡呂寒原古墓群	-	○	○	○	○	○	○	○	○	
82	294	あかみち 赤道シキロー流域古墓群	-	○	○	○	○	○	○	○	○	
83	295	うえはらどぅーばる 上原同原遺跡	-	-	○	○	○	○	○	○	○	④⑤では遺跡名が上原遺跡
84	296	うえはらぬーりばる 上原濡原遺跡	-	-	○	○	○	○	○	○	○	
85	297	あらぐすくあがりばる 新城東原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
86	298	うえはらなかもーばる 上原仲毛原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
87	299	なかはらどぅーばる 中原同原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
88	303	きゆなあがりばる 喜友名東原第四遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
89	304	きゆなめーばる 喜友名前原第五遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
90	305	かみやまくるすーばる 神山黒数原第一遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
91	306	かみやまくるすーばる 神山黒数原第二遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
92	307	おおやまたきんさくーばる 大山岳之佐久原第四遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
93	308	おおやまからろーばる 大山加良当原第三遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
94	309	おおやまからろーばる 大山加良当原第四遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
95	310	おおやまからろーばる 大山加良当原第五遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
96	311	おおやましーるばる 大山勢頭原第四遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
97	312	おおやましーるばる 大山勢頭原第五遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
98	313	おおやまうふくぶばる 大山大久保原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
99	314	ぎのわんあがりばる 宜野湾東原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
100	315	ぎのわんめーばる 宜野湾前原第一遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
101	316	ぎのわんめーばる 宜野湾前原第二遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
102	317	さましたどぅーばる 佐真下同原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
103	318	さましたいりばる 佐真下西原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
104	319	いさうぃーばる 伊佐上原第二古墓群	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
105	320	おおやまたきんさくーばる 大山岳之佐久原古墓群	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
106	323	ぎのわんなんまちかいどう 宜野湾並松街道	-	-	-	-	-	-	○	○	○	
107	330	かみやま 神山アカムゥイ遺跡	-	-	-	-	-	-	○	○	○	
108	331	かみやま 神山ウィームゥイ遺跡	-	-	-	-	-	-	○	○	○	
109	341	さましたやーどぅい 佐真下屋取古集落	-	-	-	-	-	-	-	○	-	R01の新規。範囲は狭小。 R02に返還された。
110	344	いさうぃーばる 伊佐上原南遺跡	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
普天間飛行場内遺跡箇所			27	34	47	55	59	102	105	105	101	



② 野嵩タマタ原遺跡
⑦ 野嵩ビンジュルモー遺跡
⑪ 野嵩西表原古墓群
⑫ 野嵩長迫原古墓群
㊳ 新城原石器散布地
㊵ 新城古集落
㊷ 新城シマヌカー
㊺ 新城トゥンヌヤマ祭祀遺跡
㊻ 新城ウィーヌ毛遺跡
㊼ 新城トゥン遺跡
㊽ 新城ジトゥーヒヌカン遺跡
㊻ 喜友名東原ヌバタキ遺跡
㊼ 喜友名前原第一遺跡
㊽ 喜友名前原第二遺跡
㊾ 喜友名前原第三遺跡
㊿ 喜友名東原第二遺跡
(71) 喜友名東原第三遺跡
(72) 喜友名アジミー洞穴遺跡
(80) 喜友名ウフシー遺跡
(81) 喜友名前原第四遺跡
(85) 喜友名後原丘陵古墓群
(86) 喜友名勢頭原丘陵古墓群
(87) 喜友名前原第一古墓群
(88) 喜友名前原第二古墓群
(91) 伊佐「たけたう原」銘の印部土手
(93) 伊佐上原第一遺跡
(94)・(97) 伊佐上原第二遺跡
(98)・(99) 伊佐上原第三遺跡
(100) 伊佐上原第四遺跡
(101) 伊佐ケレンケレンガマ洞穴遺跡
(102) 伊佐上原東方遺跡
(118) 伊佐上原第一古墓群
(120) 大山岳之佐久原第一洞穴遺跡
(121) 大山岳之佐久原第一遺跡
(122) 大山岳之佐久原第二遺跡
(123) 大山岳之佐久原第三遺跡
(124) 大山加良当原第一遺跡
(126) 大山ウフォーアブ遺物散布地
(128) 大山苧久保原第三遺跡
(129) 大山勢頭原第一遺跡
(130) 大山勢頭原第二遺跡
(131) 大山勢頭原第三遺跡
(132) 大山富盛原第一遺跡
(133) 大山貝塚
(134) 大山富盛原第二遺跡
(135) 大山富盛原第三遺跡
(136) 大山マヤーガマ洞穴遺跡
(138) 大山一里原遺物散布地
(145) 大山苧久保原第二遺跡
(146) 大山チャシグスク遺跡
(147) 大山前門原第一遺跡
(148) 大山前門原第二遺跡
(149) 大山フルチンガー
(152) 大山メームトゥブヌトゥン遺跡
(153) 大山メーフヌトゥン遺跡
(154) 大山カンサギモー遺跡
(156) 大山東方丘陵古墓群
(158) 真志喜富盛原第三遺跡
(159) 真志喜富盛原第一遺跡
(173) 真志喜マヤーアブ洞穴遺跡
(174) 真志喜製立原遺跡
(175) 真志喜森川原第一遺跡
(176) 真志喜森川原第二遺跡
(177) 真志喜ウンサクモー遺跡
(178) 真志喜富盛原第二遺跡
(179) 真志喜蔵当原遺跡
(180) 真志喜ノロ殿内遺跡
(184) 真志喜奉行屋跡
(185) 真志喜カンガー
(186) 真志喜ムラヌヒヌカン遺跡
(187) 真志喜カンサギモー遺跡
(188) 真志喜クッンガー遺跡
(189) 真志喜製立原古墓群
(204) 大謝名軍花原第一遺跡
(205) 大謝名久永地原遺物散布地
(206) 大謝名軍花原第二遺跡
(218) 大謝名軍花原古墓群
(219) 大謝名久永地原第一古墓群
(220) 大謝名久永地原第二古墓群
(244) 佐真下ナガサクガマ遺物散布地
(257) 宜野湾前原第一遺物散布地
(258) 宜野湾前原第二遺物散布地
(259) 宜野湾クシヌウタキ遺跡
(260) 宜野湾後原遺物散布地
(261) 宜野湾古集落
(262) 宜野湾ヌールガー
(263) 宜野湾サクヌカー
(264) 宜野湾メーヌカー
(265) 宜野湾馬場跡
(266) 宜野湾メーヌウタキ遺跡
(267) 宜野湾ウタキグゥー遺跡
(268) 宜野湾トゥン遺跡
(269) 宜野湾トゥーティークー遺跡
(270) 宜野湾クマイーアブ遺跡
(271) 宜野湾ノロ殿内遺跡
(272) 宜野湾シリガーラ流域古墓群
(273) 宜野湾大吹原遺跡
(274) 宜野湾カニクェーウマヌヤー跡
(275) 宜野湾間切番所跡
(276) 神山マーカー遺跡
(277) 神山ウクマバカ洞穴遺跡
(278) 神山カンミン遺跡
(279) 神山トゥン遺跡
(280) 神山同原遺跡
(281) 神山古集落
(282) 神山メーヌカー
(283) 神山クシヌカー
(284) 神山後原ウシナー跡
(285) 神山テラガマ洞穴遺跡
(286) 神山カンミンヌウタキ遺跡
(287) 神山後原丘陵古墓群
(288) 神山黒数原古墓群
(290) 赤道渡呂寒原遺跡
(291) 赤道渡呂寒原洞穴遺跡
(292) 赤道渡呂寒原屋取古集落
(293) 赤道渡呂寒原古墓群
(294) 赤道シキロー流域古墓群
(295) 上原同原遺跡
(296) 上原濱原遺跡
(297) 新城東原遺跡
(298) 上原仲毛原遺跡
(299) 中原同原遺跡
(303) 喜友名東原第四遺跡
(304) 喜友名前原第五遺跡
(305) 神山黒数原第一遺跡
(306) 神山黒数原第二遺跡
(307) 大山岳之佐久原第四遺跡
(308) 大山加良当原第三遺跡
(309) 大山加良当原第四遺跡
(310) 大山加良当原第五遺跡
(311) 大山勢頭原第四遺跡
(312) 大山勢頭原第五遺跡
(313) 大山大久保原遺跡
(314) 宜野湾東原遺跡
(315) 宜野湾前原第一遺跡
(316) 宜野湾前原第二遺跡
(317) 佐真下同原遺跡
(318) 佐真下西原遺跡
(319) 伊佐上原第二古墓群
(320) 大山岳之佐久原古墓群
(323) 宜野湾並松街道
(327) 真志喜ジャナミチ古道
(330) 神山アカムゥイ遺跡
(331) 神山ウィームゥイ遺跡
(341) 佐真下屋取古集落
(344) 伊佐上原南遺跡

第 13 図　普天間飛行場内と周辺の遺跡

第５表　遺跡一覧表(1)

No.	遺跡番号	遺　跡　名	グリット名（フテ）	時代 先史	時代 ｸﾞｽｸ	時代 近世	時代 近代	種別	面積(㎡)	国庫補助進捗 踏査	国庫補助進捗 試掘	国庫補助進捗 確認	内　容	備　考	参考文献
1	2	のだけ 野嵩タマタ原遺跡	3.4.9. 10		◎	◎	◎	生産遺跡 (耕作関連)	17,776		○	○	石積み 列状ピット群 炉跡		1991a 2002b 2006b 2009b
2	12	のだけながさくばる 野嵩長迫原古墓群	4			◎	◎	墓地	1,014				掘込墓等		2002b 2009b
3	38	あらぐすくばる 新城原石器散布地	4	△				散布地	927		△		石鏃		2002b 2009b
4	40	あらぐすく 新城古集落	4.5. 10.11	△		◎	◎	集落跡	54,211		△		ピット 土坑 溝 地割性集落	(旧称) 新城古集落遺跡	1991a 1995a 2002b 2009b
5	42	あらぐすく 新城シマヌカー	10.19			△	◎	その他の遺跡 (湧泉・拝所)	1,157		△		石積み 井戸(ムラガー)	(別称) アラグスクガー	2009b
6	46	あらぐすく　　もー 新城ウィーヌ毛遺跡	10			△		祭祀遺跡	614					(別称) ウィージョー モー 40内にあり	2009b
7	68	きゆなめーばる 喜友名前原第二遺跡	15.16. 24.25	◎	◎			集落跡	21,345		○	○	竪穴住居 掘建柱建物群		2002b 2002d 2006a 2009b
8	69	きゆなめーばる 喜友名前原第三遺跡	14	○	○	○		生産遺跡 (耕作関連)	25,055		○	△	迫地の耕作跡		2002b 2002d 2006a 2009b 2013
9	70	きゆなあがりばる 喜友名東原第二遺跡	14.22. 23	△	△	△		不明	23,389		△	△			2002b 2002d 2009b 2014a
10	71	きゆなあがりばる 喜友名東原第三遺跡	13.14		○	○		生産遺跡 (耕作関連)	26,230		△	△	迫地の耕作跡		2002b 2002d 2009b 2013
11	72	きゆな 喜友名アジミー洞穴遺跡	23	○				貝塚 洞穴遺跡	1,328		○	○		陥没ドリーネ内に貝塚あり	1982a 1989 1991a 2002b 2013
12	80	きゆな 喜友名ウフシー遺跡	15		△			散布地	8,773		△				1989 1991a 2002b 2009b
13	81	きゆなめーばる 喜友名前原第四遺跡	15.16		◎			集落跡	15,273		○	△	ピット		2004a 2009b

第５表　遺跡一覧表(2)

No.	遺跡番号	遺　跡　名	グリット名（フチ）	時代				種別	面積(㎡)	国庫補助進捗			内　容	備　考	参考文献
				先史	ｹﾞｽｸ	近世	近代			踏査	試掘	確認			
14	88	きゆなめーばる 喜友名前原第二古墓群	14.15. 24			◎	◎	墓地	79,983	○	○	△	亀甲墓 掘込墓等		2006a 2009b
15	93	いさうぃーばる 伊佐上原第一遺跡	7.8. 15.16	◎	◎			集落跡	11,544		○	△	竪穴住居 ピット群 石列	県調査ブロック２相当　(旧称)伊佐上原遺跡群A地点	1989 1991a 2002b 2004a 2009b
16	98 99	いさうぃーばる 伊佐上原第三遺跡	15.16	◎				集落跡	41,511		○		竪穴住居	県調査ブロック３相当	2004a 2009b
17	100	いさうぃーばる 伊佐上原第四遺跡	16		△	△		不明	2,107		○			県調査ブロック６相当	2004a 2009b
18	101	いさ 伊佐ケレンケレンガマ洞穴遺跡	15.16	△			◎	洞穴遺跡 戦争遺跡	973		○		避難壕	(旧称) 伊佐上原第二洞穴遺跡	2009b
19	102	いさうぃーばる 伊佐上原東方遺跡	7.15	△				散布地	1,672		○				1982a 1989 1991a 2002b 2009b
20	118	いさうぃーばる 伊佐上原第一古墓群	7.8.16			◎		墓地	35,476	△	△		亀甲墓 平葺墓等	1809(嘉慶14) 1821(道光元)年銘の厨子甕あり	1989 2002b 2006a 2009b
21	120	おおやまたきんさくーばる 大山岳之佐久原第一洞穴遺跡	16	△		◎	◎	洞穴遺跡 墓地 戦争遺跡	1,863		○		横穴洞穴 開口部の古墓 避難壕		1989 1991a 2002b 2009b
22	121	おおやまたきんさくーばる 大山岳之佐久原第一遺跡	16.17	○	○	◎		生産遺跡 (耕作関連)	20,518		○		ピット群 炉跡 石列 焼土面 炭だまり	(旧称)大山岳之佐久原北方遺跡 県調査ブロック９相当	1991a 1995a 2002b 2004a 2009b
23	122	おおやまたきんさくーばる 大山岳之佐久原第二遺跡	17.26	△				散布地	5,803		○			(旧称) 大山岳之佐久原南方遺跡	1989 1991a 2002b 2004a 2009b
24	123	おおやまたきんさくーばる 大山岳之佐久原第三遺跡	16.17	△				不明	19,483		△				2002b 2009b
25	124	おおやまからろーばる 大山加良当原第一遺跡	37	△		△		不明	1,575					(旧称) 大山加良当原南方遺物散布地	1989 1991a 2002b 2009b
26	126	おおやま 大山ウフォーアブ遺物散布地	26.27	△				洞穴遺跡	7,203		△		横穴洞穴	(別称) ウフォーアブ	1982a 1989 1991a 2002b 2009b

第５表　遺跡一覧表(3)

No.	遺跡番号	遺　跡　名	グリット名（フテ）	時代 先史	時代 ｸﾞｽｸ	時代 近世	時代 近代	種別	面積(㎡)	国庫補助進捗 踏査	国庫補助進捗 試掘	国庫補助進捗 確認	内　容	備　考	参考文献
27	128	おおやまをぅーくぶばる 大山苧久保原第三遺跡	38		△	◎	◎	不明	17,188		○		石積み ピット		2002d
28	130	おおやましーるばる 大山勢頭原第二遺跡	39.48	◎				集落跡 墓地	24,124		△		竪穴住居 ピット	(旧称) 大山第三洞穴遺跡	1989 1991a 2002b 2009b
29	131	おおやましーるばる 大山勢頭原第三遺跡	37.46. 47.56	△	◎	◎	◎	生産遺跡 (耕作関連)	36,990		○		ピット		2002b 2002d 2014a
30	132	おおやまとぅむいばる 大山富盛原第一遺跡	48.49	○				散布地	12,365		△			(旧称) 大山富盛原北方遺跡	1991a 1996a 2002b 2009b
31	134	おおやまとぅむいばる 大山富盛原第二遺跡	48.49. 57.58	◎				集落跡	12,491		○	○	竪穴住居 土坑 屋外焼土	(旧称) 大山富盛原南方遺跡	1991a 2002b 2006a 2009b
32	135	おおやまとぅむいばる 大山富盛原第三遺跡	57.58	△				散布地	25,229		△				2002b 2002d 2009b
33	145	おおやまをぅーくぶばる 大山苧久保原第二遺跡	26.27. 37.38		◎			集落跡	67,011		○		ピット	県調査ブロック10相当	2002b 2002d 2004a 2009b
34	146	おおやま 大山チャシグスク遺跡	27.38	△	△			散布地	15,738		△				1989 1991a 2002b 2002d 2009b
35	156	おおやまとうほうきゅうりょう 大山東方丘陵古墓群	16.17. 26~28. 36~39. 45.46. 48			◎	◎	墓地	332,961	△	△		亀甲墓 掘込墓等	1699年(康熙32）銘の墓仕立あり	1989 1991a 2002b 2006a 2009b 2014a
36	159	ましきとぅむいばる 真志喜富盛原第一遺跡	58.59	△				散布地	23,922		△				1989 2002b 2009b
37	204	おおじゃないくさばなばる 大謝名軍花原第一遺跡	67.68	○	◎	◎		散布地 生産遺跡 (耕作関連)	11,670		○	○	ピット群 溝		2006a 2009b
38	205	おおじゃなくぃーじばる 大謝名久永地原遺物散布地	74	△				散布地	15,372						1982a 1989 1991a 2002b 2009b
39	206	おおじゃないくさばなばる 大謝名軍花原第二遺跡	67.68. 74	○	◎	◎		散布地 生産遺跡 (耕作関連)	5,845		○	○	列状ピット群 区画溝		2006a 2009b

第５表　遺跡一覧表(4)

No.	遺跡番号	遺　跡　名	グリット名（フテ）	時代 先史	時代 ｹﾞｽｸ	時代 近世	時代 近代	種 別	面積 (m²)	国庫補助進捗 踏査	国庫補助進捗 試掘	国庫補助進捗 確認	内　容	備　考	参考文献
40	218	おおじゃないくさばなばる 大謝名軍花原古墓群	67.73. 74.78			◎	◎	墓地	75,748		△		亀甲墓等		2002b 2009b
41	219	おおじゃなくぃーじばる 大謝名久永地原第一古墓群	74.75. 79.80			◎	◎	墓地	26,764				亀甲墓等		2002b 2009b
42	257	ぎのわんめーばる 宜野湾前原第一遺物散布地	71	△				散布地	2,041		△			(旧称) 宜野湾前原石器散布地	2004a 2009b
43	258	ぎのわんめーばる 宜野湾前原第二遺物散布地	64	△				散布地	2,266						2009b
44	259	ぎのわん 宜野湾クシヌウタキ遺跡	61.62		◎	◎	◎	集落跡 祭祀遺跡	15,219		△		掘立柱建物跡 海砂利敷遺構 石列 土坑 石祠		1982a 1991a 1994b 1997a 2002b 2009b
45	261	ぎのわん 宜野湾古集落	53.54. 61.62. 63.64. 70			○	○	集落跡	186,147		△		地割性集落	(旧称) 宜野湾古集落遺跡	2002b 2004a 2009b 2017
46	262	ぎのわん 宜野湾ヌールガー	61			△		その他の遺跡 (湧泉・拝所)	1,173						2009b
47	263	ぎのわん 宜野湾サクヌカー	62.63			△		その他の遺跡 (湧泉・拝所)	902					(別称) メーンサクガマ	2009b
48	264	ぎのわん 宜野湾メーヌカー	63			△	◎	その他の遺跡 (湧泉・拝所)	1,142		△		石積み 井戸(ムラガー)	(別称) ウブガー	1994d 2003 2009b
49	265	ぎのわん 宜野湾馬場跡	54.63. 64			△		その他の遺跡	6,146					(旧称)宜野湾馬追馬場跡 (別称) ジノーンババ	2009b
50	266	ぎのわん 宜野湾メーヌウタキ遺跡	63			△		祭祀遺跡	582		△				2009b
51	267	ぎのわん 宜野湾ウタキグゥー遺跡	63			△		祭祀遺跡	582					(別称) ナカヌウタキ	2009b
52	268	ぎのわん 宜野湾トゥン遺跡	62			△		祭祀遺跡	555						2009b

第５表　遺跡一覧表(5)

No.	遺跡番号	遺　跡　名	グリット名（フチ）	時代 先史	時代 ｸﾞｽｸ	時代 近世	時代 近代	種別	面積(㎡)	国庫補助進捗 踏査	国庫補助進捗 試掘	国庫補助進捗 確認	内　容	備　考	参考文献
53	271	ぎのわん　どぅんち 宜野湾ノロ殿内遺跡	62			△		祭祀遺跡	555					(別称) 宜野湾ヌンドゥンチ	2009b
54	272	ぎのわん 宜野湾シリガーラ流域古墓群	44.45. 52.53. 54.61. 62			◎	◎	墓地	161,931	○	△		亀甲墓 破風墓 掘込墓等	(旧称) 宜野湾・神山シリガーラ流域古墓群	1991a 2002b 2007a 2009b 2017
55	273	ぎのわんおーぶちばる 宜野湾大吹原遺跡	64.71		◎	△		生産遺跡 (耕作関連)	17,962		△	△	ピット群		2004a 2009b
56	274	ぎのわん 宜野湾カニクェーウマヌヤー跡	61			△		生産遺跡 (鍛冶関連?)	718				横穴洞穴		2009b
57	275	ぎのわんまぎり 宜野湾間切番所跡	54			△		その他の遺跡	723						2009b
58	276	かみやま 神山マーカー遺跡	41.42	△				散布地	564					(別称) マーカーヤマ	2002b 2009b
59	277	かみやま 神山ウクマバカ洞穴遺跡	42	△		◎	◎	洞穴遺跡 墓地	855		△		洞穴墓	1705(康熙44)年銘の厨子甕あり	1982a 1989 1991a 2002b 2009b
60	278	かみやま 神山カンミン遺跡	51.52	△		△		散布地	3,903		△			口伝あり	1989 2002b 2009b
61	279	かみやま 神山トゥン遺跡	42		△	△	◎	集落跡 祭祀遺跡	5,597		○		石積み	口伝あり	2002b 2004b 2009b
62	280	かみやまどぅーばる 神山同原遺跡	42.51		△	◎		生産遺跡 (鍛冶関連等)	6,577		○	△	窯 鉄滓	(旧称) 神山原遺跡	2002b 2008 2009b
63	281	かみやま 神山古集落	42.43. 51.52	△		△	◎	集落跡	46,001		○		溝状遺構 ピット群 畝間状遺構 地割性集落	(旧称) 神山古集落遺跡	2002b 2005 2009b 2019
64	282	かみやま 神山メーヌカー	52			△	△	その他の遺跡 (湧泉・拝所)	1,192						2009b
65	283	かみやま 神山クシヌカー	51			△	△	その他の遺跡 (湧泉・拝所)	661		○				2009b

第５表　遺跡一覧表(6)

No.	遺跡番号	遺　跡　名	グリット名（フテ）	時代 先史	ｹﾞｽｸ	近世	近代	種別	面積(㎡)	国庫補助進捗 踏査	試掘	確認	内　容	備　考	参考文献
66	284	かみやまくしばる 神山後原ウシナー跡	42				◎	その他の遺跡 (闘牛場)	1,018		○	△	土手 広場	(旧称) 神山後原ウシナー闘牛場跡	2008
67	285	かみやま 神山テラガマ洞穴遺跡	42.51			◎	◎	洞穴遺跡 祭祀遺跡	4,408		○	△	線刻石版		1991a 2002b 2008 2009b
68	286	かみやま 神山カンミンヌウタキ遺跡	51.52			△	△	祭祀遺跡	661		○				2009b
69	287	かみやまくしばる 神山後原丘陵古墓群	41.42. 50.51			◎	◎	墓地	62,203		○		亀甲墓 破風墓 掘込墓等		1989 1991a 2002b 2009b 2017
70	288	かみやまくるすーばる 神山黒数原古墓群	23.24. 25.34. 35.36			◎	◎	墓地	117,765	△	△		亀甲墓 掘込墓等		2000b 2002b 2004b 2013 2014a 2015
71	291	あかみちとぅるがんばる 赤道渡呂寒原洞穴遺跡	41	△		◎		洞穴遺跡 墓地	654		○	△	岩陰墓	(旧称) 神山後原洞穴遺跡	1991a 2002b 2007a 2009b
72	292	あかみちとぅるがんばるやーどぅい 赤道渡呂寒原屋取古集落	41			◎	◎	集落跡	5,117		○	△	屋敷跡 井戸	(旧称) 赤道渡呂寒原屋取古集落遺跡	2007a 2009b
73	293	あかみちとぅるがんばる 赤道渡呂寒原古墓群	32.33. 41.42			◎	◎	墓地	75,313		△		亀甲墓 掘込墓等	1736(擁正14) 1758(乾隆23)年 銘の厨子甕あり	1989 1991a 2002b 2009b 2017
74	294	あかみち 赤道シキロー流域古墓群	31.32. 40.41			◎	◎	墓地	20,465		△		掘込墓 亀甲墓等	乾隆年間の厨子甕あり	1989 1991a 2002b 2009b 2017
75	295	うえはらどぅーばる 上原同原遺跡	19		◎	◎		生産遺跡 (鍛冶・耕作関連)	21,616		○	○	鍛冶関連廃棄土坑 溝 ピット群		1991a 1992 2002b 2006b 2009b
76	296	うえはらぬーりばる 上原濡原遺跡	6.12	◎	◎	◎	◎	生産遺跡 (耕作関連)	36,453		△	△	畝間状溝列 用水池 焼土面 土坑		1991a 1995b 2002b 2009b 2013
77	297	あらぐすくあがりばる 新城東原遺跡	10.19		◎			集落跡	27,279		○		柱穴群 ピット群 土坑	(旧称) 上原東原遺跡	2006b 2009b
78	298	うえはらなかもーばる 上原仲毛原遺跡	19.20. 30.31		◎			生産遺跡 (耕作関連)	44,599		○		ピット (植栽痕？)		2006b 2009b

第５表　遺跡一覧表(7)

No.	遺跡番号	遺　跡　名	グリット名（ﾌﾃ）	時代 先史	時代 ｸﾞｽｸ	時代 近世	時代 近代	種別	面積(㎡)	国庫補助進捗 踏査	国庫補助進捗 試掘	国庫補助進捗 確認	内　容	備　考	参考文献
79	299	なかはらどぅーばる 中原同原遺跡	20.30.31		◎			生産遺跡(耕作関連)	58,869		○		ピット(植栽痕？)		2006b 2009b
80	303	きゆなあがりばる 喜友名東原第四遺跡	14	○				散布地	1,121		○	△		県調査Ⅱ区ブロック１相当	2004a
81	304	きゆなめーばる 喜友名前原第五遺跡	14.15.23.24		◎			不明	17,331		○		ピット		2002d
82	305	かみやまくるすーばる 神山黒数原第一遺跡	24	△				不明	1,241		○				2014a
83	306	かみやまくるすーばる 神山黒数原第二遺跡	24.25	○	△	○		生産遺跡(耕作関連)	1,241		○				2014a
84	307	おおやまたきんさくーばる 大山岳之佐久原第四遺跡	25.26		△	◎		不明	25,245		○		ピット 溝 石列		2002d
85	308	おおやまからろーばる 大山加良当原第三遺跡	36			◎		不明	1,705		△		石積み		2002d
86	309	おおやまからろーばる 大山加良当原第四遺跡	36	○	◎	◎	◎	生産遺跡(耕作関連)	16,345		△	△	ピット 溝	上原濡原遺跡(遺跡番号296)と同様の堆積がみられる。	2010c 2012a 2014a 2015
87	310	おおやまからろーばる 大山加良当原第五遺跡	37			○		不明	1,705		○				2002d
88	311	おおやましーるばる 大山勢頭原第四遺跡	38.39		△	◎		不明	16,737		○		溝		2002d
89	312	おおやましーるばる 大山勢頭原第五遺跡	47.48		△	△		不明	3,622		△				2002d
90	313	おおやまうふくぶばる 大山大久保原遺跡	48.57	△		◎		不明	24,184		△		ピット		2002d
91	314	ぎのわんあがりばる 宜野湾東原遺跡	70		△	△	△	生産遺跡(耕作関連)	12,314		△		耕作跡	県調査Ⅰ区ブロック６相当	2004a

第５表　遺跡一覧表(8)

No.	遺跡番号	遺　跡　名	グリット名（フテ）	時代				種別	面積(㎡)	国庫補助進捗			内　容	備　考	参考文献
				先史	ｸﾞｽｸ	近世	近代			踏査	試掘	確認			
92	315	ぎのわんめーばる 宜野湾前原第一遺跡	71		△	△	△	生産遺跡 (耕作関連)	676		△		耕作跡	県調査Ⅰ区ブロック５相当	2004a
93	316	ぎのわんめーばる 宜野湾前原第二遺跡	71		△	△	△	生産遺跡 (耕作関連)	766		△		耕作跡	県調査Ⅰ区ブロック４相当	2004a
94	317	さましたどぅーばる 佐真下同原遺跡	72		△	△	△	生産遺跡 (耕作関連)	1,562		△		耕作跡	県調査Ⅰ区ブロック２相当	2004a
95	318	さましたいりばる 佐真下西原遺跡	72.77. 78		△	△	△	生産遺跡 (耕作関連)	4,278		△		耕作跡	県調査Ⅰ区ブロック１相当	2004a
96	319	いさうぃーばる 伊佐上原第二古墓群	15.16			◎	◎	墓地	12,397	○	○		ドリーネ内土坑群 亀甲墓 掘込墓		2006a
97	320	おおやまたきんさくーばる 大山岳之佐久原古墓群	17.25. 26			◎	◎	墓地	10,544	○	△		岩陰墓 掘込墓		2006a
98	323	ぎのわんなんまちかいどう 宜野湾並松街道					◎	宿道、公道	-						2014b 2020a
99	330	かみやま 神山アカムゥイ遺跡	43.52				◎	祭祀場跡？	759						2014b 2020a
100	331	かみやま 神山ウィームゥイ遺跡	52				◎	祭祀場跡？	759						2014b 2020a
101	344	いさうぃーばる 伊佐上原南遺跡	7.8. 15.16			◎	◎	集落跡 生産遺跡 祭祀遺跡 （御嶽等）	62,201		○	△			2020b

＜凡例＞

1　遺跡一覧表は、2010『普天間飛行場内遺跡地図（中間報告）』に掲載された遺跡一覧表に加筆・修正して作成した。

2　No. は、普天間飛行場内の遺跡に付けた通し番号である。

3　遺跡番号は、宜野湾市教育委員会が使用している遺跡番号を示した。

4　時代の「先史」とは先史時代（12 世紀前半以前）、「グスク」とはグスク時代（12 世紀後半以降）の略である。記号については次のとおり。

◎…遺構・遺物包含層を確認

○…遺物包含層を確認

△…遺物散布等がみられるが詳細は不明

5　面積の数値は、目安である。

6　国庫補助進捗の項目は、平成 11 年度から文化庁より国庫補助を受けて実施している調査の実績を示している。

○・・・実施済み　　△・・・一部実施済み

7　参考文献は、巻末の引用・参考文献と対応する。

第３章　基本層序

第１節　これまでの成果

分層の考え方は、基本的に沖縄県も宜野湾市も共通しているが、層序名の付け方が異なっている。そこでこれまでの調査で使用してきた層序について、発掘調査報告書ごとに振り返る。

①『基地内文化財Ⅲ』（2004 年）
②『基地内文化財Ⅳ』（2006 年）
③『基地内文化財５』（2011 年）
④『基地内文化財６』（2014 年）
⑤『基地内文化財７』（2015 年）
⑥『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』（2005 年）
⑦『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』（2006 年）
⑧『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』（2009 年）
⑨『基地内埋蔵文化財調査報告書６』（2013 年）

まずは沖縄県が設定した層序を見ていく。

①では、Ⅰ層からⅦ層までの７層に分けている。このうちⅠ～Ⅳ層までが現代～縄文時代晩期までの遺物包含層で、Ⅴ～Ⅶ層が基盤層（マージ、石灰岩、クチャ）である。特に遺物包含層については、土が堆積した当時の環境の差に由来して土色が異なるとし、さらに３つに細分されるとした。

②では、①と同様にⅠ層からⅥ層までの６層に分けている

③では、②と同じくⅠ層からⅥ層までの６層に分けている。基本的な考え方は①・②と同じである。Ⅲ層（近世・グスク時代）、Ⅳ層（縄文時代後・晩期）、Ⅴ層（マージ）については、色調・土質により細分されている。また、宜野湾市の層序との対応関係についても触れている。

④では、暫定的に第Ⅰ期層から第Ⅵ期層までの６層に分けられている。第Ⅰ期層から第Ⅴ期層までが現代から縄文時代後晩期の遺物包含層で、第Ⅵ期層がマージである。

⑤では、Ⅰ層からⅥ層までの６層に分けられている。Ⅰ～Ⅳ層が現代～縄文時代後晩期の遺物包含層で、Ⅴ・Ⅵ層がマージ・石灰岩である。また、時期や色調により細分し、宜野湾市の層序との対応関係についても触れている。

次に、宜野湾市が設定した層序を見ていく。

⑥では、Ⅰ層からⅩ層までの 10 層に分けている。このうちⅠ・Ⅱ層が現代～近世以前の遺物包含層で、Ⅲ～Ⅹ層が基盤層（マージ、石灰岩、クチャ）である。

⑦では、⑥と同様にⅠ層からⅩ層までの 10 層に分けている。そしてⅡ層について、戦前～古代までを時代別に４つの層（ユニット①～④）に細分している。

⑧では、⑦と同様にⅠ層からⅩ層までの 10 層に分けている。Ⅱ層については、上原濡原遺跡の試掘調査成果を加味して、５つの層（ユニット①～⑤）に細分している。

⑨では、⑧と同じ層序となっている。

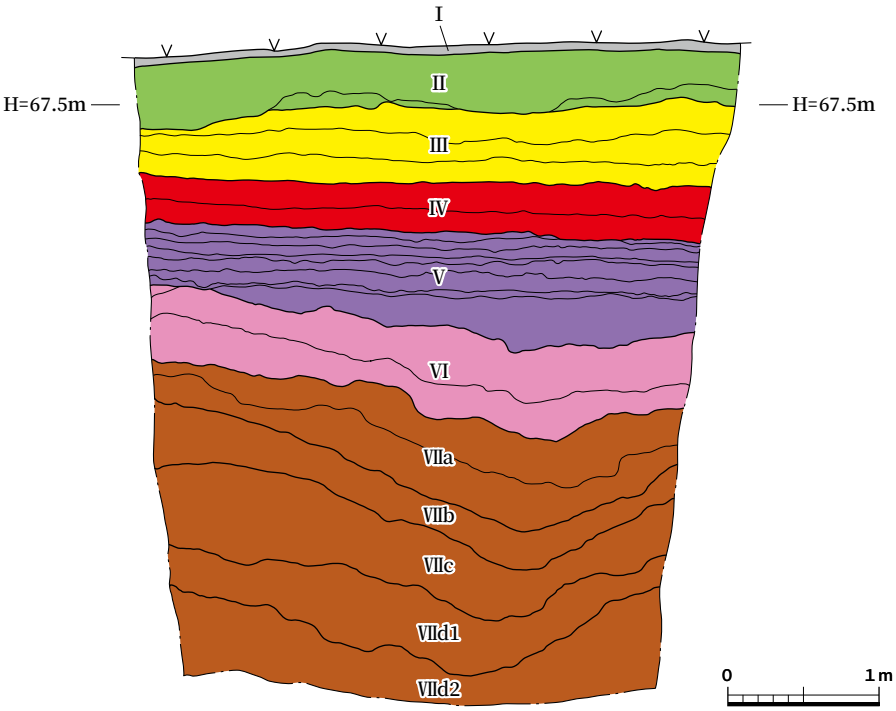
宜野湾市は、Ⅱ層を時期別に細分する際、「ユニット」という名称を使っている。また、試掘調査開始当初から一貫してⅠ層～Ⅹ層を基本層序としている。さらに、マージをⅢ層～Ⅶ層に細分し、旧地形の復元や埋蔵文化財包蔵地の推定を試みている。

第２節　統一層序

今回、『基地内文化財９』を取りまとめるにあたり、沖縄県と宜野湾市がそれぞれ使用してきた層序について統一し、試掘成果について理解しやすくし、今後の調査に備えることを目指した。

層序を統一するに当たっては、沖縄県と宜野湾市の担当者間で、層序名の付け方などについて議論した。特に宜野湾市のユニット⑤については、谷部に限定して堆積しており、時期についても検討の余地があるなど課題もあるため、今回の統一層序はあくまで暫定的なものとする。そのため、今後の調査成果によっては、より良い層序に変更する可能性もある。

図版３　フテ 13 ーＥ２ーナ南壁



第 14 図　フテ 13－E2－ナ南壁　土層図

第６表　各報告書の層序一覧表

沖縄県　『基地内文化財Ⅲ』

名称	時代	色調	土質	混入物など	解釈
Ⅰ層					表土・基地造成に伴う盛土
Ⅱ層	基地造成前				基地造成前の旧表土・耕作土
Ⅲ層	近世～グスク時代				人為および自然堆積層
Ⅳ層	貝塚時代中期				人為および自然堆積層
Ⅴ層					マージ
Ⅵ層					岩盤
Ⅶ層					クチャ

沖縄県　『基地内文化財Ⅳ』

名称	時代	色調	土質	混入物など	解釈
Ⅰ層	戦後				表土・基地造成に伴う盛土
Ⅱ層	基地造成前	黄褐色～褐色	シルト主体だが、下層より細砂～極細砂が多い。	石灰岩細～中礫多い。	旧表土・耕作土
Ⅲ層	近世～グスク時代	にぶい黄褐色～暗褐色	シルト主体だが、Ⅱ層よ暗く、しまりがいい。		人為および自然堆積層
Ⅳ層	貝塚時代中期	暗褐色～黒褐色	シルトだが粘質がやや強く、Ⅲ層より明らかにしまりがいい。		人為および自然堆積層
Ⅴ層		黄褐色～明褐色	粘土からシルトが主体。		琉球石灰岩の風化土。島尻マージ。
Ⅵ層					石灰岩の岩盤。宜野湾市のⅧ層に対応。

沖縄県　『基地内文化財５』

名称	時代	色調	土質	混入物	解釈
Ⅰ層					表土・盛土
Ⅱ層	基地造成前				旧表土・耕作土。宜野湾市Ⅱ層ユニット①に相当。
Ⅲ層	近世～グスク時代	にぶい黄褐色～暗褐色	シルト	Ⅱ層より色調が暗く、しまりが良い。	人為および自然堆積層。宜野湾市Ⅱ層ユニット②～④に類似。
ⅢA層		にぶい黄褐色～褐色	シルト		
ⅢB層		暗褐色	シルト		
ⅢC層		暗褐色～褐色	シルト		
Ⅳ層	縄文時代後・晩期		シルト		自然堆積層。
ⅣA層		暗褐色	シルト	Ⅴ層と土質が近い。	厚さは10cm以下。旧表土か。
ⅣB層		褐色	シルト～細砂	ⅣA層比べるとかなり砂っぽい。	厚さは１ｍを超える部分あり。流水などによる堆積層。宜野湾市Ⅱ層ユニット⑤に土質・色調が類似。
Ⅴ層					琉球石灰岩の風化土壌、島尻マージ。宜野湾市のⅢ～Ⅶ層に対応。
ⅤA層		暗褐色～褐色	シルト	マンガン斑が多い。	宜野湾市のⅢ・Ⅳ層に対応。
ⅤB層		明褐色	シルト		宜野湾市のⅤ層に対応。
ⅤC層		褐色～黄褐色	砂混じりシルト		宜野湾市のⅥ層に対応。
ⅤD層		暗褐色～黄黄褐色	粘土～シルト	クチャブロックや風化した石灰岩礫が多い。	宜野湾市のⅦ層に対応。
Ⅵ層					石灰岩の岩盤。宜野湾市のⅧ層に対応。

沖縄県　『基地内文化財６』

名称	時代	色調	土質	混入物など	解釈
第Ⅰ期層	戦後から現代	黒色など			表土、腐植土、米軍造成土。
第Ⅱ期層	近代から戦前～戦争直後	褐色～灰褐色	砂質シルト	大量の炭化物・焼土粒。	耕作土
第Ⅲ期層	近世	褐色～灰褐色	砂質シルト	大量の炭化物・焼土粒。	
第Ⅳ期層	グスク時代	暗褐色	しまりの強いシルト	Ⅲ層よりしまりが強い。	
第Ⅴ期層	縄文時代後晩期	①暗褐色～黒褐色 ②黄褐色～オリーブ褐色	粘質シルト	①土壌化したマンガンや縦縞状の筋。 ②大量の土壌化したマンガン粒。	谷状の地形に堆積。
第Ⅵ期層		上から明褐色粘質シルト、明褐色砂質シルト、黄褐色砂質シルト、砂質粘質土シルト、暗褐色粘質土シルトの順で堆積。			赤土（マージ）

沖縄県　『基地内文化財７』

名称	時代	色調	土質	混入物	解釈
Ⅰ層					表土・盛土
Ⅰ-1層					現表土
Ⅰ-2層					基地造成土
Ⅱ層	近世・近代から基地造成前		粗粒シルト	石灰岩礫。焼土塊、炭を多く含む。	耕作土。宜野湾市Ⅱ層ユニット①②に相当。
Ⅱ-1層	近代～戦後	暗褐色	シルト		
Ⅱ-2層	近世	オリーブ褐色	シルト		
Ⅲ層	平安並行時代末からグスク時代	にぶい黄褐色～暗褐色	シルト		耕作土層。宜野湾市Ⅱ層ユニット③に相当。
Ⅳ層	縄文時代後・晩期	オリーブ褐色	シルト		2次堆積層。宜野湾市Ⅱ層ユニット⑤に相当。
Ⅳ-1層					
Ⅳ-2層					
Ⅳ-3層					
Ⅴ層		暗褐色～褐色			島尻マージ。地山。宜野湾市のⅢ～Ⅳ層に相当。
Ⅵ層			琉球石灰岩		基盤層。宜野湾市のⅧ層に対応。

宜野湾市　『基地内埋蔵文化財調査報告書６』

名称	時代	色調	土質	混入物など	解釈
Ⅰ層	現代			近代以降の遺物。	盛土、造成層、攪乱層。
Ⅱ層	～現代				基地接収以前の旧表土や旧耕作土。
ユニット①	戦前～基地接収後	灰褐色	砂質シルト	炭化物、焼土はわずか。	上層が基地接収後の黙認耕作土。下層が近代の耕作土。
ユニット②	近世	褐色～灰褐色	砂質シルト	上層に比べ粘質が高い。炭化物、焼土が増えてくる。	耕作土
ユニット③	グスク時代	暗灰色～黒灰色	砂質シルト～シルト	炭化物、焼土、マンガンなどの集中。植栽痕と考えられるピットが下層の同レベルで検出される。	耕作土
ユニット④	古代～グスク時代初期	灰黄褐色～鈍い黄褐色	シルト～粘土質シルト	焼土粒が多い。腐食や根痕が多い。	耕作土
ユニット⑤	縄文時代後期～貝塚時代後期を経た後	黄褐色	粘質シルト	鉄錆のように赤く変色し、硬質化したマンガン粒を多く含む	谷地へと流れ込んで堆積した土。
Ⅲ層		褐色	砂質シルト	マンガン濃集。塊状。Ⅳ層に比べ泥質で、団粒構造が発達。	マージの二次堆積層
Ⅳ層		明黄褐色（褐色）	砂質シルト	マンガン	地山
Ⅴ層		明黄褐色（明褐色）	砂質シルト	マンガン。Ⅵ層に比べ非常に泥質で、団粒工場が発達。	地山
Ⅵ層		明黄褐色	砂質シルト	最も砂質。	地山。地域によって3層に細分。
Ⅶ層		暗褐色	砂質粘土質シルト	起伏に富む。	地山。
Ⅷ層		灰白色	石灰岩		琉球層群
Ⅸ層		灰オリーブ色	泥岩風下層		島尻層群
Ⅹ層		灰色	泥岩		島尻層群

第７表　統一層序一覧表

統一層序	時代	解釈	土の色・質	混入物など	略図の色	県 Ⅲ・Ⅳ	県５	県６	県７	市Ⅰ	市Ⅱ	市Ⅴ・６
Ⅰa層	現代　基地造成後	表土、撹乱層				Ⅰ層	Ⅰ層	第Ⅰ期層	Ⅰ-1層	Ⅰ層	Ⅰ層	Ⅰ層
Ⅰb層	現代　基地造成時	基地造成土				Ⅰ層	Ⅰ層	第Ⅰ期層	Ⅰ-2層	Ⅰ層	Ⅰ層	Ⅰ層
Ⅱ層	近・現代　基地造成前（黙認耕作地は基地造成後）	耕作土など	灰褐色 砂質シルト			Ⅱ層	Ⅱ層	第Ⅱ期層	Ⅱ-1層	Ⅱ層	Ⅱ層 ユニット①	Ⅱ層 ユニット①
Ⅲ層	近世	耕作土など	褐色～灰褐色 砂質シルト			Ⅲ層	Ⅲ A層～ Ⅲ C層	第Ⅲ期層	Ⅱ-2層	Ⅱ層	Ⅱ層 ユニット②	Ⅱ層 ユニット②
Ⅳ層	グスク時代	耕作土など	暗灰色～黒灰色 砂質シルト～シルト	植栽痕と考えられるピットが下層の同レベルで検出される。		Ⅲ層		第Ⅳ期層	Ⅲ-1層 Ⅲ-2層	Ⅱ層	Ⅱ層 ユニット③	Ⅱ層 ユニット③
Ⅴ層	古代～グスク時代初期	耕作土など	灰黄褐色～鈍い黄褐色 シルト～粘土質シルト	焼土粒が多い。腐食や根痕が多い。						Ⅱ層	Ⅱ層 ユニット④	Ⅱ層 ユニット④
Ⅵ層	縄文時代後期･晩期	谷への堆積土など	黄褐色 粘質シルト	鉄錆のように赤く変色し、硬質化したマンガン粒を多く含む		Ⅳ層	Ⅳ A層・ Ⅳ B層	第Ⅴ期層	Ⅳ層	Ⅱ層		Ⅱ層 ユニット⑤
Ⅶa層		マージ	褐色 砂質シルト	マンガン濃集。塊状。Ⅶb層に比べ泥質で、団粒構造が発達。		Ⅴ層	ⅤＡ層	第Ⅵ期層	Ⅴ層	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層
Ⅶb層		マージ	明黄褐色（褐色） 砂質シルト	マンガン		Ⅴ層	ⅤＡ層	第Ⅵ期層	Ⅴ層	Ⅳ層	Ⅳ層	Ⅳ層
Ⅶc層		マージ	明黄褐色（明褐色） 砂質シルト	マンガン。Ⅶd1層に比べ非常に泥質で、団粒構造が発達。		Ⅴ層	ⅤＢ層	第Ⅵ期層		Ⅴ層	Ⅴ層	Ⅴ層
Ⅶd1層		マージ	明黄褐色 砂質シルト	最も砂質。		Ⅴ層	ⅤＣ層	第Ⅵ期層		Ⅵa層	Ⅵa層	Ⅵa層
Ⅶd2層		マージ	明黄褐色 砂質シルト	最も砂質。		Ⅴ層	ⅤＣ層	第Ⅵ期層		Ⅵb層	Ⅵb層	Ⅵb層
Ⅶd3層		マージ	明黄褐色 砂質シルト	最も砂質。		Ⅴ層	ⅤＣ層	第Ⅵ期層		Ⅵc層	Ⅵc層	Ⅵc層
Ⅶe層		マージ	暗褐色 砂質粘土質シルト	起伏に富む。		Ⅴ層	ⅤＤ層	第Ⅵ期層		Ⅶ層	Ⅶ層	Ⅶ層
Ⅷ層		琉球層群　石灰岩	灰白色 石灰岩			Ⅵ層	Ⅵ層		Ⅵ層	Ⅷ層	Ⅷ層	Ⅷ層
Ⅸ層		島尻層群　クチャの風化層	灰オリーブ色 泥岩風化土			Ⅶ層	Ⅶ層			Ⅸ層	Ⅸ層	Ⅸ層
Ⅹ層		島尻層群　クチャ	灰色 泥岩			Ⅶ層	Ⅶ層			Ⅹ層	Ⅹ層	Ⅹ層

第４章　試掘調査

第１節　調査成果の概要

平成 11 年度から平成 22 年度に沖縄県と宜野湾市が調査した試掘坑の合計は､1,850 か所である。年度別・グリッド別の試掘坑の数は、一覧表のとおりである。

試掘調査によって新たに発見された遺跡数は、23 遺跡である。まず、沖縄県が平成 11 年度から平成 20 年度に行った試掘調査により、大謝名軍花原第一遺跡、大謝名軍花原第二遺跡の２遺跡が新たに発見された。

つぎに、宜野湾市が平成 13 年度から平成 22 年度に行った試掘調査により、新城東原遺跡、上原仲毛原遺跡、中原同原遺跡、喜友名前原第四遺跡、喜友名前原第五遺跡、神山黒数原第一遺跡、神山黒数原第二遺跡、大山岳之佐久原第四遺跡、大山加良当原第三遺跡、大山加良当原第四遺跡、大山加良当原第五遺跡、大山勢頭原第四遺跡、大山勢頭原第五遺跡、大山大久保原遺跡、宜野湾東原遺跡、宜野湾前原第一遺跡、宜野湾前原第二遺跡、佐真下同原遺跡、佐真下西原遺跡、伊佐上原第二古墓群、大山岳之佐久原古墓群の 21 遺跡が新たに発見された。

沖縄県と宜野湾市が行った試掘調査の成果については、次の８冊の報告書に掲載されている。

①『基地内文化財Ⅱ』（2002 年）
②『基地内文化財Ⅲ』（2004 年）
③『基地内文化財Ⅳ』（2006 年）
④『基地内文化財６』（2014 年）
⑤『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』（2005 年）
⑥『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』（2006 年）
⑦『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』（2009 年）
⑧『基地内埋蔵文化財調査報告書６』（2013 年）

①では、沖縄県が平成 11 ～ 13 年度に行った、378 か所の試掘成果が報告された。

②では、沖縄県が平成 14・15 年度に行った、369 か所の試掘成果が報告された。ﾌﾃ 15-D9-ｱでは、縄文時代晩期の竪穴住居跡が２基検出された。ﾌﾃ 16-I5-ｱでは、マージの最下層から獣骨片が出土した。ﾌﾃ 26-B4-ﾅでは、弥生～平安併行時代の土器が多く出土した。

③では、沖縄県が平成 15・16 年度に行った、100 か所の試掘成果が報告された。

④では、沖縄県が平成 18 ～ 20 年度に行った、181 か所の試掘成果が報告された。ﾌﾃ 24-C6-ｻとﾌﾃ 24-D6-ｱでは、黒曜石が出土した。ﾌﾃ 24-G4-ｱとﾌﾃ 36-B1-ｱでは、造成土で埋められた墓が検出された。

⑤では、宜野湾市が平成 13・14 年度に行った、589 か所の試掘成果が報告された。試掘調査成果に基づく旧地形の考察や、島尻マージの土壌分析などの成果も報告された。

⑥では、宜野湾市が平成 17 年度に行った、74 か所の試掘成果が報告された。

⑦では、宜野湾市が平成 18・19 年度に行った、69 か所の試掘成果が報告された。ﾌﾃ 6-I4-ｱでは、深さ約 1.2 mで断面が４段の階段状となる、大型の土坑が検出された。この土坑はグスク時代の遺構で、さらに下層からは、縄文時代晩期の炭だまりが検出された。

⑧では、宜野湾市が平成 21・22 年度に行った、90 か所の試掘成果が報告された。基盤層の堆積状況や標高から、旧地形の復元が行われた。

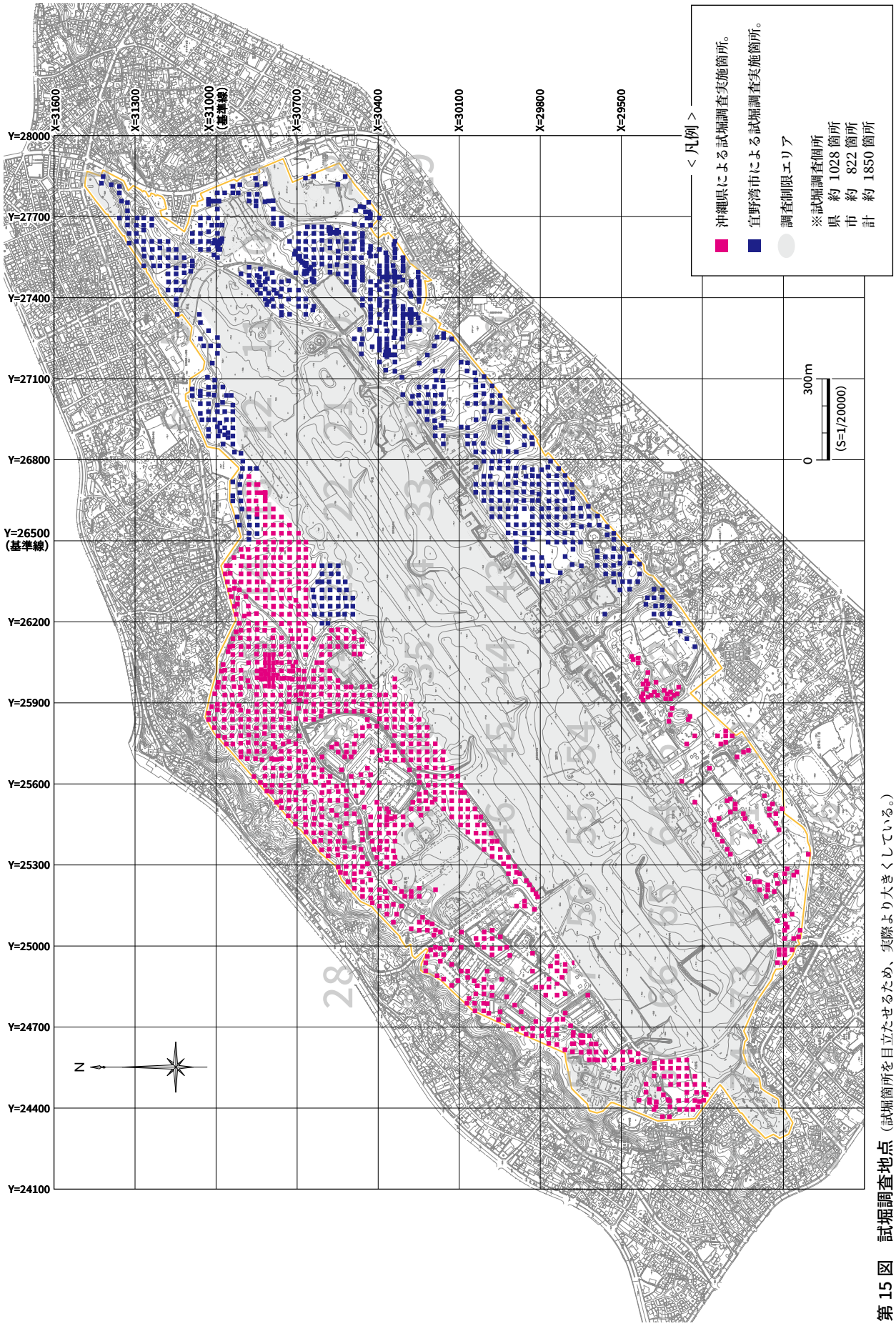
第８表　試掘坑の数量一覧表(年度別)

調査年度	県	市	合計
H11	44		44
H12	72		72
H13	262	317	579
H14	305	272	577
H15	90		90
H16	74		74
H17		74	74
H18	76	43	119
H19	56	26	82
H20	49		49
H21		66	66
H22		24	24
合計	1028	822	1850

第９表　試掘坑の数量一覧表(グリット別)

グリット	県	市	合計
フテ1		8	8
フテ2		5	5
フテ3		5	5
フテ4		57	57
フテ5		11	11
フテ6		18	18
フテ7	1		1
フテ8	5		5
フテ9		21	21
フテ10		49	49
フテ11		12	12
フテ12		25	25
フテ13	25	21	46
フテ14	74	5	79
フテ15	111		111
フテ16	81		81
フテ17	18		18
フテ18		12	12
フテ19		113	113
フテ20		23	23
フテ21			
フテ22	1		1
フテ23	20	34	54
フテ24	66	2	68
フテ25	61		61
フテ26	70		70
フテ27	19		19
フテ28			
フテ29			
フテ30		58	58
フテ31		81	81
フテ32		29	29
フテ33			
フテ34			
フテ35	5		5
フテ36	65		65
フテ37	51		51
フテ38	32		32
フテ39	15		15
フテ40		5	5

グリット	県	市	合計
フテ41		46	46
フテ42		65	65
フテ43		10	10
フテ44			
フテ45			
フテ46	31		31
フテ47	23		23
フテ48	38		38
フテ49	5		5
フテ50			
フテ51		48	48
フテ52		32	32
フテ53			
フテ54			
フテ55			
フテ56			
フテ57	21		21
フテ58	32		32
フテ59			
フテ60			
フテ61		22	22
フテ62	25	5	30
フテ63	8		8
フテ64	1		1
フテ65			
フテ66			
フテ67	45		45
フテ68	6		6
フテ69			
フテ70	10		10
フテ71	26		26
フテ72	11		11
フテ73	3		3
フテ74	4		4
フテ75			
フテ76	1		1
フテ77	14		14
フテ78	4		4
フテ79			
フテ80			
合計	1028	822	1850



第 15 図　試堀調査地点（試堀箇所を目立たせるため、実際より大きくしている。）

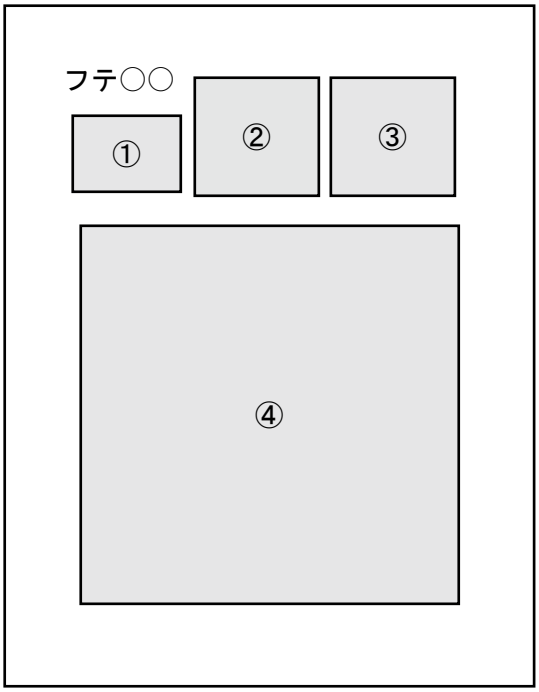
第２節　試掘地点と遺跡範囲

試掘坑の位置と遺跡範囲を詳細に示すために、縮尺１/2000 の地図を使用した。また、現在の状況と戦前の状況については写真で示した。

さらに、試掘坑を色分けする際には、その試掘坑で一番古い時代の遺物包含層の色で示した。

詳細については凡例のとおりである。

＜凡例＞



1　普天間飛行場を第Ⅰ区画の「フテ１」～「フテ 80」に分割し、各グリッドの情報を１ページにまとめた。

2　１ページの構成は、①第Ⅰ区画の位置を示す見取り図、②現在の写真、③戦前の写真、④試掘箇所と遺跡分布図とした。

3　②・③の写真は、④と同じ範囲とし、縮尺は 1/6000 とした。

4　④の地図は、試掘坑の位置を詳細に示すために、縮尺を 1/2000 とした。

5　②の写真は、令和２年度に宜野湾市税務課が株式会社パスコに委託して撮影・作成されたオルソ画像である。試掘坑については、実際よりも大きく図示して目立つようにした。

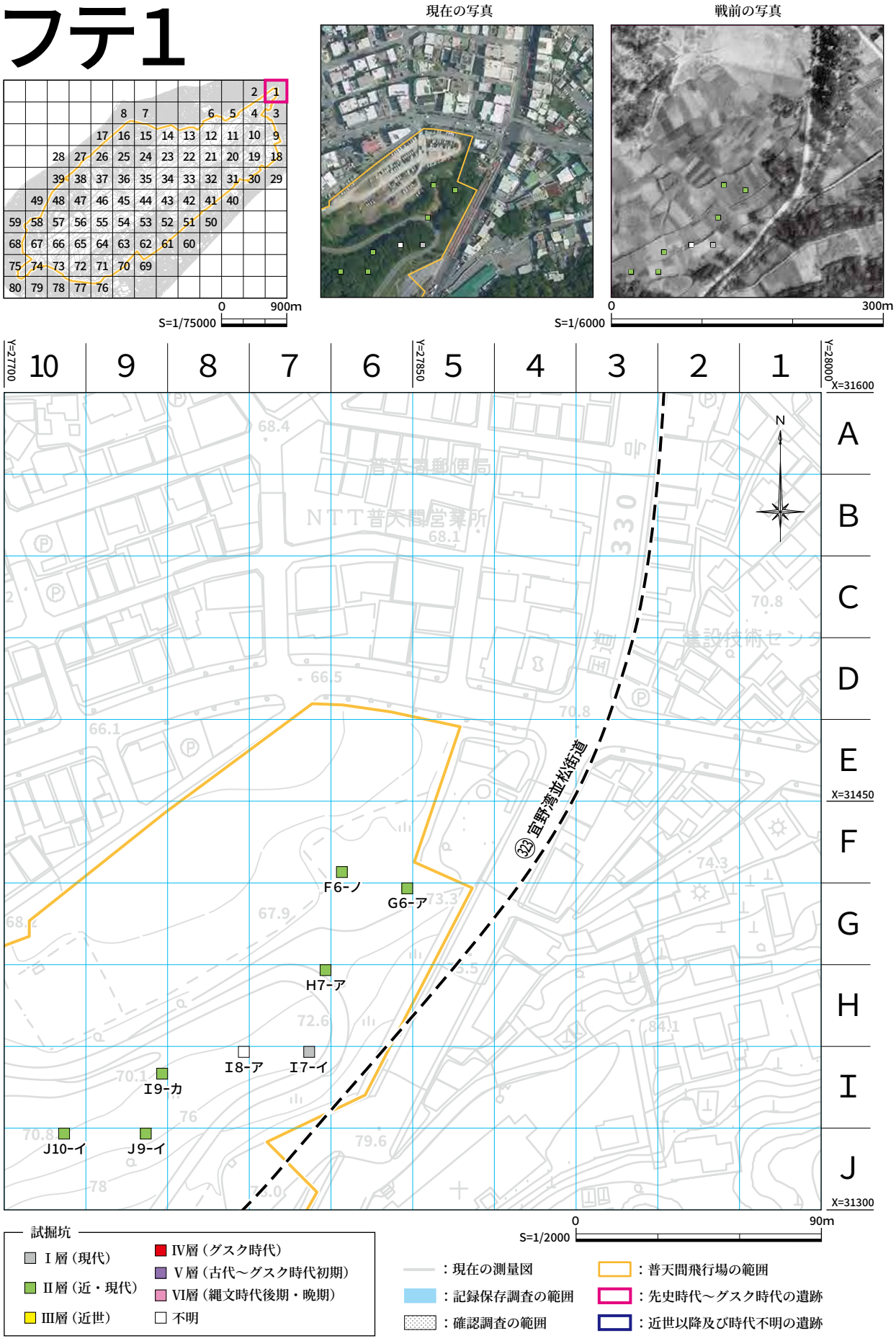
6　③の写真は、昭和 20 年にアメリカ軍が撮影した写真のデジタルデータ（(財）沖縄県公文書館所蔵）をもとに、宜野湾市文化課が作成したオルソ画像である。試掘坑については、実際よりも大きく図示して目立つようにした。

7　④に使用した地図は、平成 20 年度に宜野湾市都市計画課が作成した地形図の中に、沖縄県立埋蔵文化財センターが測量業者に委託して作成した詳細な地形図を組み込んだ図である。そのため、等高線などが合わずに途切れている部分もある。

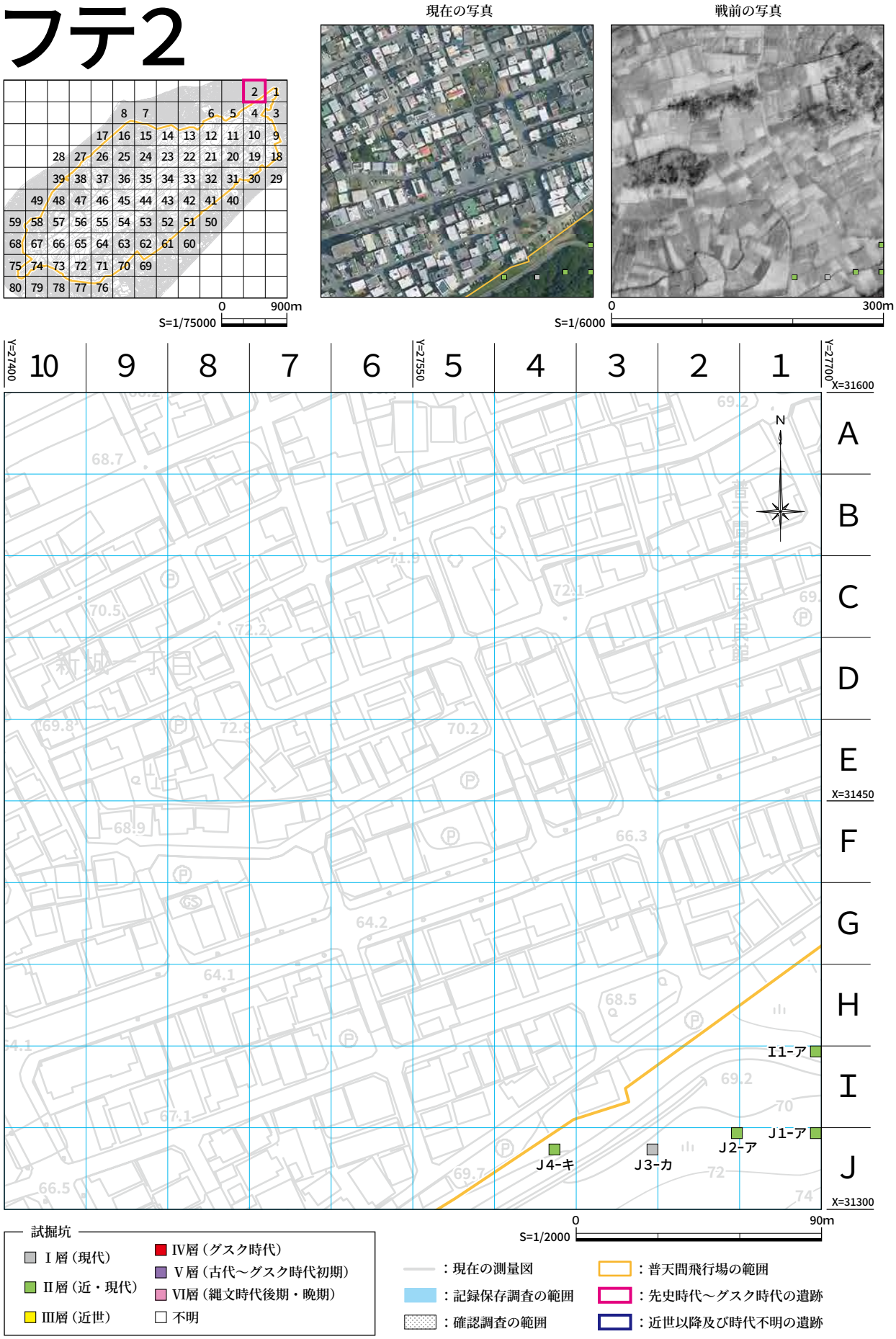
8　試掘坑の凡例にある色は、試掘坑で一番古い包含層の時代を示している。

9　試掘坑の名称については、第Ⅰ区画を省略し、第Ⅱ・第Ⅲ区画を使って「Ｄ６‐ア」のように表記した。

10　試掘坑のほかに、範囲確認調査と記録保存調査の範囲も図示した。

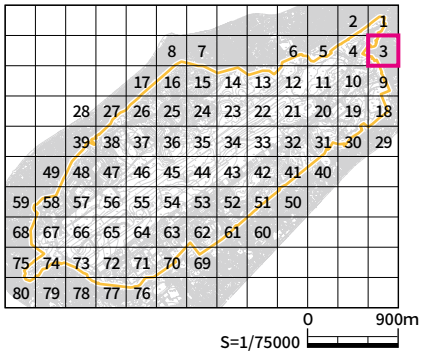


第 16 図　試掘坑配置図 フテ１



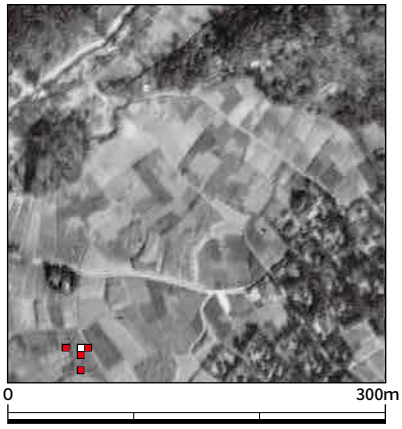
第 16 図　試掘坑配置図 フテ 2

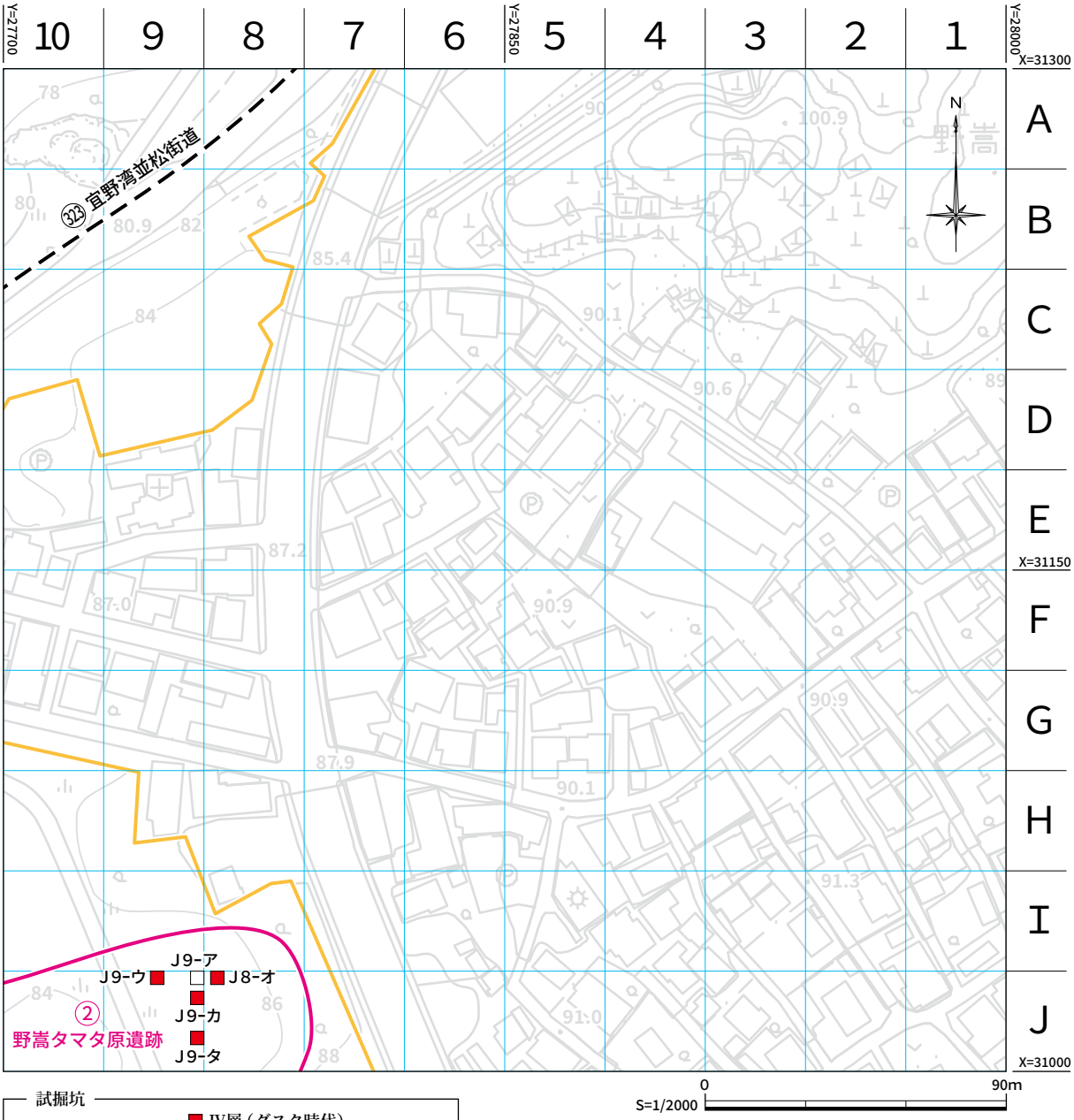
フテ3



現在の写真

戦前の写真

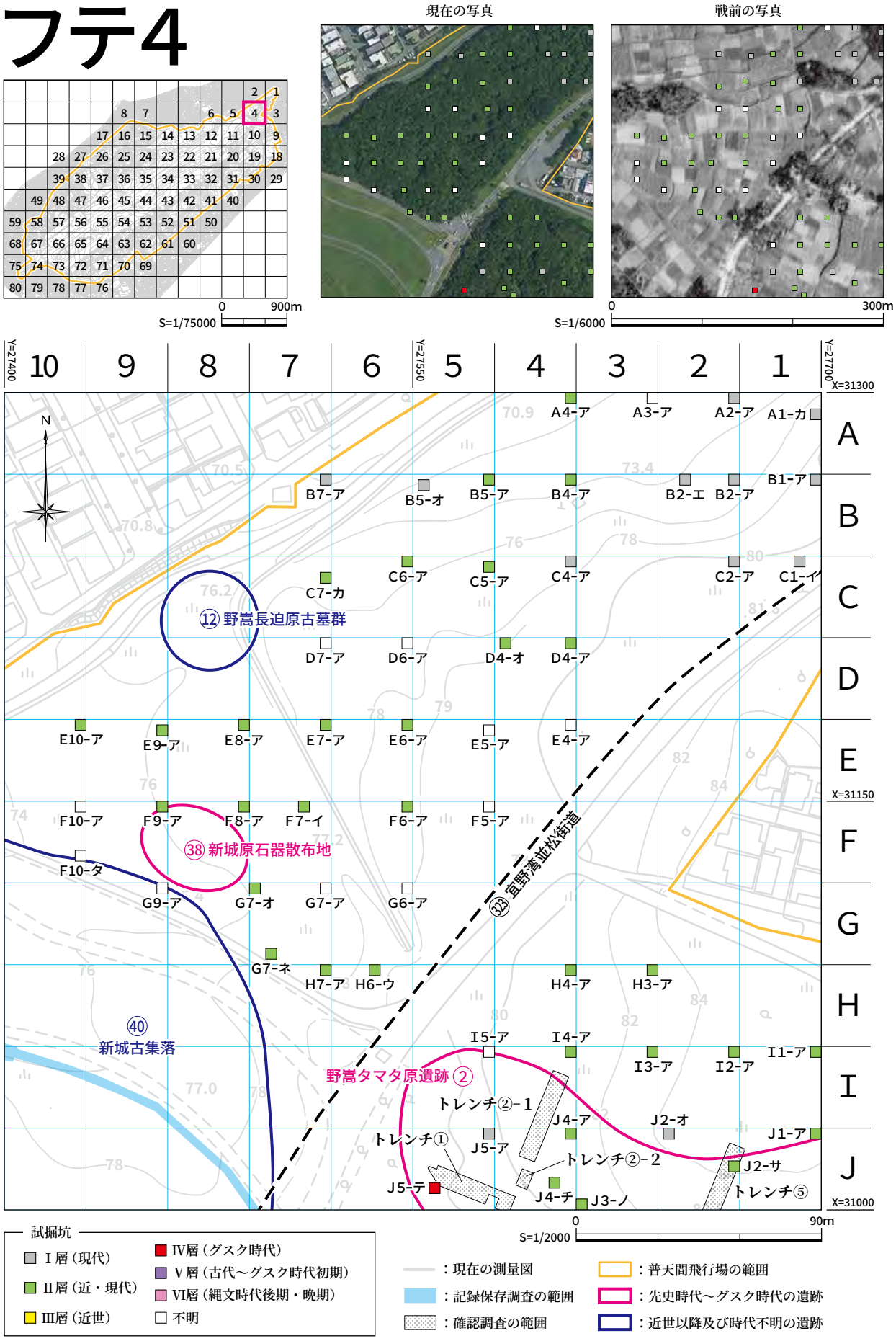




試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

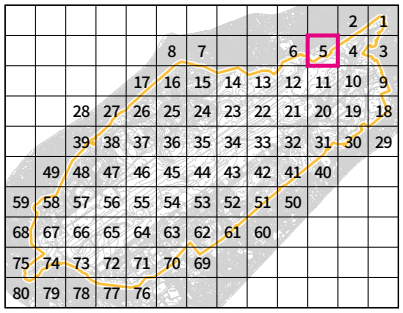
- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

第 16 図　試掘坑配置図 フテ３



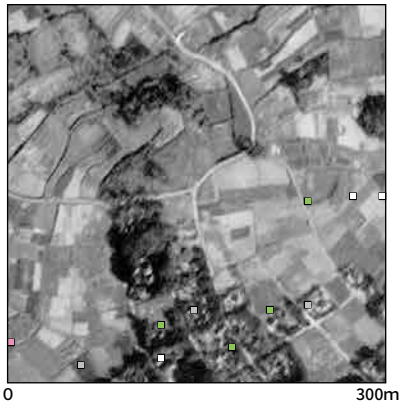
第 16 図　試掘坑配置図 フテ４

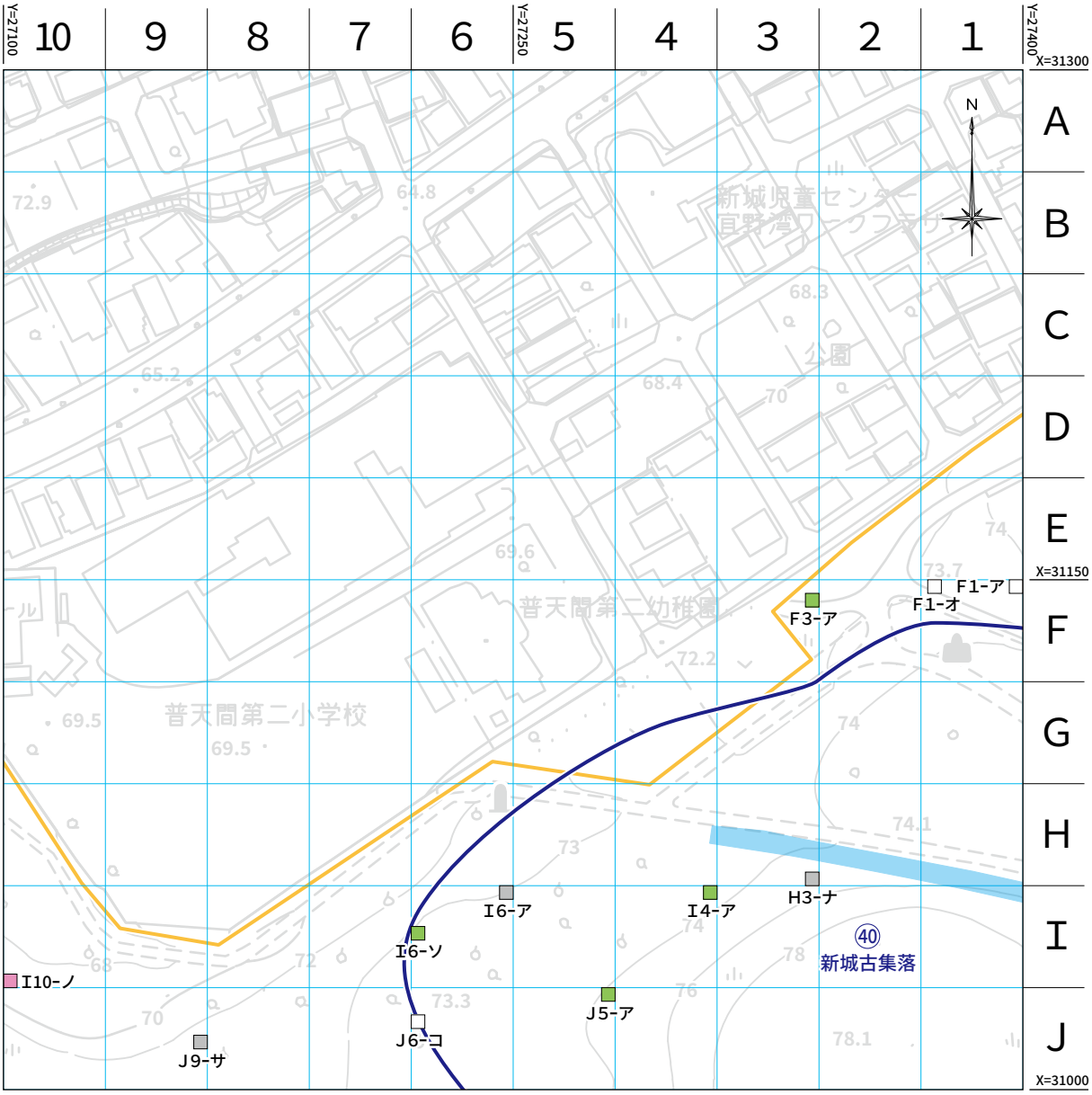
フテ5



現在の写真

戦前の写真





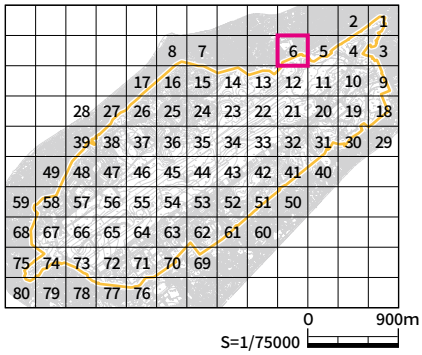
試掘坑

- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

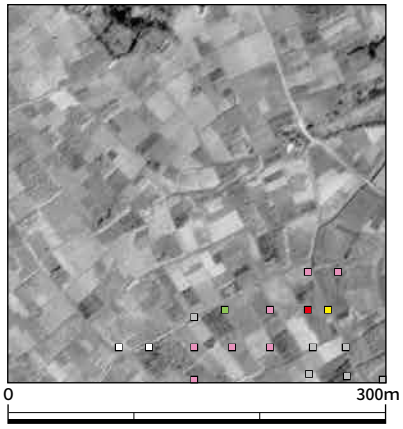
第 16 図　試掘坑配置図 フテ５

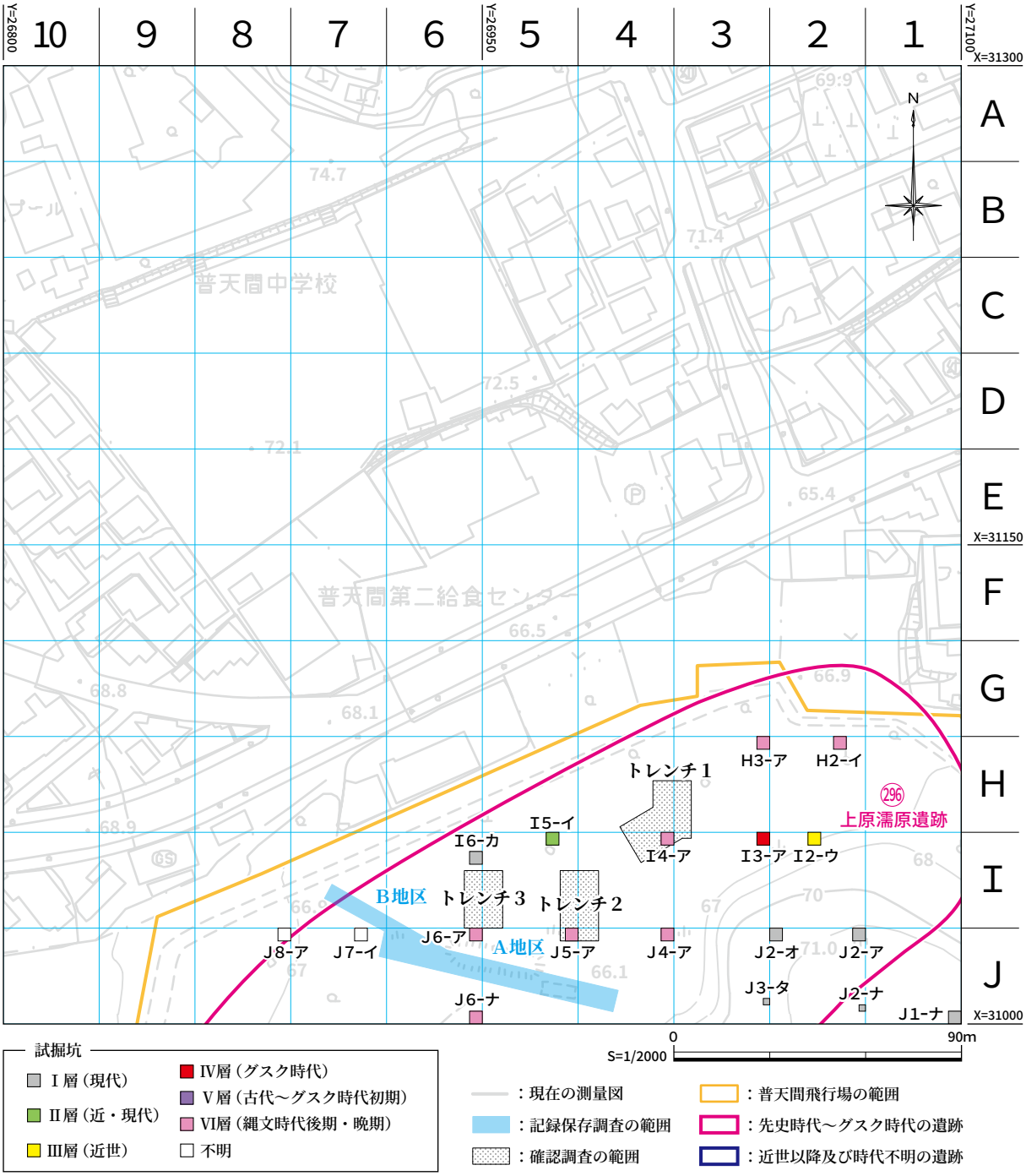
フテ6



現在の写真

戦前の写真



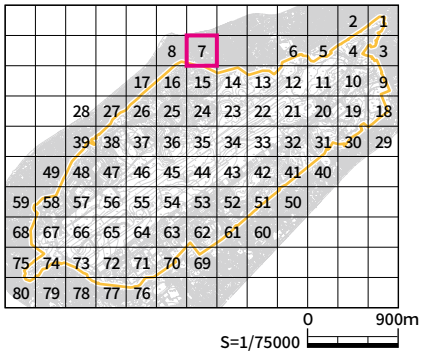


試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

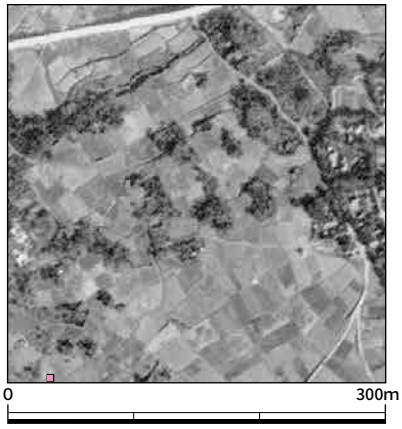
第 16 図　試掘坑配置図 フテ 6

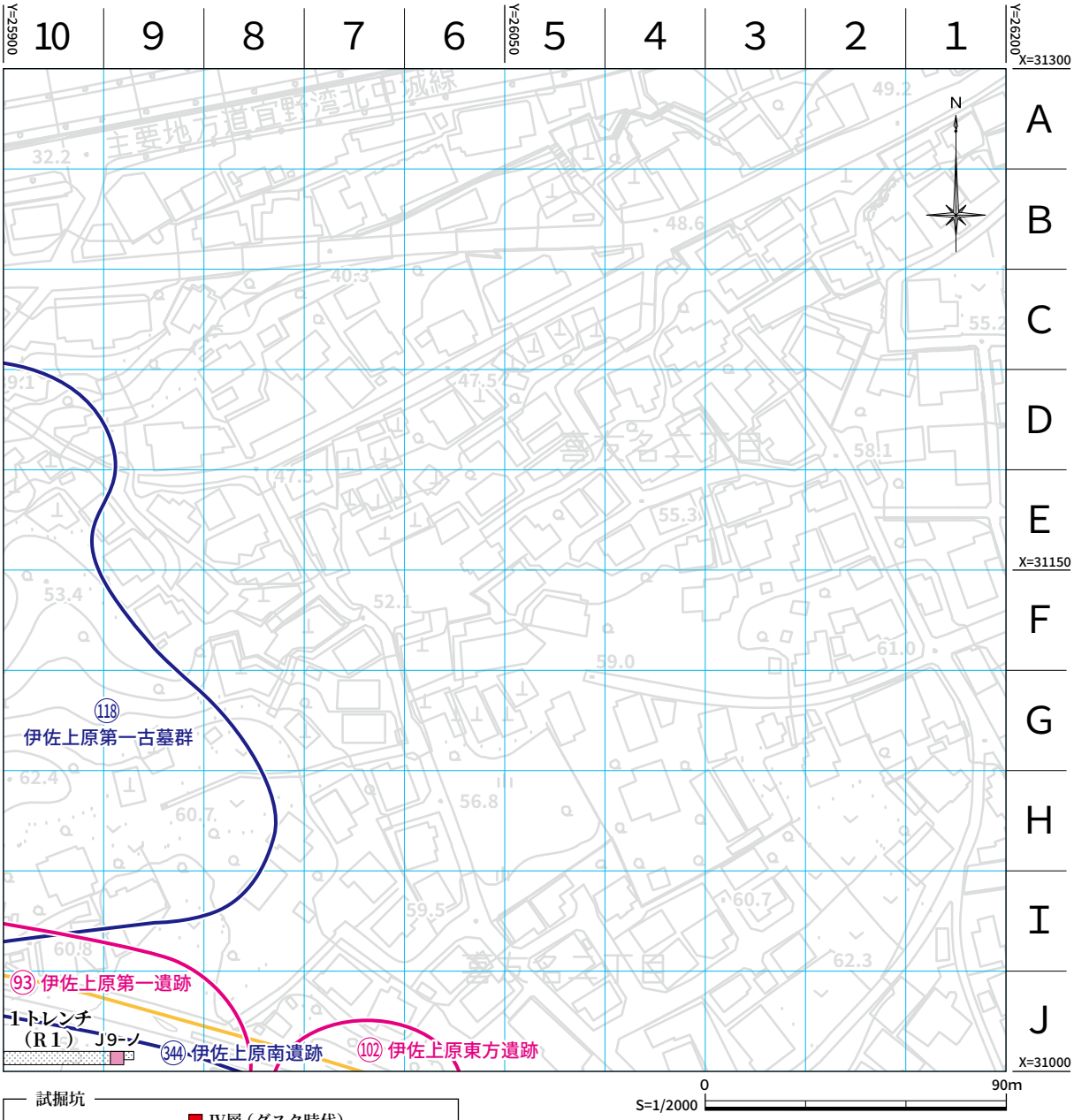
フテ7



現在の写真

戦前の写真



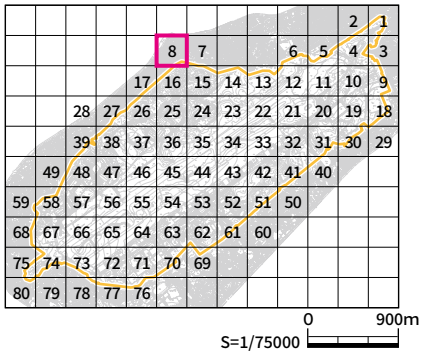


試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

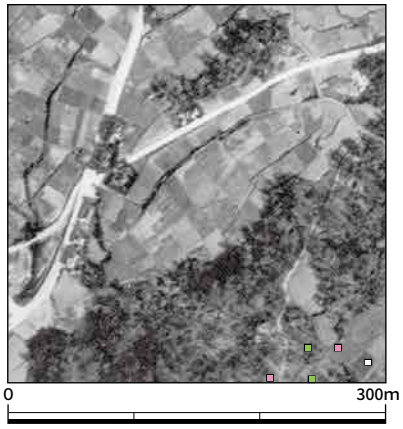
第 16 図　試掘坑配置図 フテ７

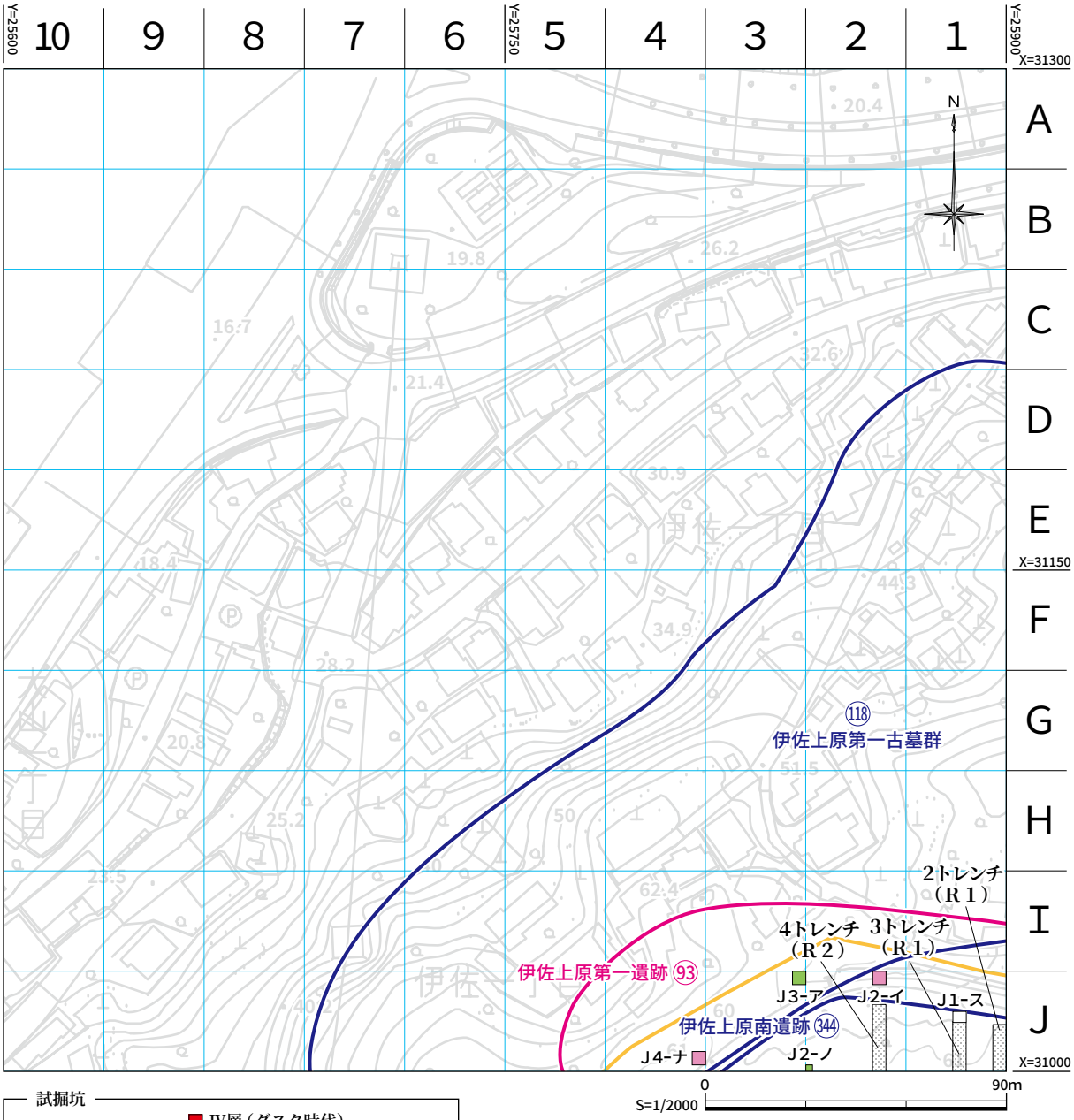
フテ8



現在の写真

戦前の写真





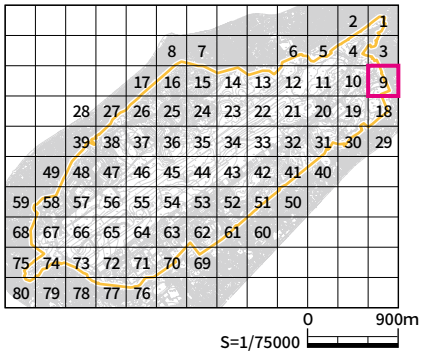
試掘坑

- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

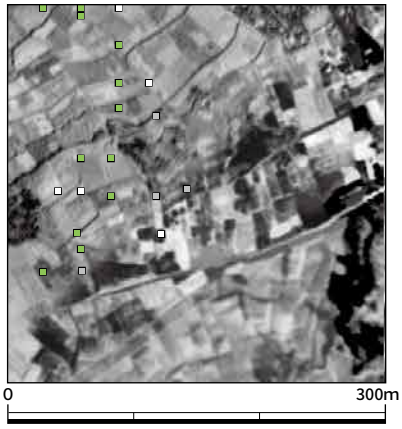
第 16 図　試掘坑配置図 フテ８

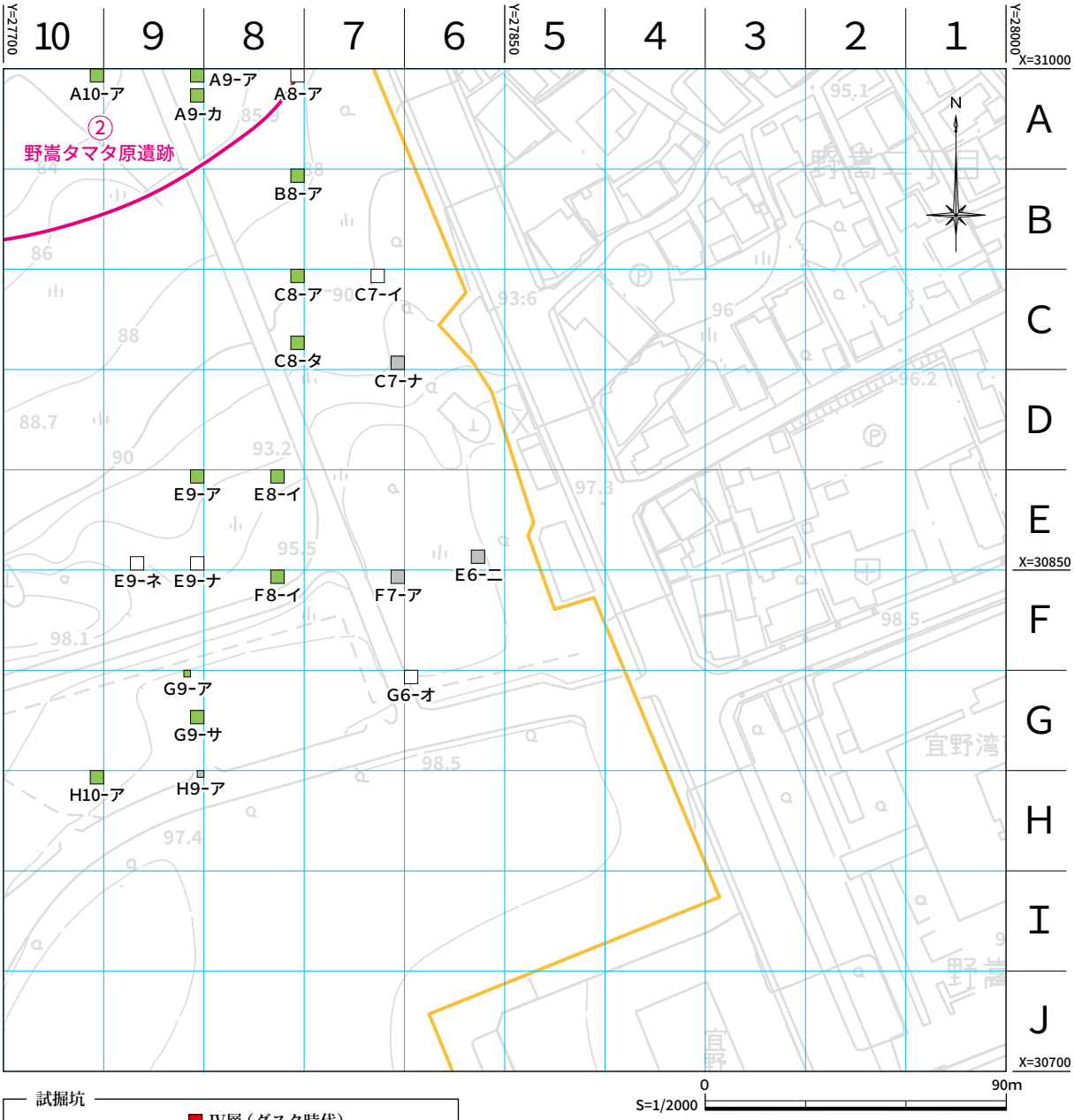
フテ9



現在の写真

戦前の写真

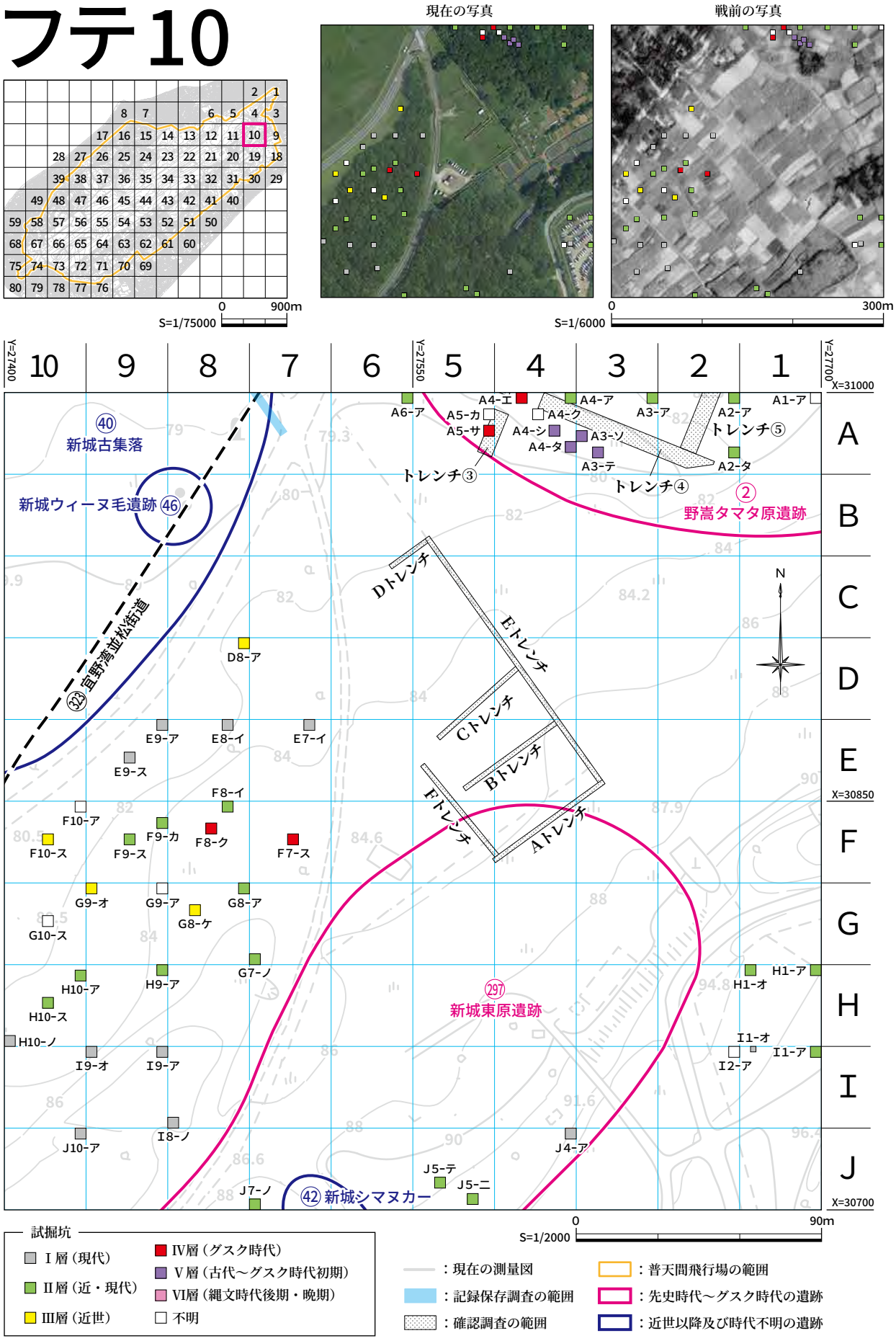




試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

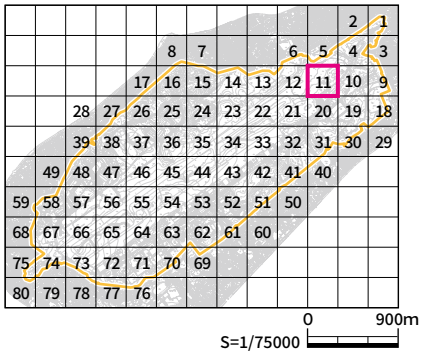
- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

第 16 図　試掘坑配置図 フテ９



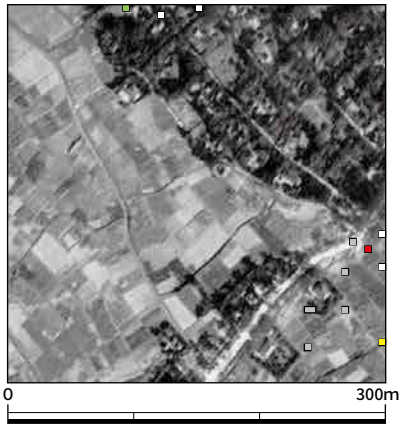
第 16 図　試掘坑配置図 フテ 10

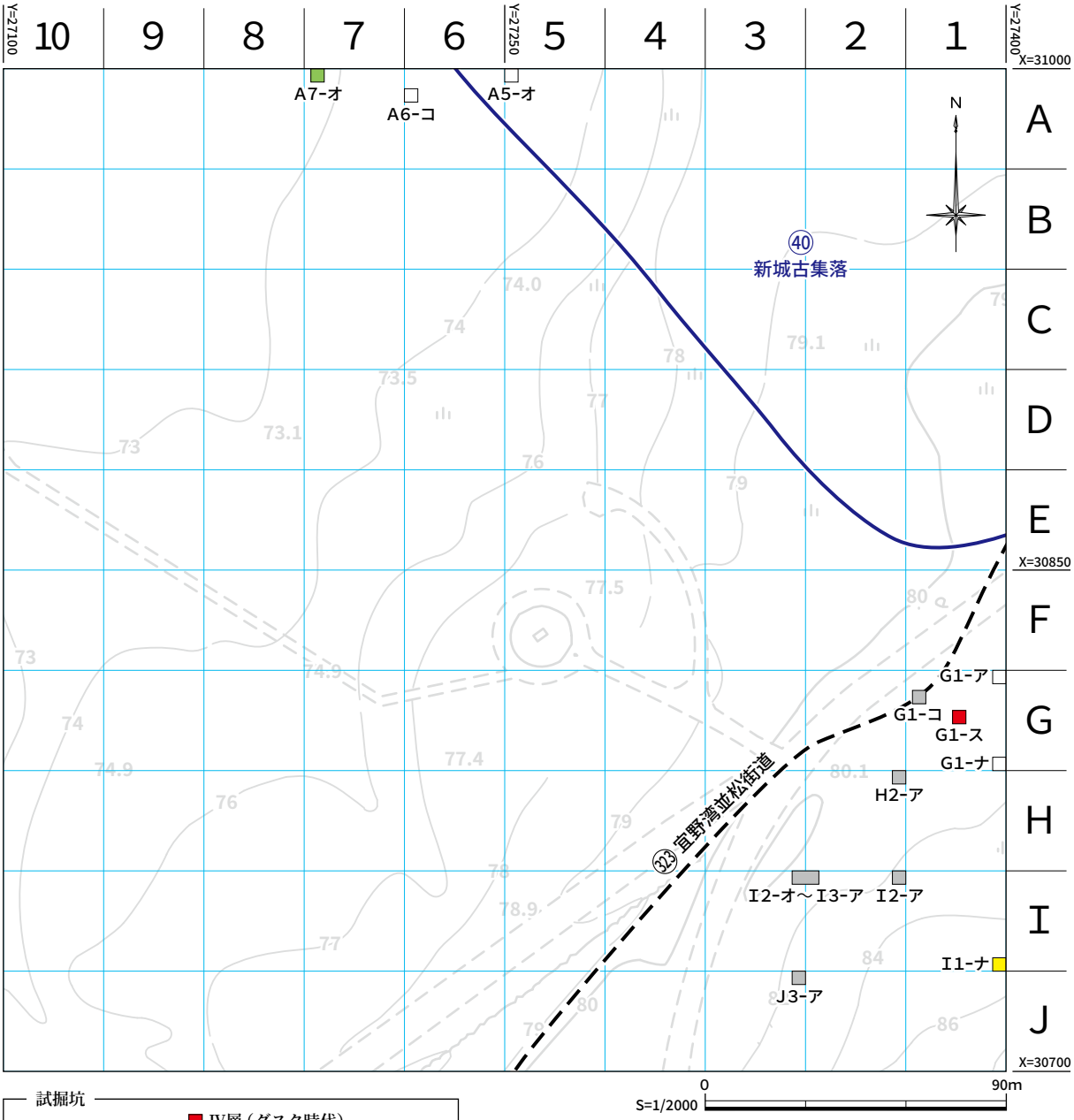
フテ11



現在の写真

戦前の写真



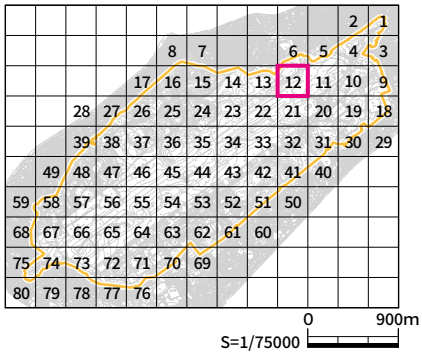


試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

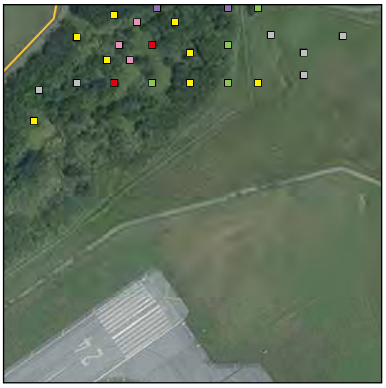
- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

第 16 図　試掘坑配置図 フテ 11

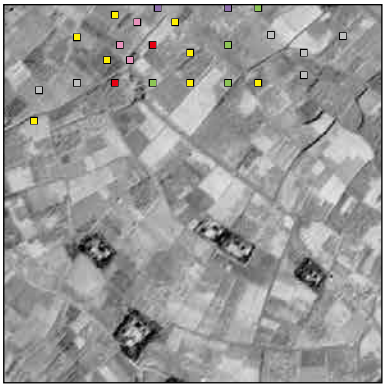
フテ12

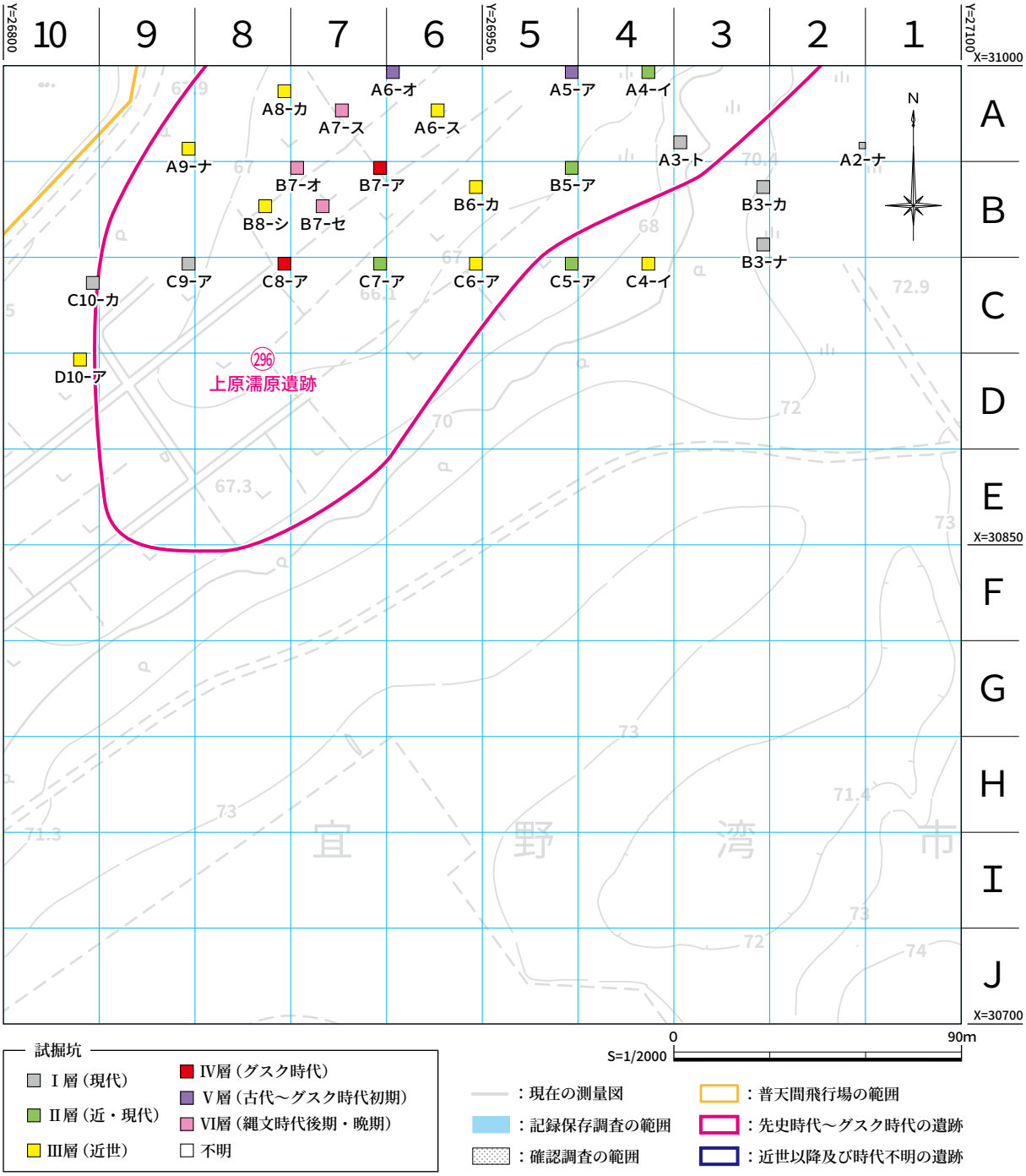


現在の写真



戦前の写真



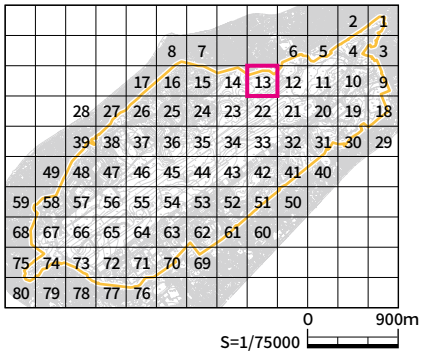


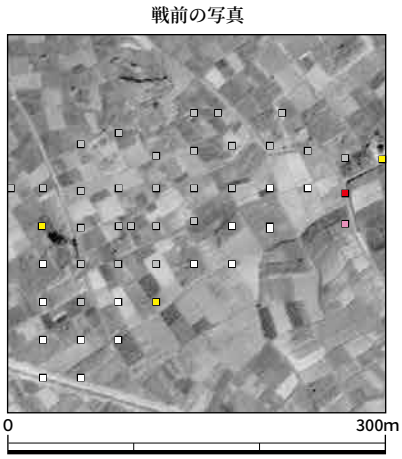
試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

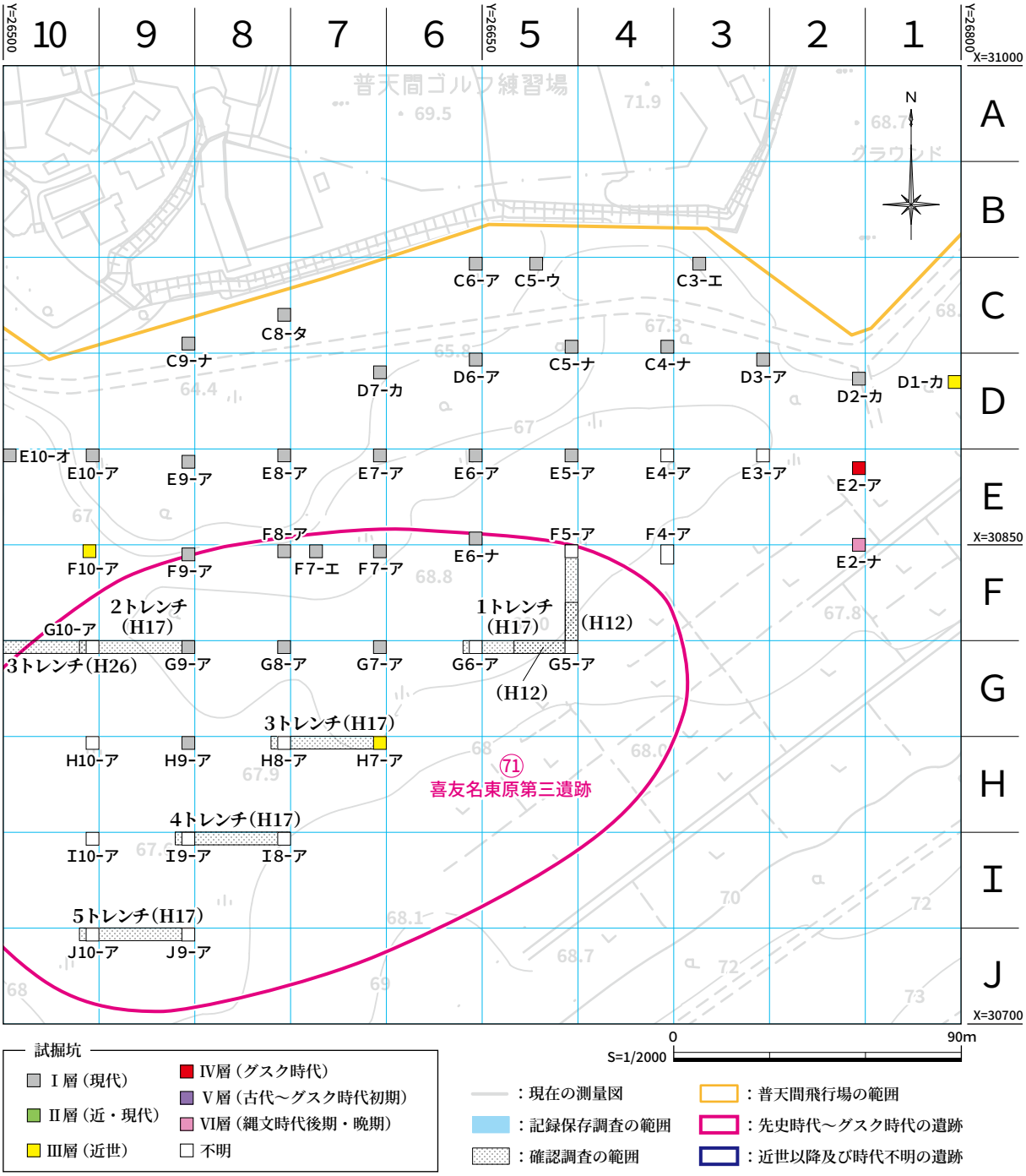
- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

第 16 図　試掘坑配置図 フテ 12

フテ13

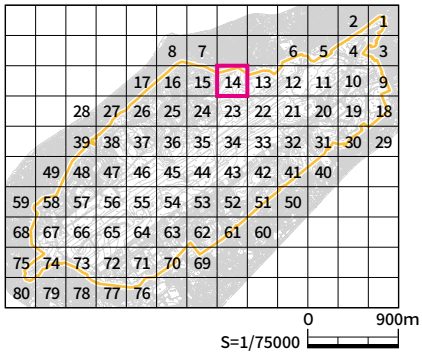






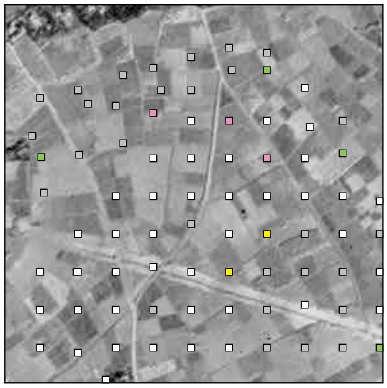
第 16 図　試掘坑配置図 フテ 13

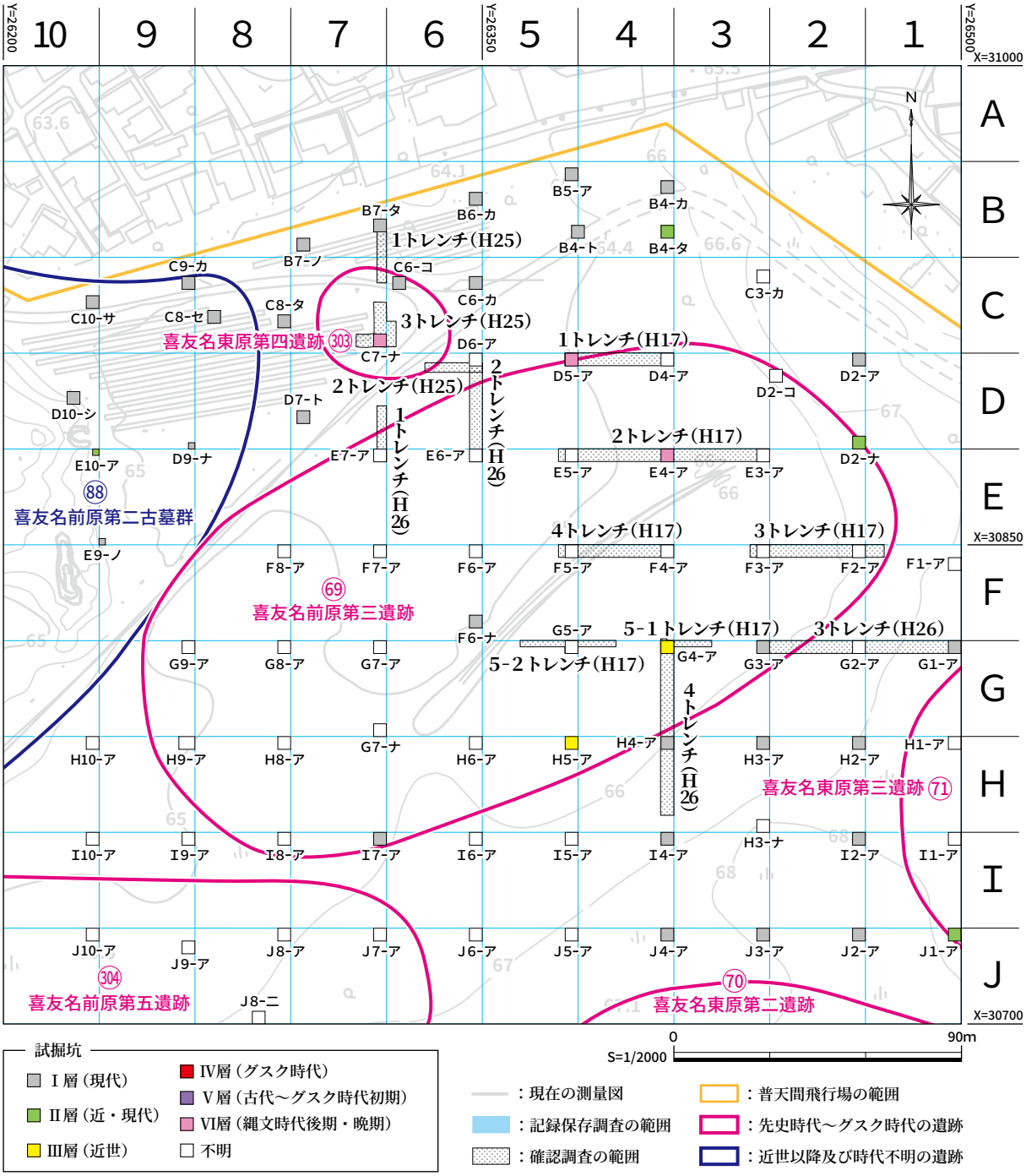
フテ14



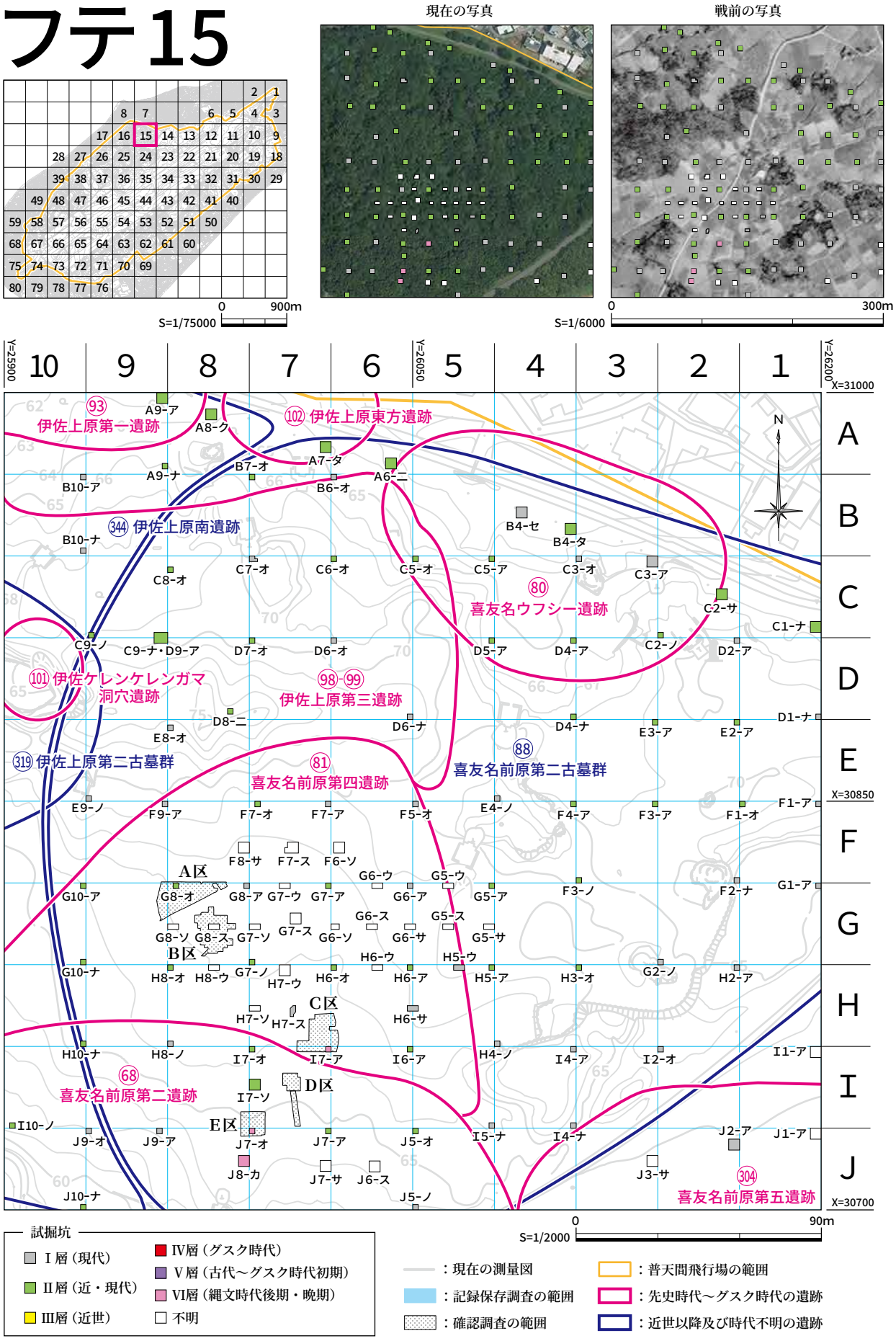
現在の写真

戦前の写真



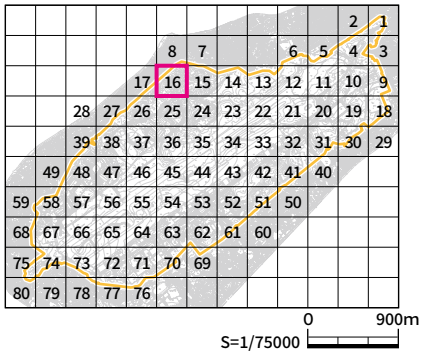


第 16 図　試掘坑配置図 フテ 14



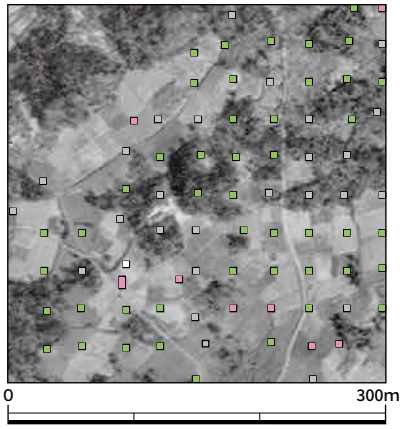
第 16 図　試掘坑配置図 フテ 15

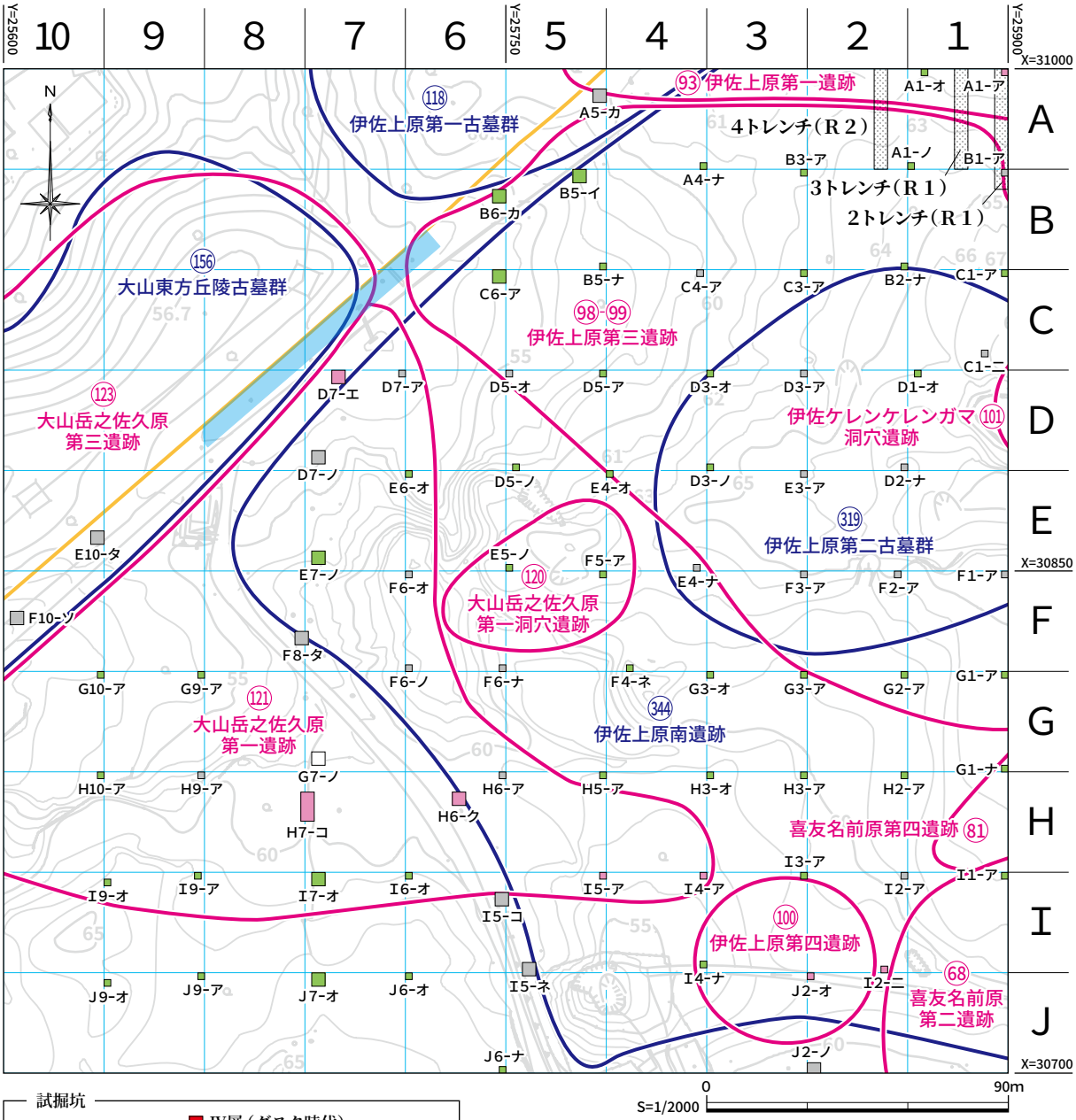
フテ16



現在の写真

戦前の写真



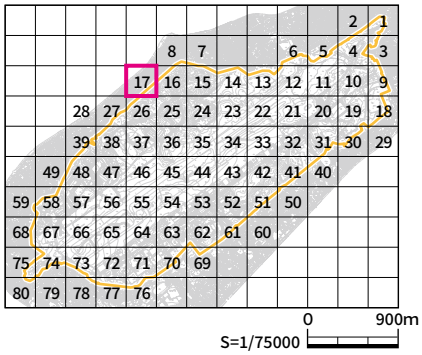


試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

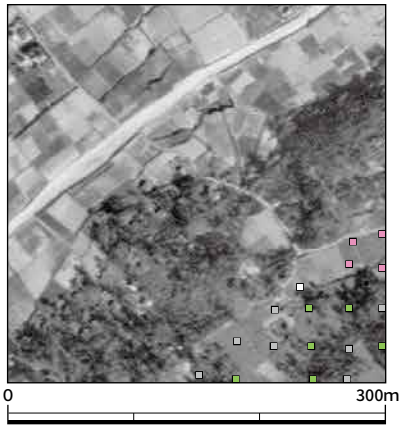
第 16 図　試掘坑配置図 フテ 16

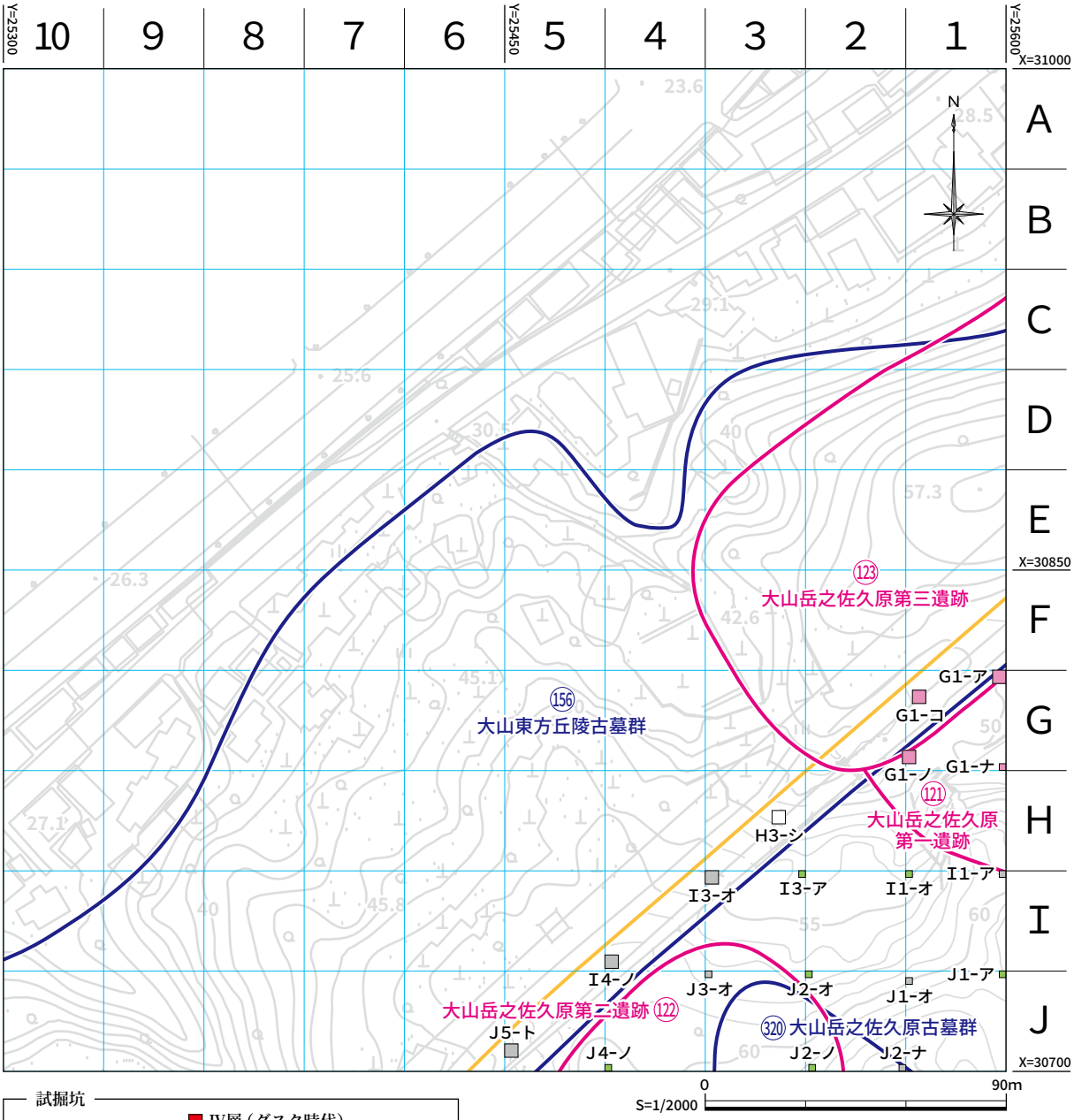
フテ17



現在の写真

戦前の写真



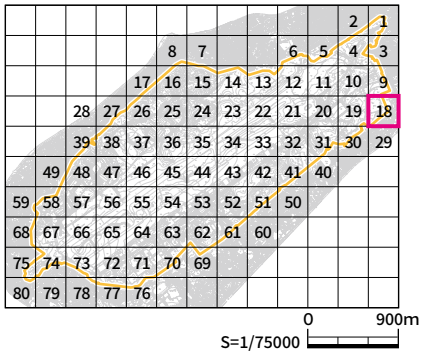


試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

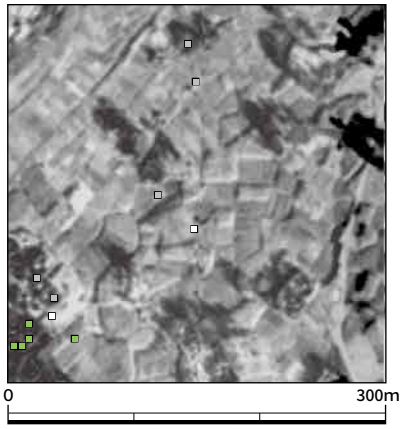
第 16 図　試掘坑配置図 フテ 17

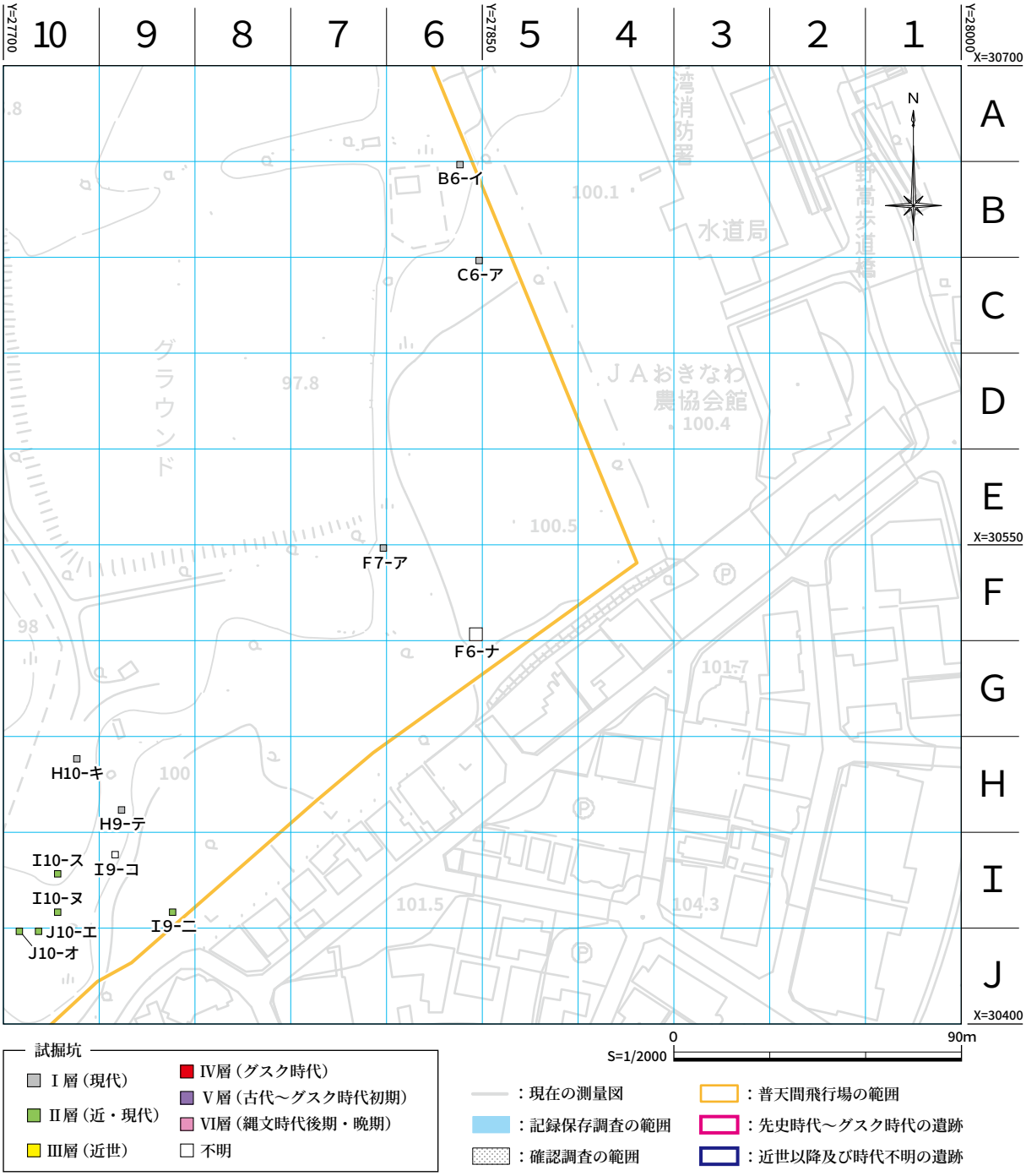
フテ18



現在の写真

戦前の写真

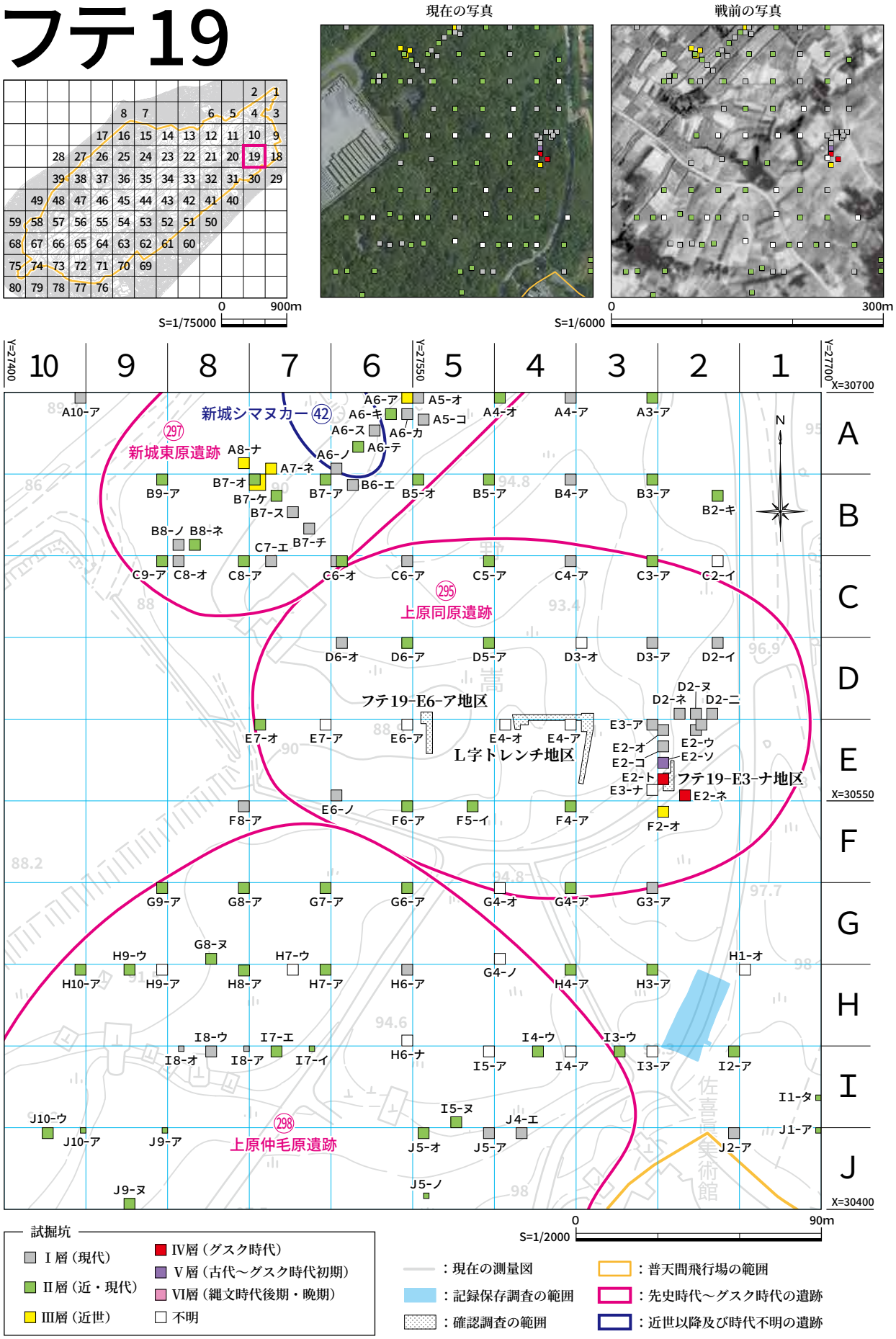




試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

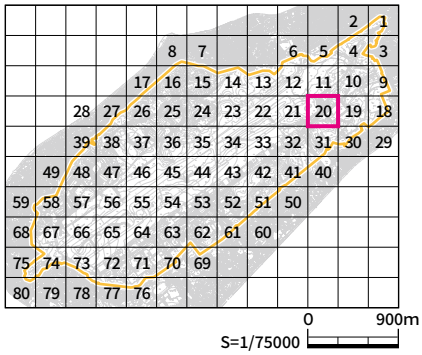
- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

第 16 図　試掘坑配置図 フテ 18



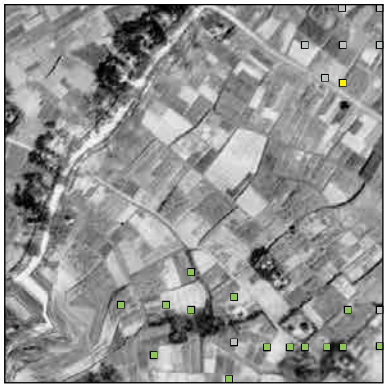
第 16 図　試掘坑配置図 フテ 19

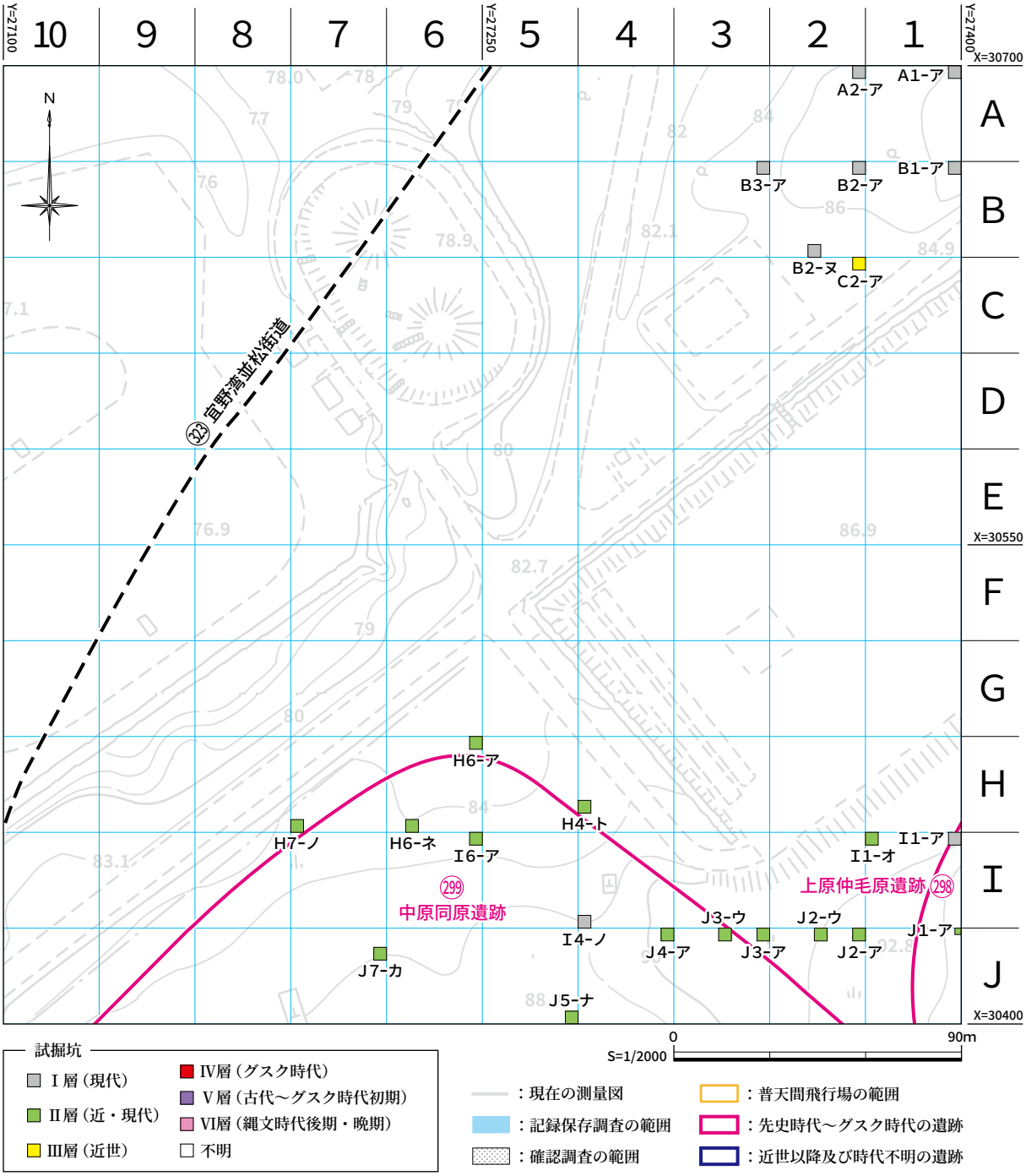
フテ20



現在の写真

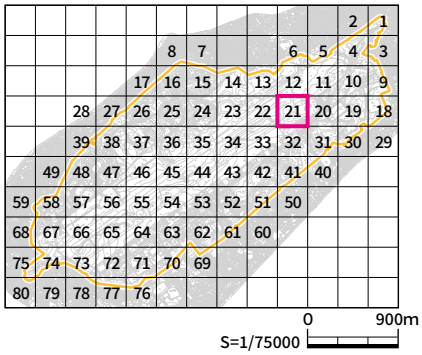
戦前の写真





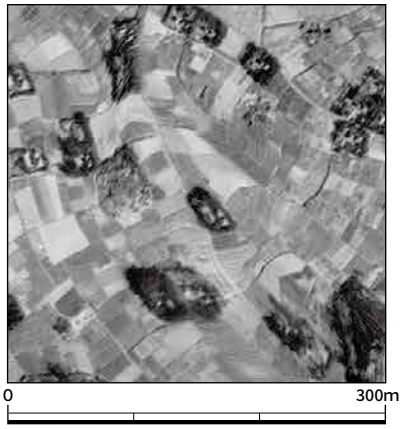
第 16 図　試掘坑配置図 フテ 20

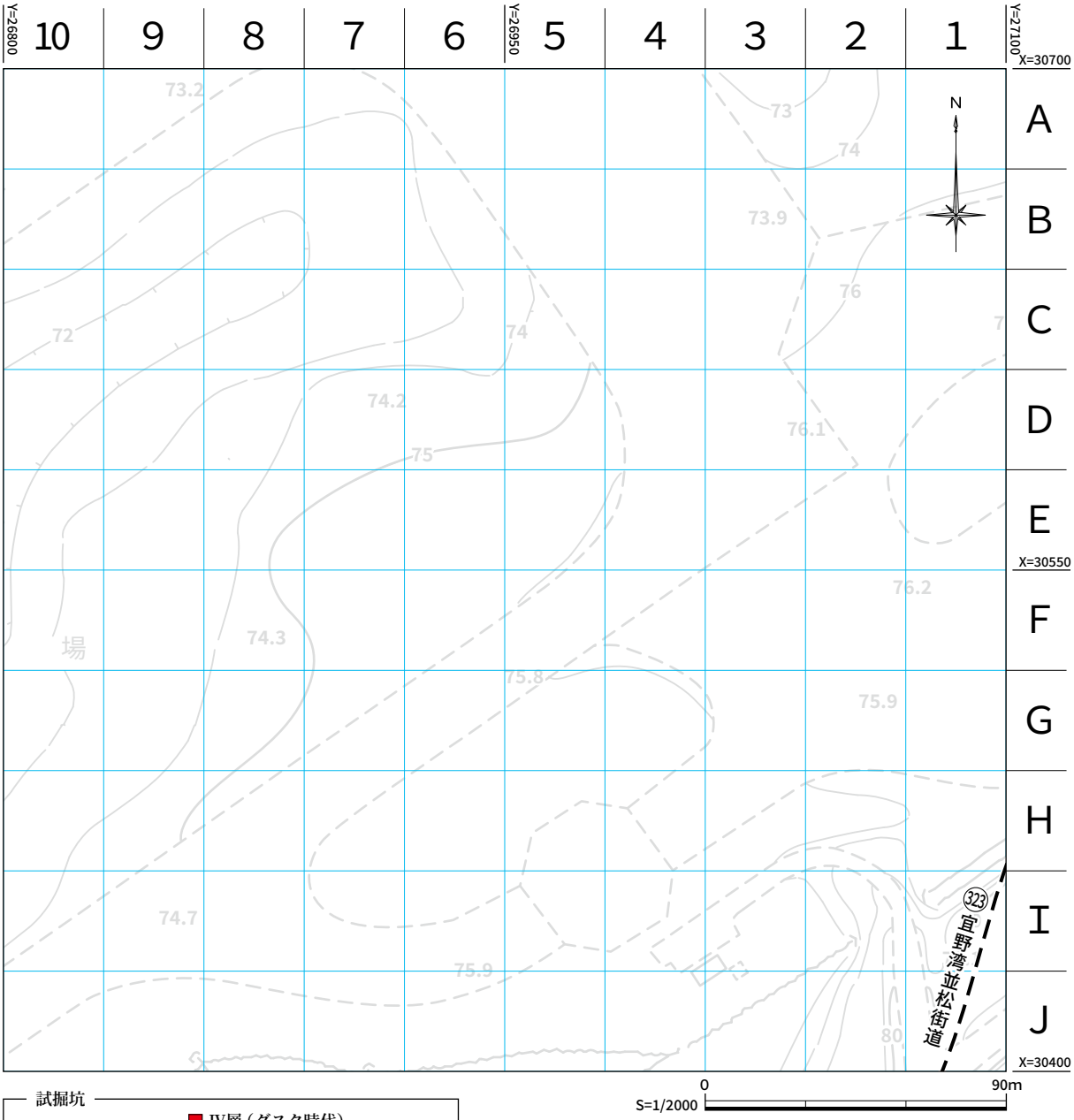
フテ21



現在の写真

戦前の写真



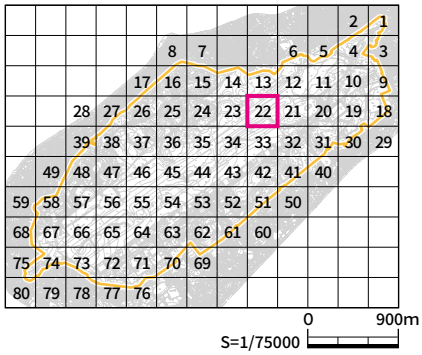


試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

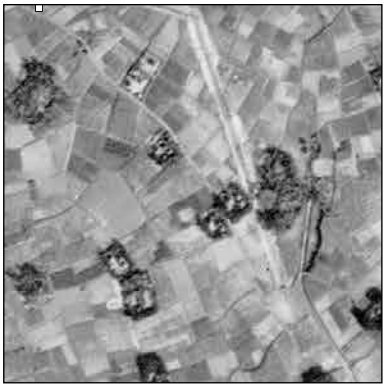
第 16 図　試掘坑配置図 フテ 21

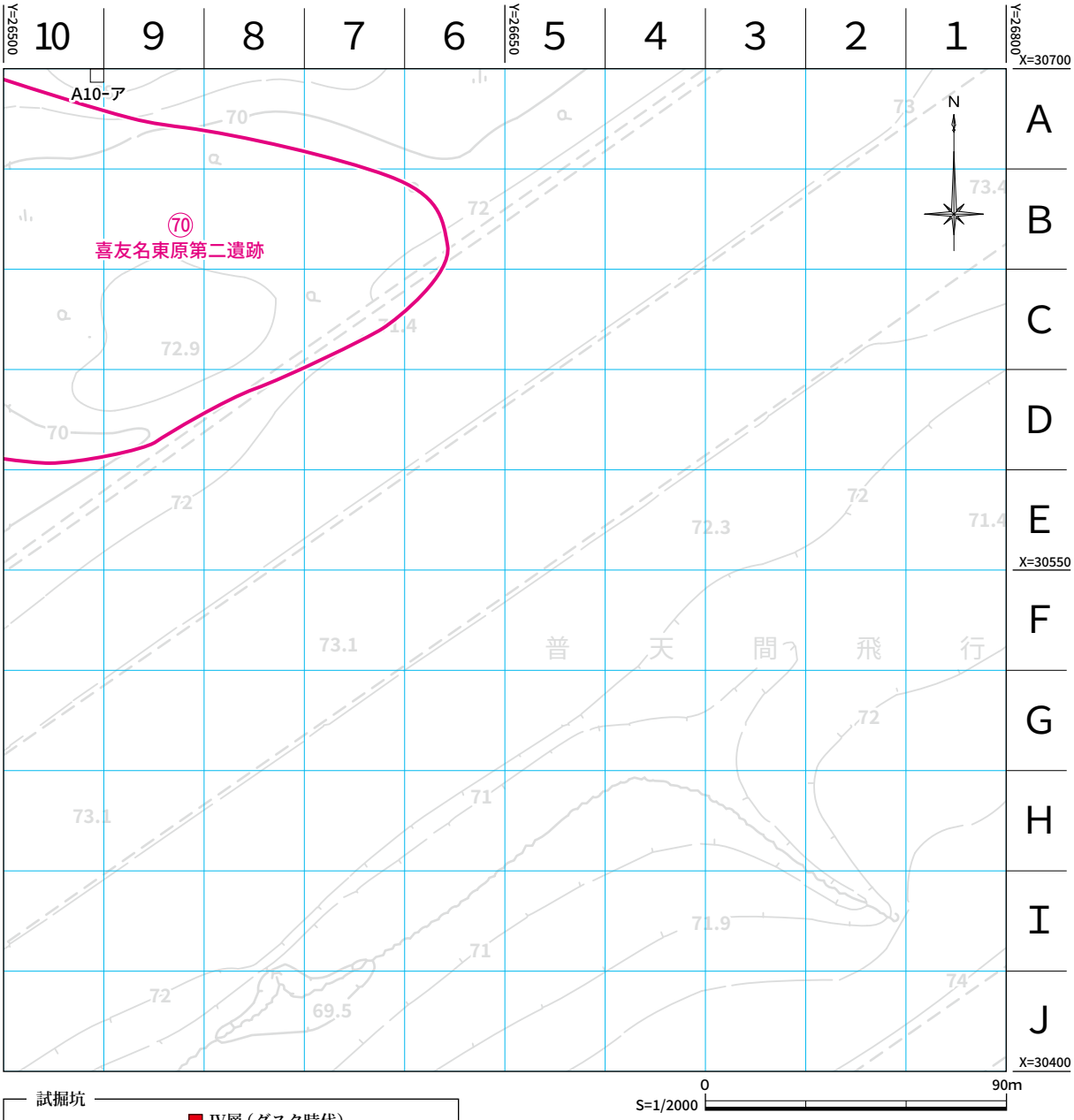
フテ22



現在の写真

戦前の写真



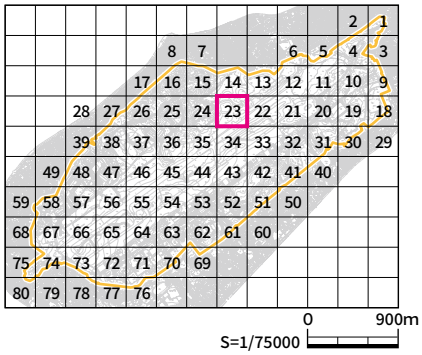


試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

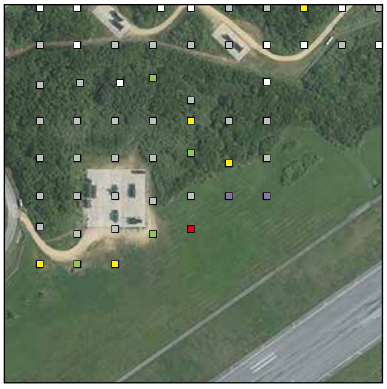
- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

第 16 図　試掘坑配置図 フテ 22

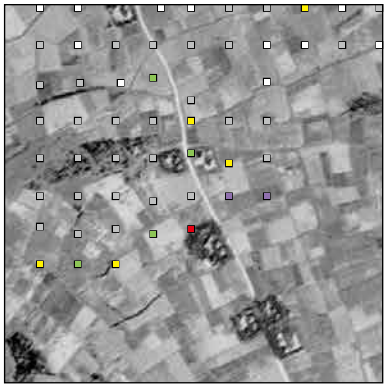
フテ23

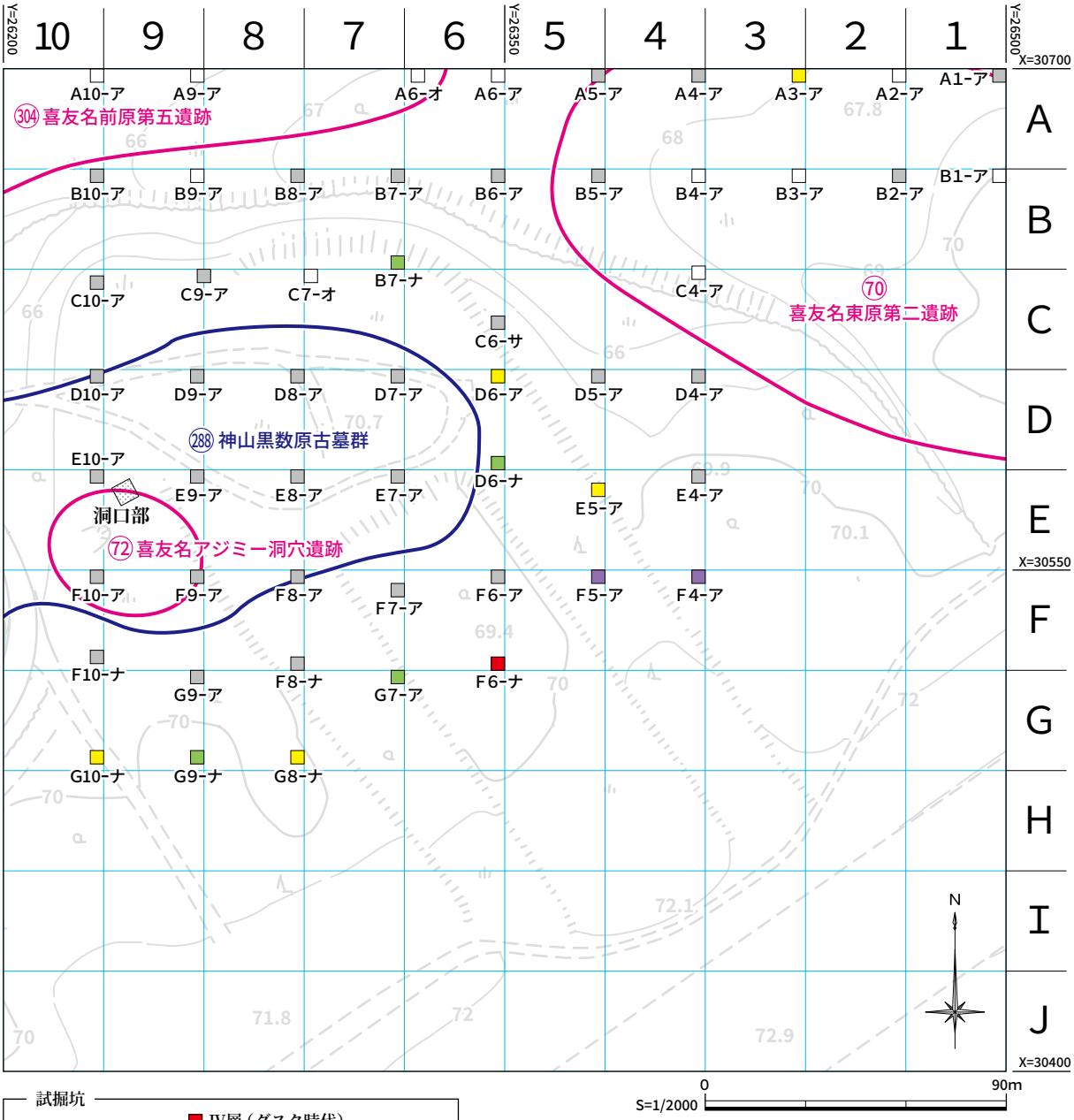


現在の写真



戦前の写真



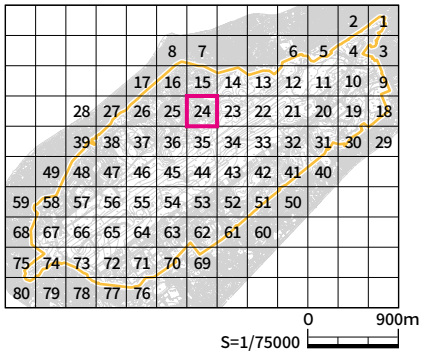


試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

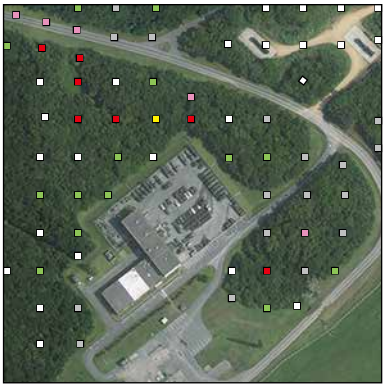
- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

第 16 図　試掘坑配置図 フテ 23

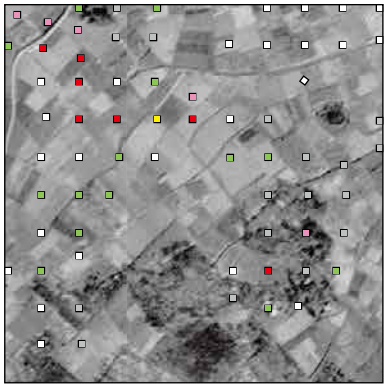
フテ24



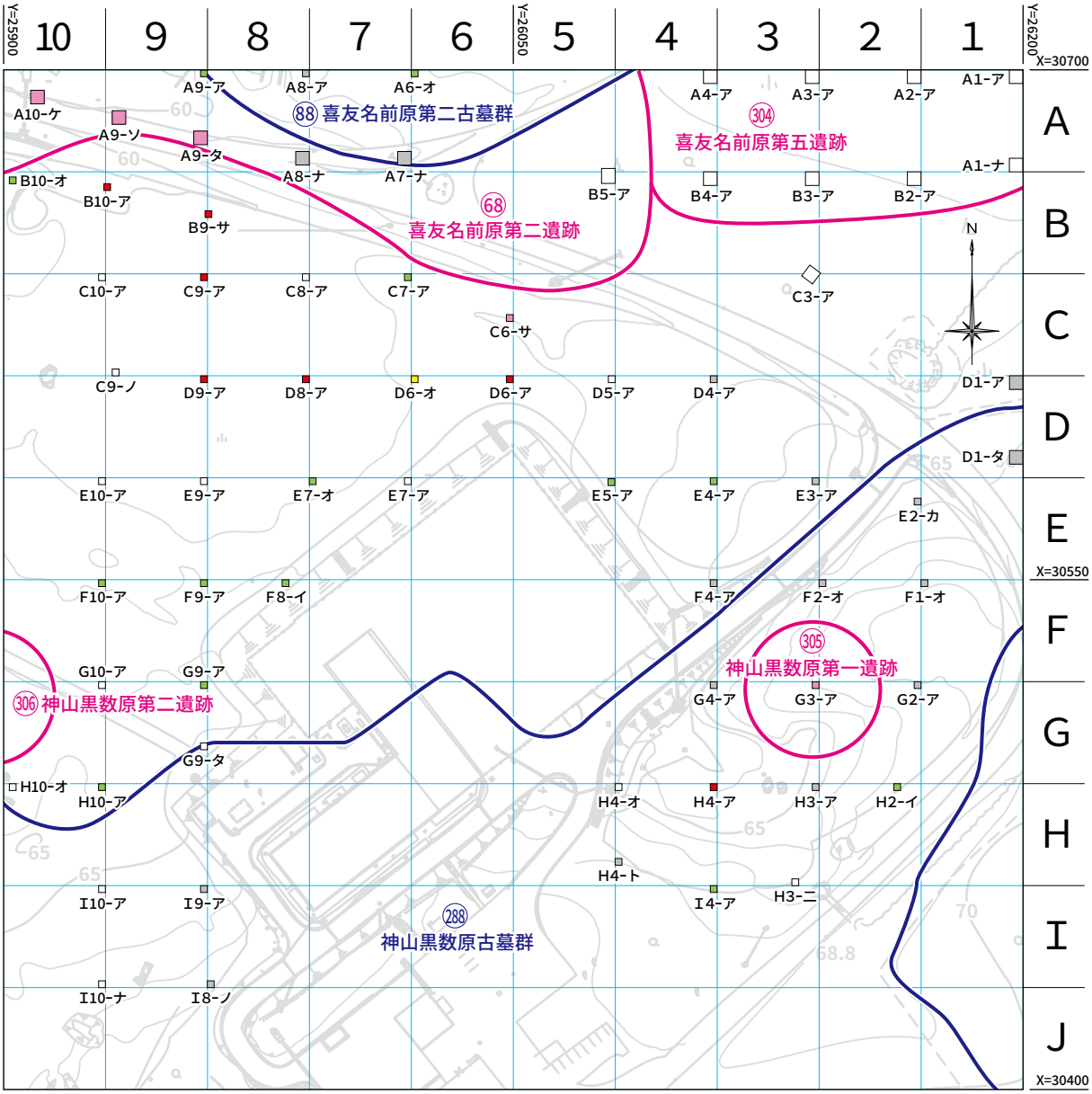
現在の写真



戦前の写真



0　300m
S=1/6000

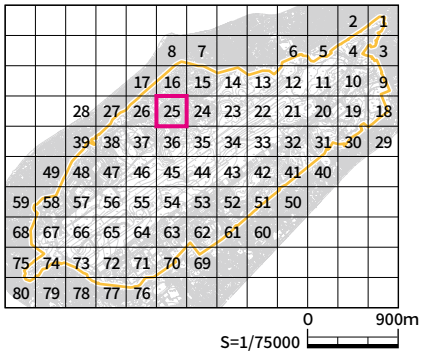


試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

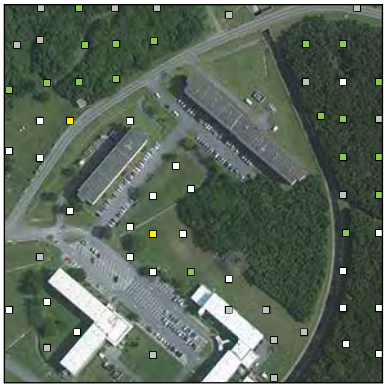
- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

第 16 図　試掘坑配置図 フテ 24

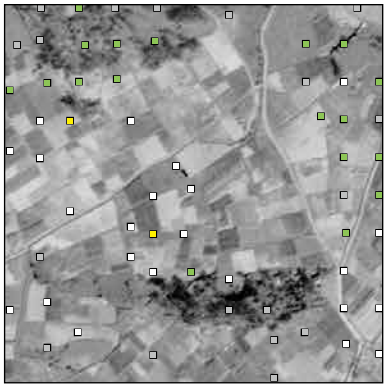
フテ25

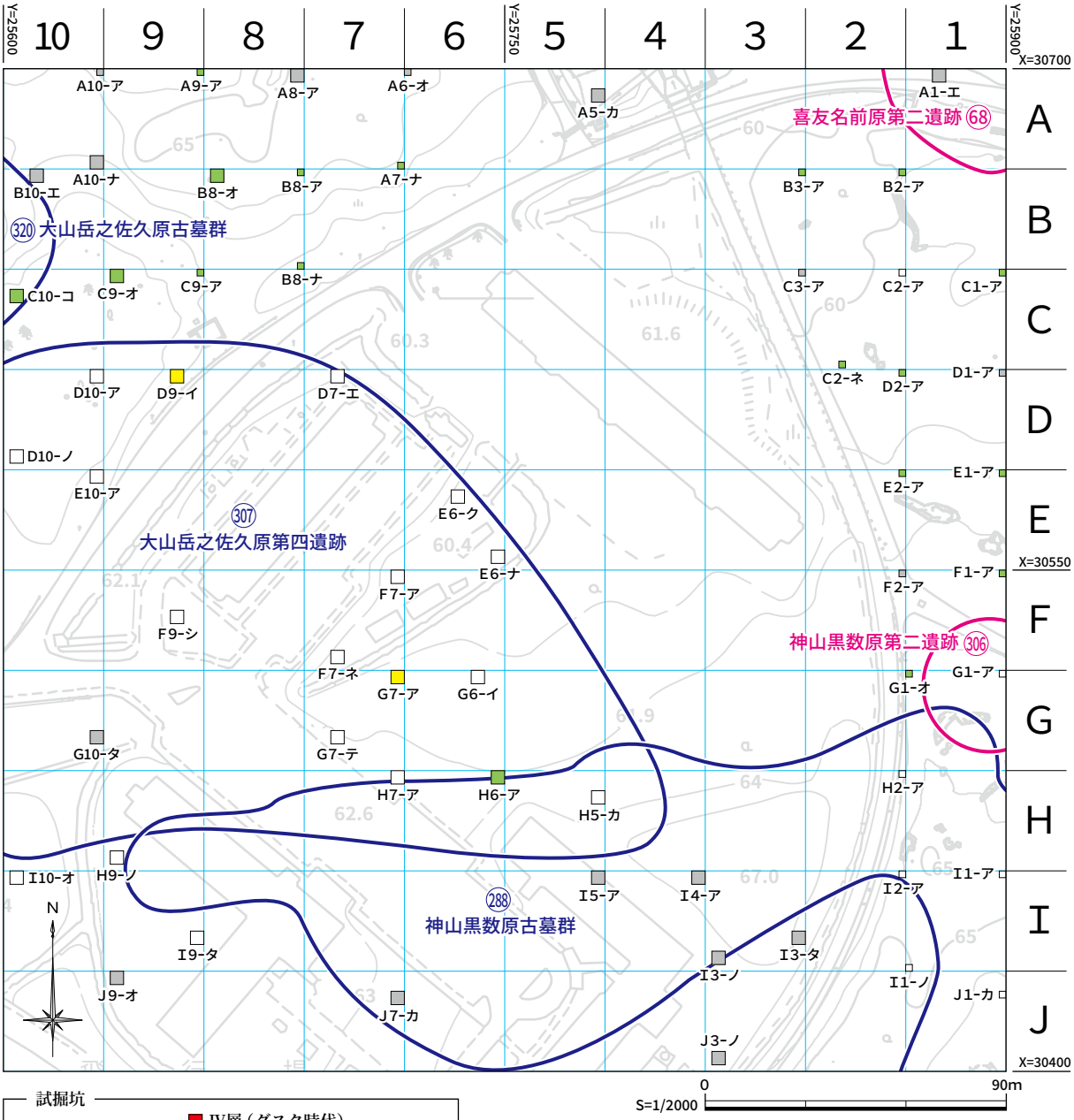


現在の写真



戦前の写真



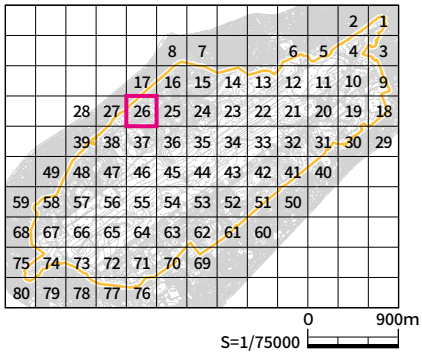


試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

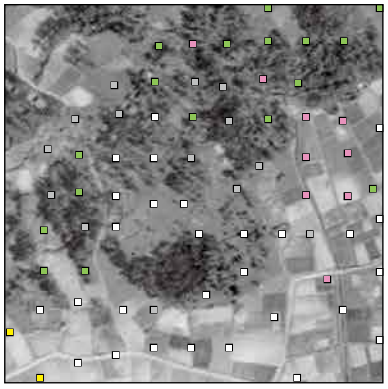
第 16 図　試掘坑配置図 フテ 25

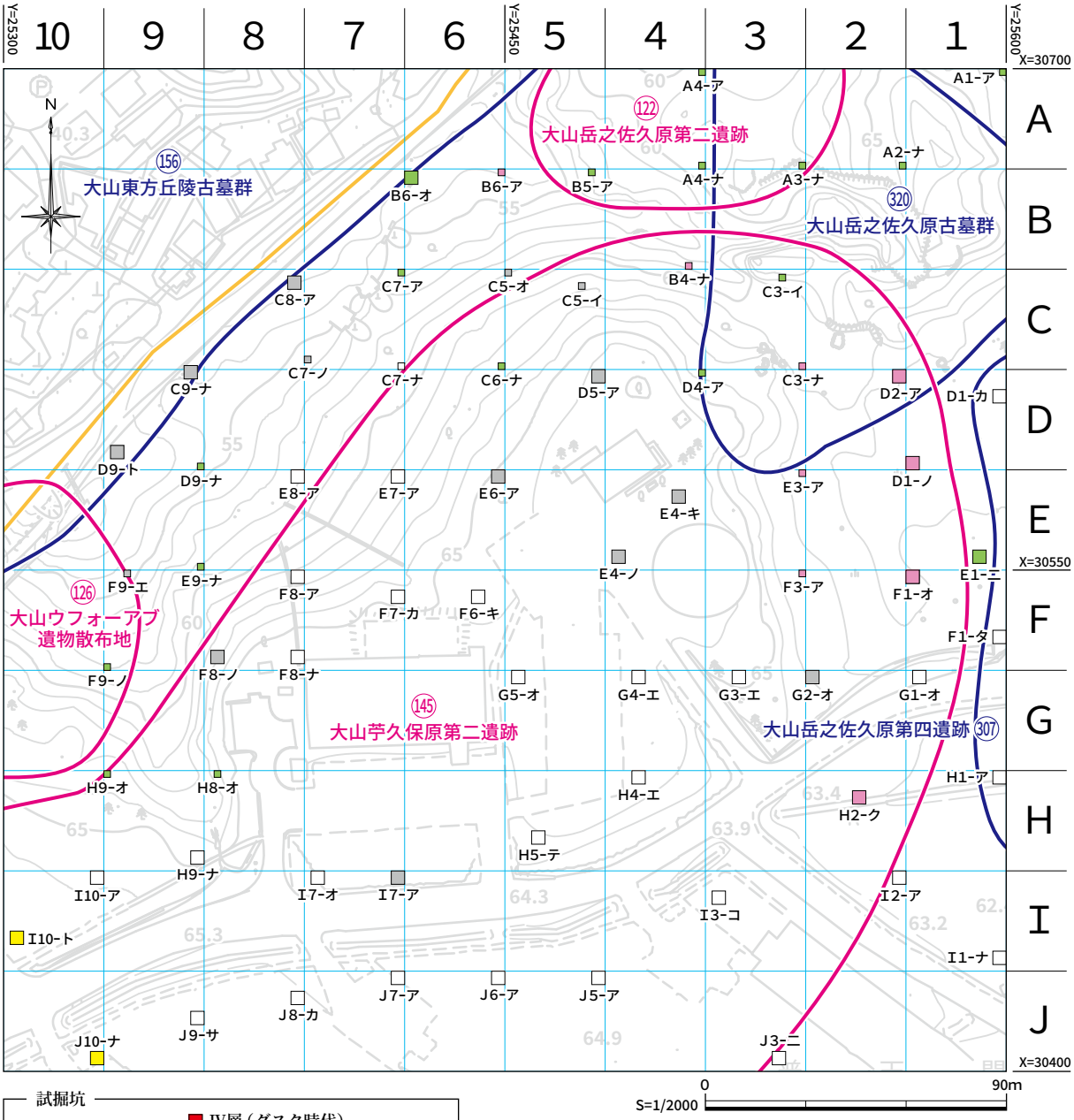
フテ26



現在の写真

戦前の写真



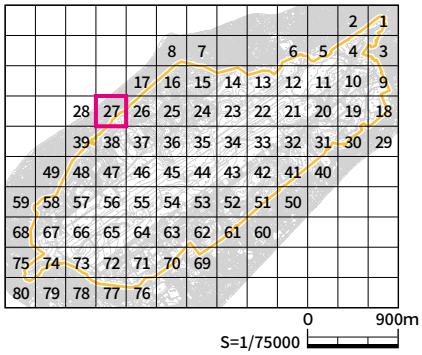


試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

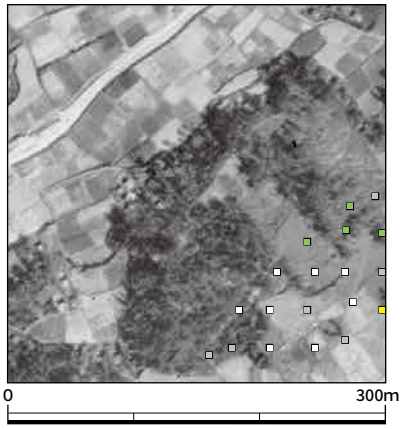
第 16 図　試掘坑配置図 フテ 26

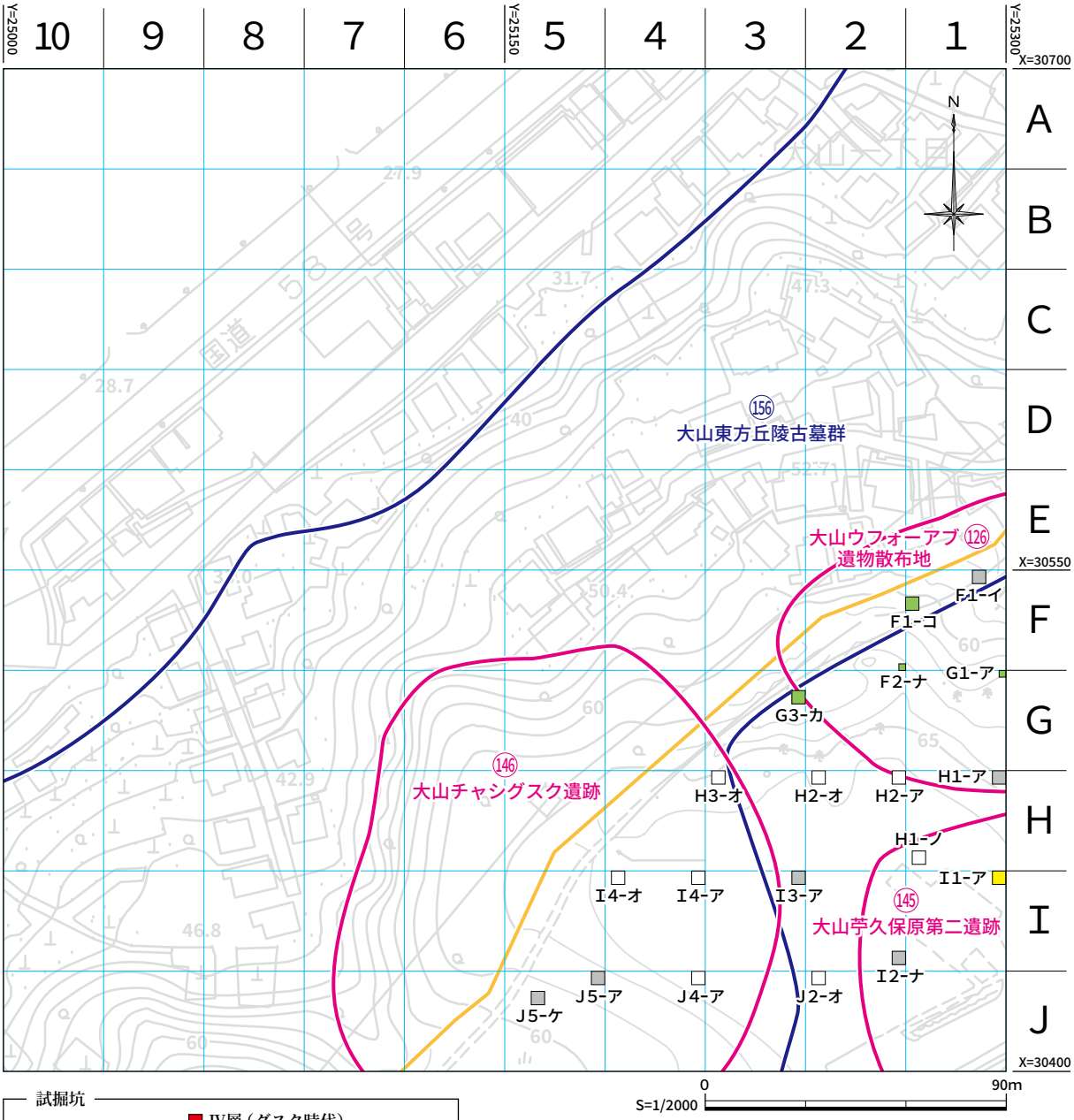
フテ27



現在の写真

戦前の写真



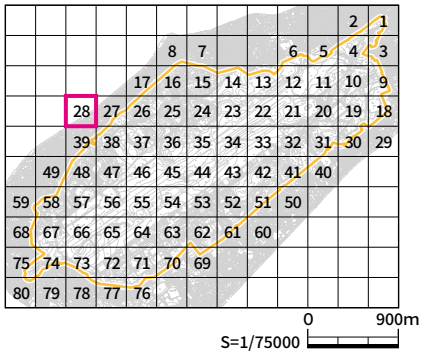


試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

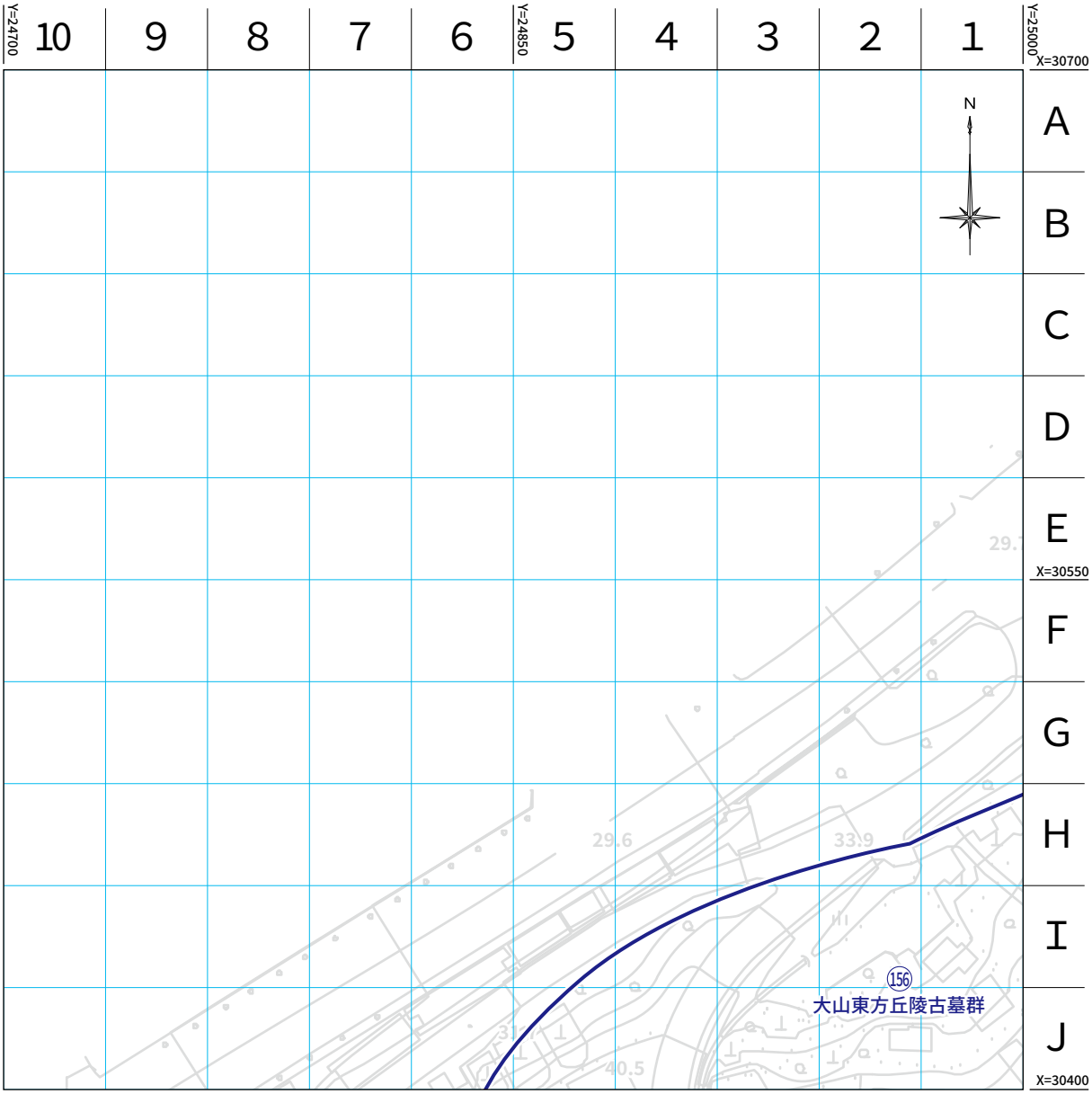
第 16 図　試掘坑配置図 フテ 27

フテ28



現在の写真

戦前の写真



試掘坑
- Ⅰ層（現代）
- Ⅱ層（近・現代）
- Ⅲ層（近世）
- Ⅳ層（グスク時代）
- Ⅴ層（古代～グスク時代初期）
- Ⅵ層（縄文時代後期・晩期）
- 不明

- ：現在の測量図
- ：記録保存調査の範囲
- ：確認調査の範囲
- ：普天間飛行場の範囲
- ：先史時代～グスク時代の遺跡
- ：近世以降及び時代不明の遺跡

第 16 図　試掘坑配置図 フテ 28